

西近津遺跡群

西近津遺跡 VIII
西近津遺跡 IX

長野県佐久市長土呂西近津遺跡 第8・9次調査

2013.3

茂木義秀
佐久市教育委員会

西近津遺跡群では、中部自動車道・市道改良・集合住宅建築などに関わり700軒を超える弥生時代後期・古墳時代・奈良・平安時代の堅穴住居址等が発掘調査されています。

国内最大級の弥生時代後期の住居址、弥生時代の大きな溝、弥生時代の周溝墓、古墳時代前期の古墳、古墳～平安時代の墓、奈良・平安時代の掘立柱建物址群などがみつかりました。

遺物も弥生時代・古墳時代～平安時代の土器や鉄器・石器が大量に出土しました。古代銅印「鉢?子私印」・「郡」と刻まれた須恵器・祭祀用の玉や鏡が発見され注目を集めています。

今回の西近津遺跡Ⅶでは、これらの時代よりさらに遡った縄文時代後期の深鉢や土偶・石棒・石剣が新たに検出されました。



下の写真縄文時代深鉢など多くの土器と土偶や石棒・石劍も出土しました。

D 2号土坑は、深鉢を正位に埋設し、内部に丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に長さ29.5cmの大型石棒が納められていました。

石棒は住居址や墓坑・土坑等からも出土しますが、土器に埋納された出土状態は極めて稀であります。深鉢と20cm離れて陽形土製品が出土しました。小さな石棒は、丸い小さな礫と並んで見つかりました。

土偶はほとんど女性像で大半が壊された状態で出土します。豊かな収穫を願う“まつり”に使われたり、生命的の再生を願って作られたともいわれています。土偶を壊すという行為の目的が探られています。

大型石棒と石皿、または大型石棒と丸石が対で数多く確認されたり、石棒の形から神靈の強い活力・生殖力・生産力がイメージされ、石棒祭儀も論じられています。

今回の調査では、墓域と推定する一帯から深鉢内に土偶と丸みをおびた礫が納められた土坑、その近くから顔面と頭部の土偶が出土しています。何らかの“まつり”的場所であったと推測できましょう。

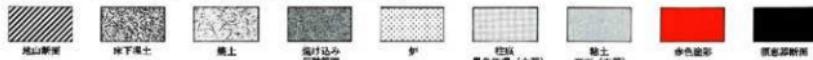


例　　言

1. 本書は、茂木義秀が行う集合住宅建築に伴う西近津遺跡群西近津遺跡VII及び西近津遺跡IXの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市塚原382番地1 茂木義秀
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 土屋盛夫
4. 遺跡名及び所在地 西近津遺跡VII (NTVII) 佐久市長土呂1796-2、1796-4
西近津遺跡IX (NTIX) 佐久市長土呂1764-1、1764-15
5. 調査期間及び面積 西近津遺跡VII (NTVII)
発掘調査 平成22年 9月27日～平成22年11月26日
整理調査 平成23年12月26日～平成24年 3月18日
平成24年 4月10日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 1,500m² 調査面積 598m²
西近津遺跡IX (NTIX)
発掘調査 平成23年11月24日～平成23年12月08日
整理調査 平成23年12月 7日～平成24年 3月18日
平成24年 6月29日～平成25年 3月 報告書刊行
開発面積 407m² 調査面積 170m²
6. 発掘調査の担当
西近津遺跡VII (NTVII) 林幸彦・佐々木宗昭
西近津遺跡IX (NTIX) 上原 学
7. 本書及び関係資料等は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡　　例

1. 遺構の略記号は、竪穴住居址—H 挖立柱建物址—F 円形周溝墓—O T 土坑—D
溝状遺構—M ピット—P である。
2. 掘図の縮尺は、遺構1/80・遺物1/4が基本である。掘図毎にスケールを示した。
3. 遺構の海拔標高は各遺構毎に統一し、水糸標高を標高として記した。
4. 土層の色調は1988年版「新版 標準土色帖」に基づいた。
5. 遺物掘図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区は公共座標の区割りにしたがい、間隔は4m×4mに設定した。
7. 遺構名は変更等により欠番が生じている。
8. 掘図中のスクリントーンは、以下のことを示す。



9. 住居址の区割りは、右図のとおりである。

目 次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

第1節 経過と周辺遺跡	1
第2節 調査体制	2
第Ⅱ章 西近津遺跡Ⅷ	2
第1節 調査体制	2
第2節 調査日誌	2
第3節 基本層序	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	2
第5節 壴穴住居址	2
第6節 土坑	51
第7節 円形周溝墓	62
第8節 溝状遺構	63
第9節 ピット	65
第10節 遺構外出土遺物	69

図版

第Ⅲ章 西近津遺跡IX	137
第1節 調査体制	137
第2節 調査日誌	137
第3節 発見された遺構・遺物	138
第4節 壴穴住居址	139
第5節 堀立柱建物址	145
第6節 ピット	146

図版

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 経過と周辺遺跡

西近津遺跡群は、佐久・小諸両市境を南西に流下する湧玉川左岸の田切り台地上に立地し、標高は700～713mを測る。台地の南・東側は、浅い低地で周防畠遺跡群と画されている。近津神社西からJR小海線に至る大きな遺跡群で、縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世の遺構や遺物が多く知られている。鷲林城跡が西端にある。

今回の調査地点に近接した長野県埋蔵文化財センターが行った中部横断自動車道に関する発掘調査では、500軒を超える弥生時代後期・古墳時代・奈良・平安時代等の堅穴住居址をはじめ、国内最大級の弥生時代後期の住居址や古代銅印「銘子私印」が発見され注目を集めている。

付近の市道改良工事に先立つ発掘調査では、約100軒の堅穴住居址（弥生後期～平安時代）等が検出されている。本調査地点の西に接する西近津遺跡IVでは弥生後期～平安時代の多くの堅穴住居址や縄文時代中期末～後期の土坑と遺物が多数検出されている。

茂木義秀氏の行う集合住宅建築に伴い、平成22年度に西近津遺跡Ⅶ、平成22年度に西近津遺跡IXの記録保存調査を実施した。



第1図 西近津遺跡Ⅳ・IX位置図 (1:50,000)



第2図 西近津遺跡Ⅶ・IX周辺遺跡 (1:10,000)

2. 調査体制

調査主体者 佐久市教育委員会 教育長 土屋 盛夫（平成21年7月就任）

事務局社会教育部長 工藤 秀康(平成22年度) 伊藤 明弘(平成23・24年度)
 社会教育部次長 藤巻 浩(平成23年度)
 文化財課長 森角 吉晴(平成22年度) 古澤 隆(平成23・24年度)
 文化財係長 三石 宗一
 文化財調査係専門員 林 幸彦(平成22・23年度) 須藤 隆司 小林 真寿 羽毛田卓也
 富沢 一明(平成23・24年度) 上原 学(平成23・24年度)
 文化財調査係 並木 節子 富沢 一明(平成22年度) 上原 学(平成22年度)
 神津 和明(平成23年10月～) 井山 泰章(～平成23年9月)
 出澤 力(～平成23年6月) 久保 浩一郎(平成24年度)

第II章 西近津遺跡VIII

1. 調査体制

調査担当者 林 幸彦 佐々木宗昭
 調査副主任 堀 益子
 調査員 赤羽根充江 浅沼 勝男 磯貝 律子 市川 光吉 岩崎 重子 岩松 茂年
 白田 純佳 加藤ひろ美 狩野小百合 神津 和子 神津 千春 小林 節子
 小林 千勝 清水 律子 副島 充子 田中ひさ子 土屋 邦子 中山 清美
 花里佐恵子 広瀬梨恵子 堀籠 保子 依田 三男 柳沢 孝子

2. 調査日誌

平成22年 9月24日 器材搬入。 9月27日 重機による表土除去。遺構確認。
 10月 1日 測量基準杭打設、遺構掘り下げ開始・隨時記録作業。
 11月24日 現場作業終了。 11月26日 器材撤収。
 平成23年 1月16日 室内整理調査開始。図面・写真等記録の整理及び修正。遺物洗浄・注記・接合
 平成23年 4月25日～平成24年11月26日 実測・写真撮影。原稿の執筆、報告書の作成。
 平成25年 3月 報告書刊行をもって調査終了。

3. 基本層序

古墳～平安時代の遺構は、第IV層の上面で確認された。第IV層・第V層の上部は、縄文時代の遺物を包含する。調査区の北東部は、第I層直下が遺構確認面であった。第VI層の上部5～10cmは黄褐色土以下にぶい黄褐色土さらに堅く締まるにぶい褐色土がみられた。

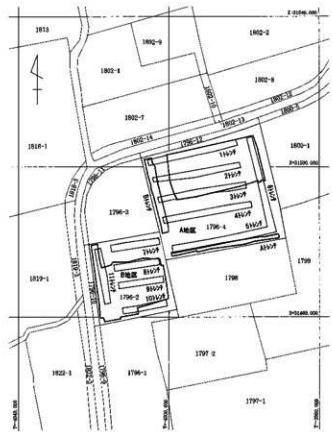
4. 検出遺構・遺物の概要

遺構 壴穴住居址25軒（縄文時代中期後半・後期前半、弥生時代後期、古墳～平安時代）
 円形周溝墓 3基、上坑37基、溝状遺構 3条、ピット202基
 遺物 縄文中期後半・後期前半土器、弥生後期土器、土師器、須恵器、土製品（円盤・土偶等）
 鉄製品（紡錘車・刀子等）、石製品（打製石斧・磨製石斧・打製石鏃・石棒・凹み石等）

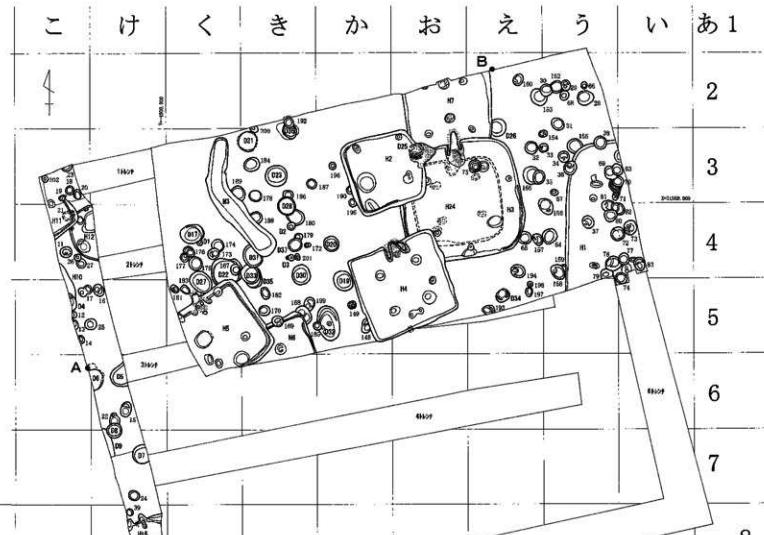
5. 壴穴住居址

(1) H 1号住居址

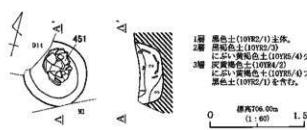
I 区東端い・う-3・4 Grにあり、P 36～38、P 63、P 69～74、P 77～83に切られ、P 159を切る。炉は主柱穴P 1の東脇と住居址中央に、2基ある。炉1は地床炉で10cm程度掘りこまれ、炉2は明確な掘り込みはない。ピットは8個検出され、P 1～P 3の主柱穴と棟持柱P 4、さらにP 6から五平状柱痕が確認された。P 7・P 8は床面下から確認され、旧い出入口施設で南側への住居拡張も考えられる。



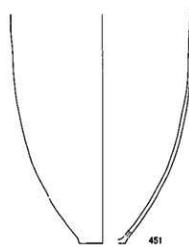
西近津遺跡VI調査範囲(1:1,000)



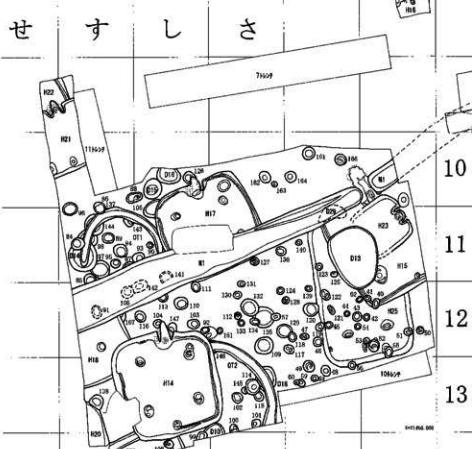
西近津遺跡Ⅶ調査全体図(1:200)



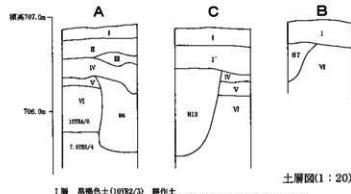
1層 黒色土(10YR2/1)主体。
 2層 黑褐色土(10YR2/3)
 に5-7 黃褐色土(10YR5/4)少量含む
 3層 灰黒褐色土(10YR4/2)
 に5-7 黃褐色土(10YR5/4)プロック
 黑色土(10YR2/1)を含む。



ROZER



13



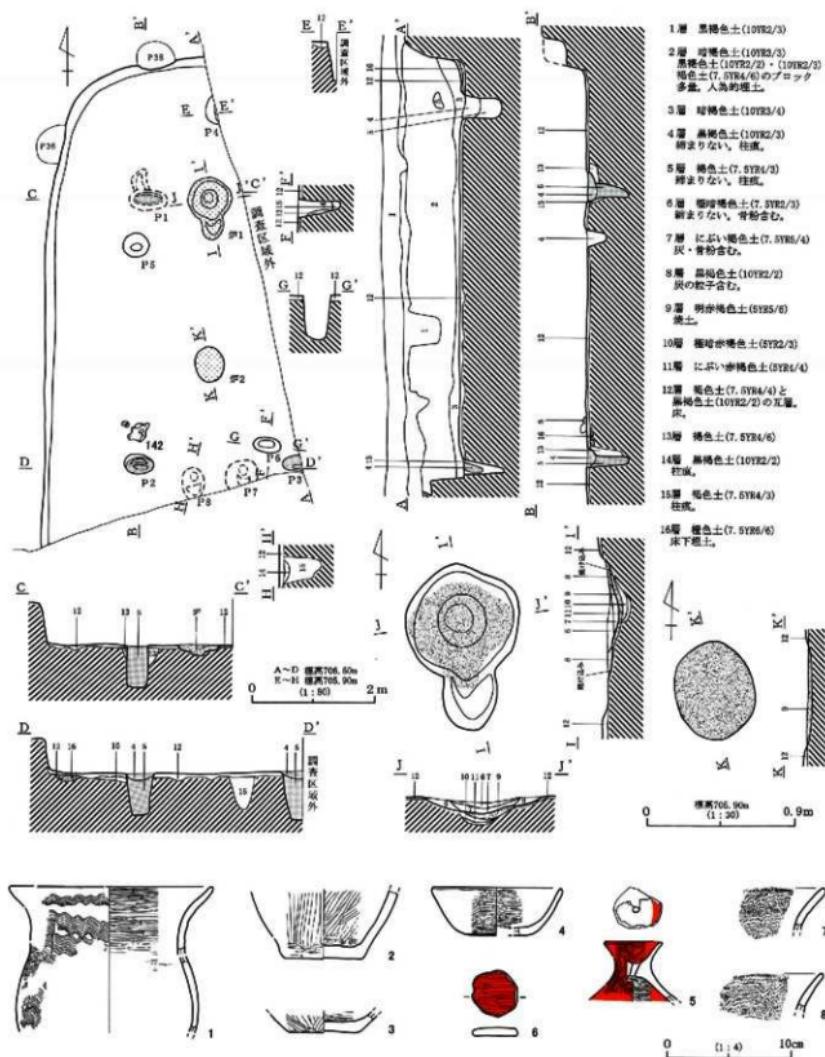
土壤图(1:20)

土層図(1:20)

(3) 製作土
 (3) ピニール片等含む粗混層(3レバ西側に偏左)
 (2) 小円礫少量
 (2) 粒子細かく、粘性やや有り
 (1) 粘性やや有り、黃褐色(1070R/6)の板状少量
 (1) 灰白色(1085R/3)の板状多量、黃褐色(1070R/6)の板状少量
 (6) 白色(1085R/3)の板状多量、黃褐色(1070R/6)の板状少量
 (5) 黄褐色(1070R/6)に、灰白色(1085R/3)を含む板状少量

第3圖4 西新津遺跡W調査実験開闢(1:1000); 調査全体図(1:200); 土層図(1:20)

床は堅く平坦。覆土3層は人為的埋土。遺物は赤彩の壺・甕・無彩の鉢・赤彩の蓋・土製円板(赤彩の壺転用)等の弥生土器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・ミニチュア土器・土製円板(深鉢等の転用)がある。多数出土した石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。

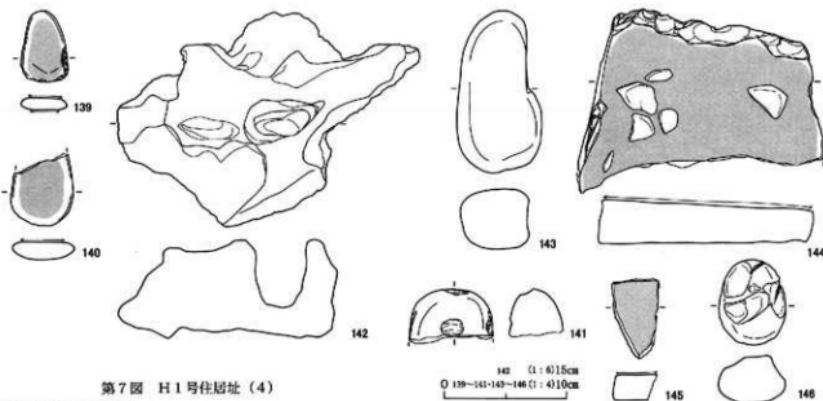




第5図 II 1号住居址 (2)



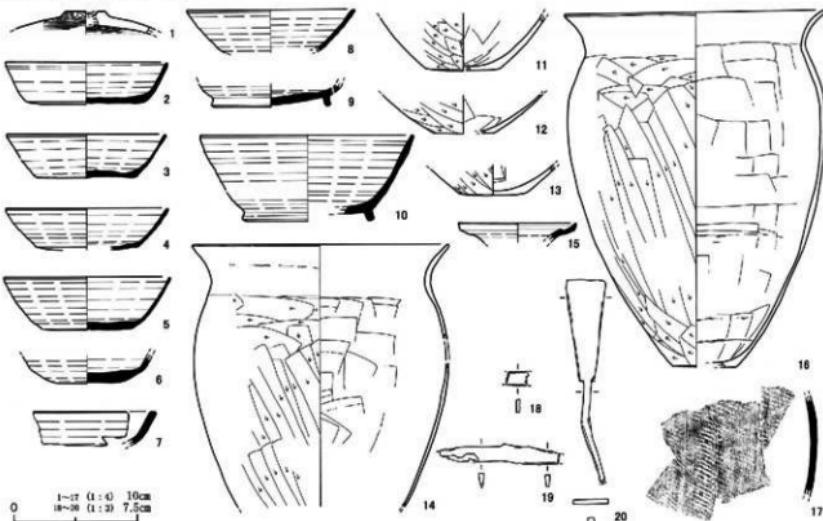
第6図 H1号住居址(3)



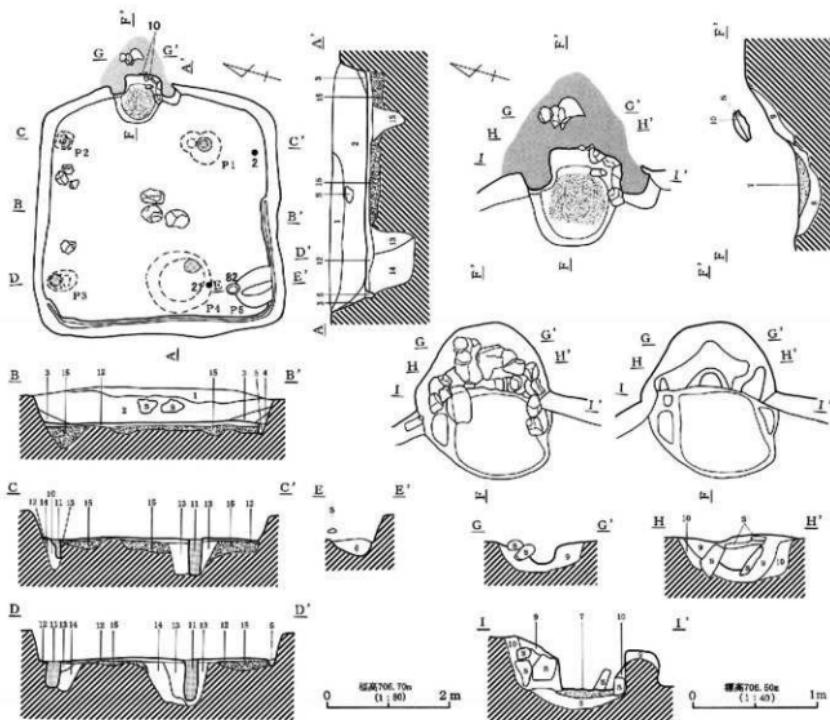
第7図 H1号住居址(4)

(2)H2号住居址

I区北・か-3・4 Grにあり、H3・H7・H24・D25・P190・P195を切る。カマドは東壁中央に、粘土と面取輕石・安山岩・熔結凝灰岩等で構築されている。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴等5個検出された。床は堅く平坦。南壁中央～西壁下を壁溝が巡る。覆土2層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鐵器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部すべてヘラ成形・調整痕ある須恵器壺(2～6)・高台壺(9・10)、口径と胸部最大径がほぼ等しい武藏壺(14・16・23)、鐵器は刀子(19)、鎌身平面形斧箭で造込まれた鉄鎌がある(20)。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原奈良・平安時代Ⅱ期-8世紀前半(第2四半期))に位置づけられる。

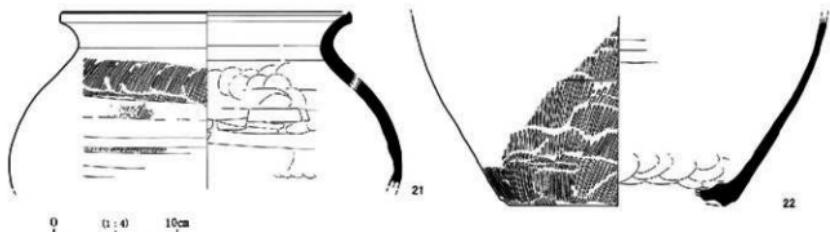


第8図 H2号住居址(1)

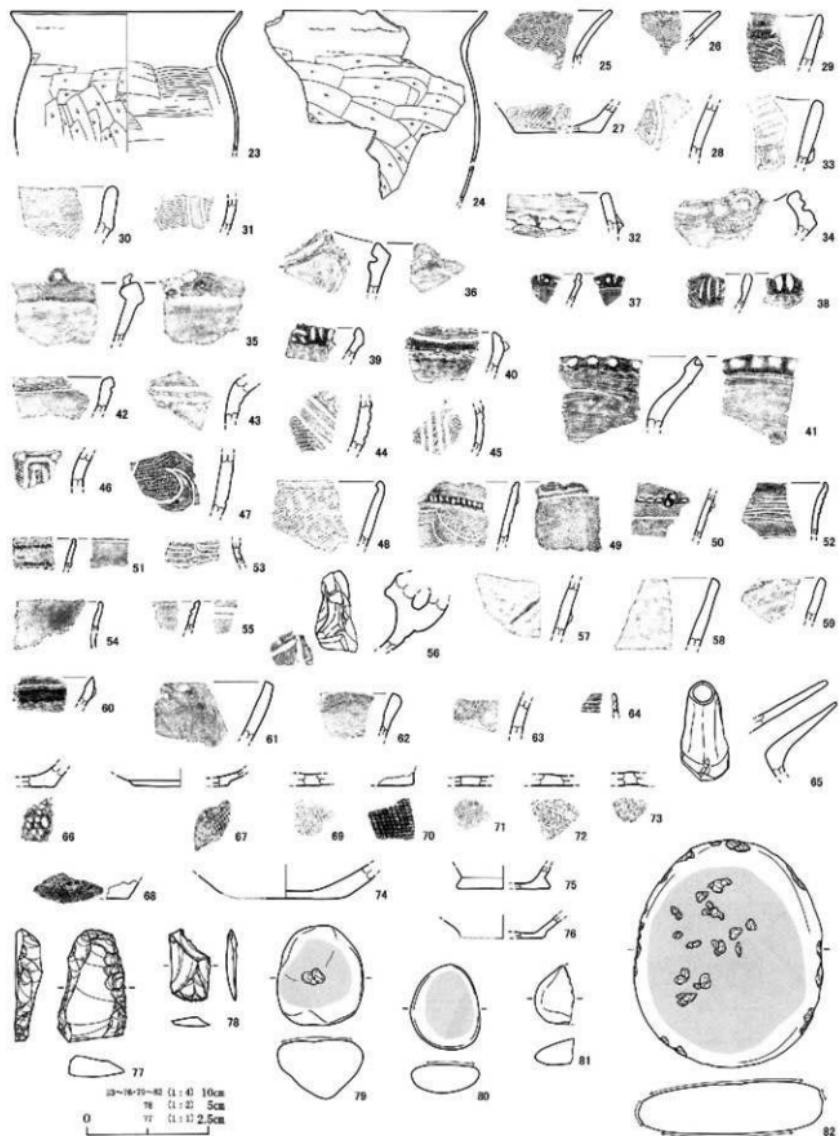


- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 形質土多量、耕さりない。自然堆積。
 2層 黒褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR3/2)と褐褐色土(10YR2/6)の小ブロッケ多量。30~40cmのX線断面観察。安山岩7枚含む。人為的堆積。
 3層 黒褐色土(10YR3/2) 粘性土や有り。
 4層 黄褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR6/6) ブロック含む。
 5層 黑褐色土(10YR3/6) ブロック多量。
 6層 黑褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR6/6)の小ブロック多量。
 7層 明褐色土(7.5YR4/6) 淡灰、火灰。
 8層 黑褐色土(SYR4/1) 鳴光色土(7.5YR2/1)の粘土少量含む。

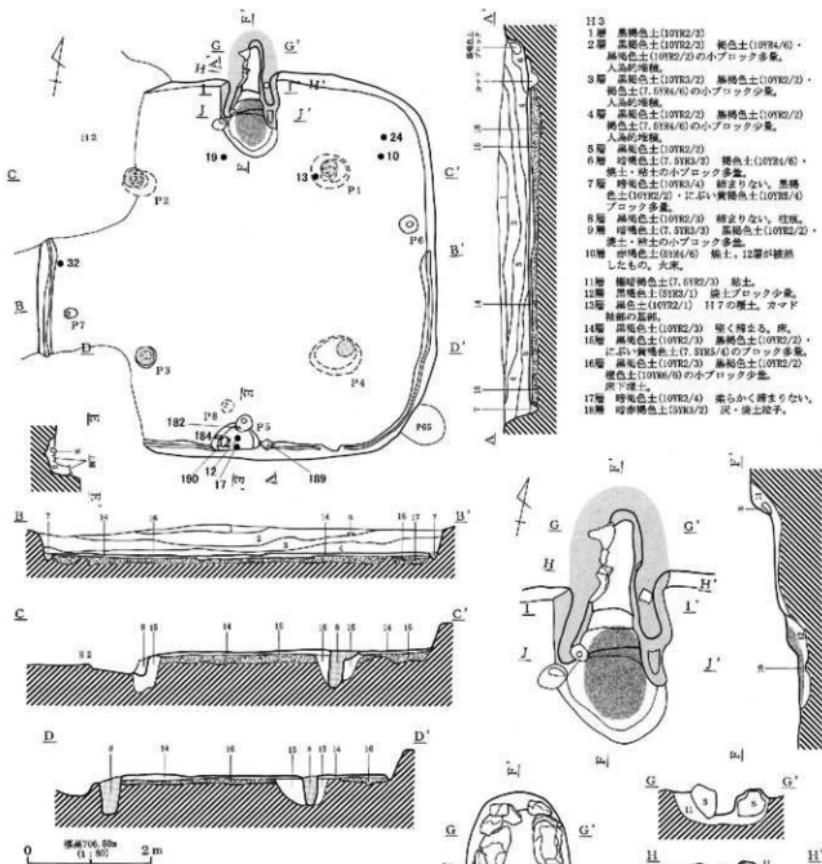
- 9層 黒褐色土(7.5YR3/1) 楊灰色土(7.5YR4/1)の粘土が主で黒褐色土(10YR2/2)が含まれる。
 10層 黑褐色土(10YR2/2) 耕さりない。
 11層 黑褐色土(10YR2/2) 耕さりない。柱状。
 12層 黑褐色土(10YR5/6)と褐褐色土(10YR2/3)が互層となる部分がある。藍く締まる風。
 13層 明褐色土(10YR3/3) 明褐色土(7.5YR4/6)、黑褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量含む。耕さりない。ビットの塵土。
 14層 明褐色土(10YR3/3) 明褐色土(7.5YR4/6)、黑褐色土(10YR2/2)の大ブロック多量含む。耕さりない。
 15層 明褐色土(7.5YR4/6)、暗褐色土(10YR3/3) 底下の堆土。



第9図 H2号住居址 (2)



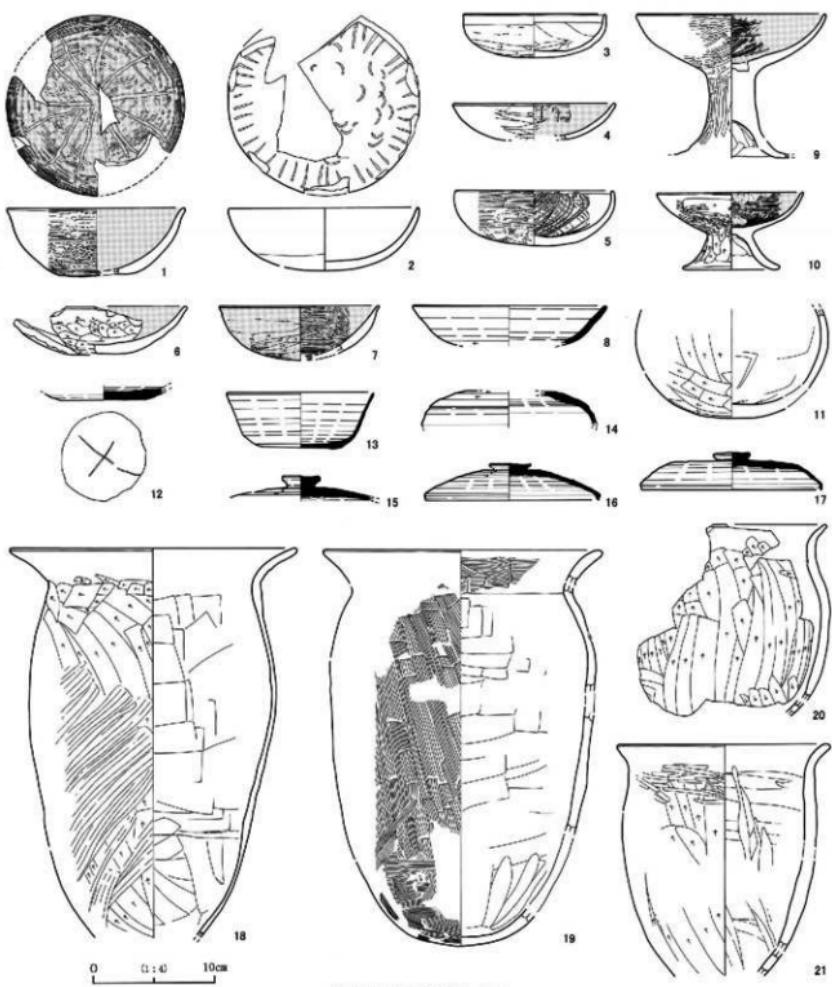
第10圖 H2號住居址 (3)



(3) H3号住居址

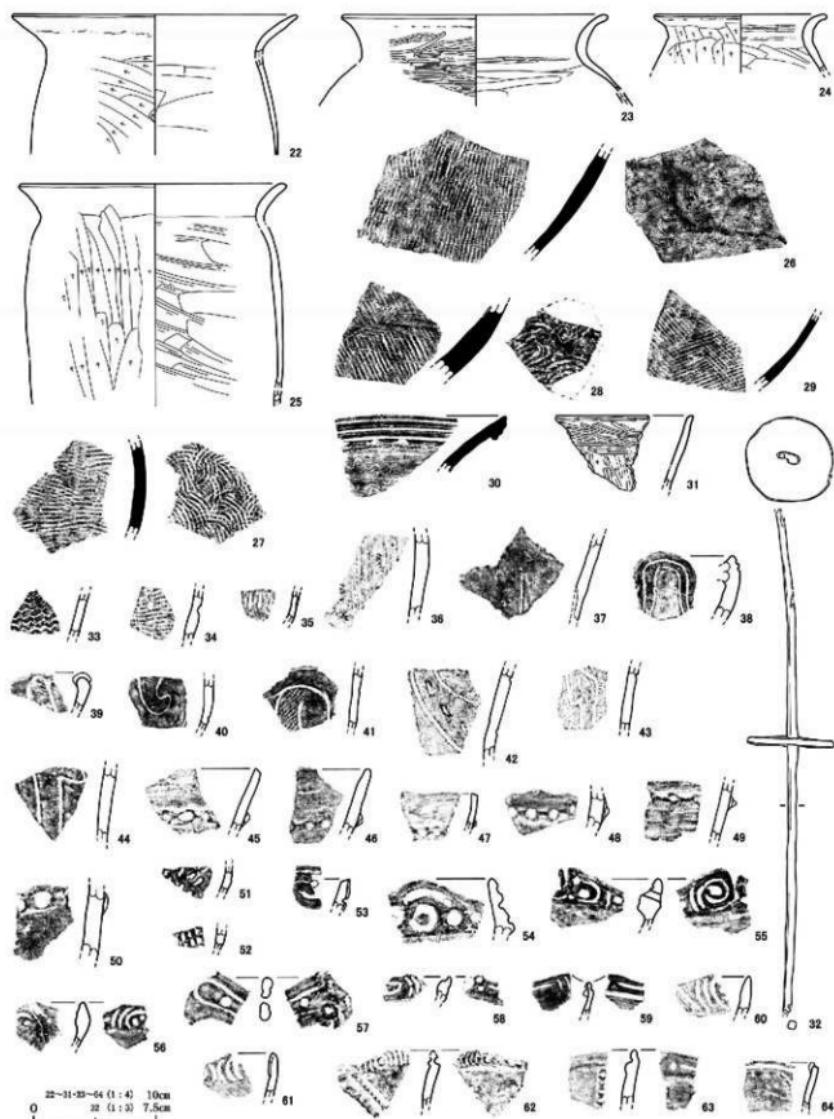
I区え・お-3・4Grにあり、H2・H4・P65・P75に切られH24を切る。カマドは北壁中央に、粘土と面取軽石・安山岩等で構築される。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴等5個検出された。P5は、入り口施設と見られる。床は堅く平坦。東壁中央から南壁下に壁高が巡る。覆土2～4層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・鉄器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土

第11図 H3号住居址（1）

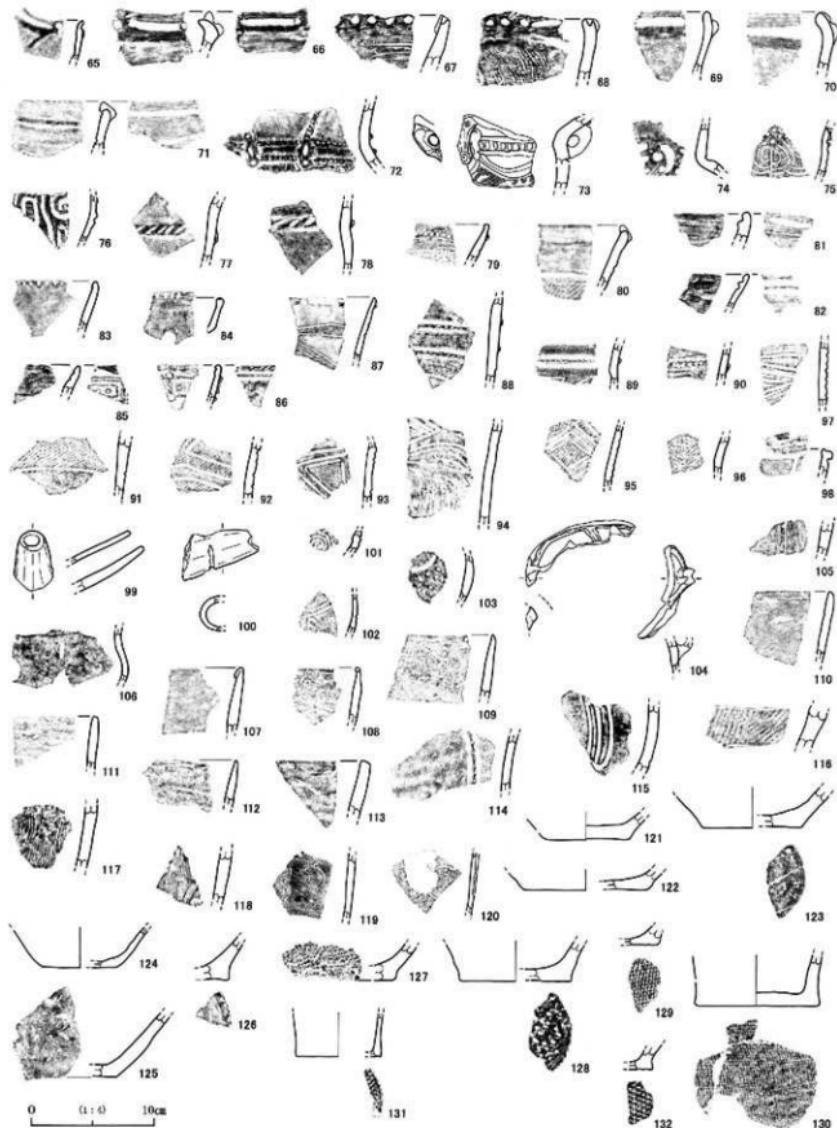


第12図 H3号住居址 (2)

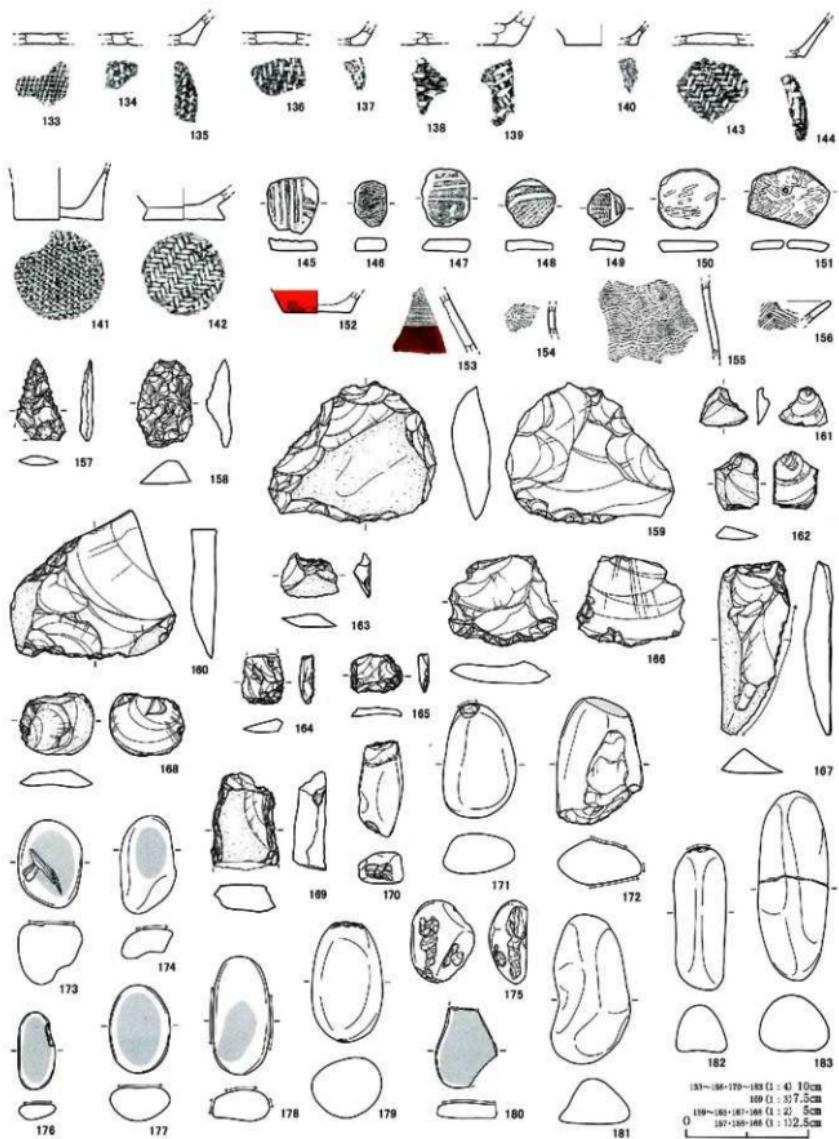
製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。ガラス小玉は弥生時代後期であろう。土師器には壺・高壺・武藏甕・甕・懶・壺・鉢が、須恵器には壺・蓋・甕がある。鉄器(32)は紡錘車である。須恵器壺(12・13)は底部ヘラ成形・調整痕、武藏甕(19・22)は「く」字状口縁部に最大径がある。本址は、これらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅰ期-8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。



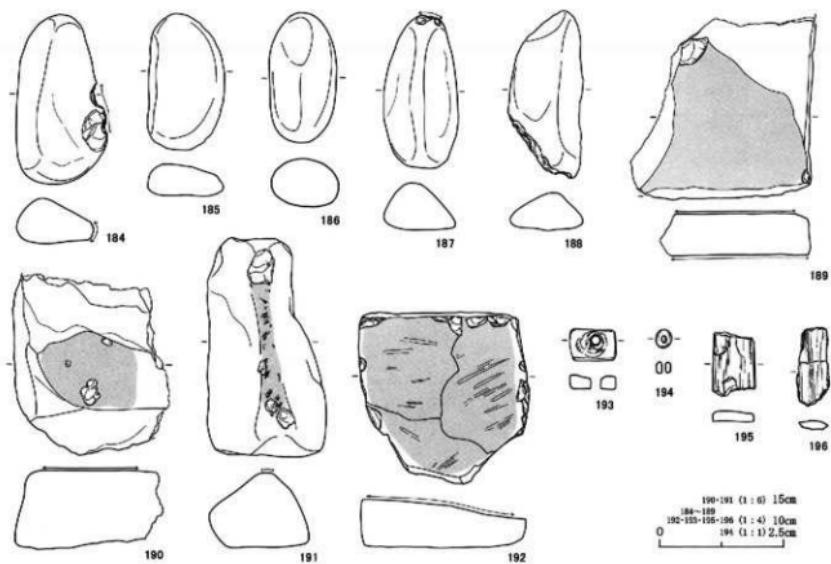
第13圖 H 3号住居址 (3)



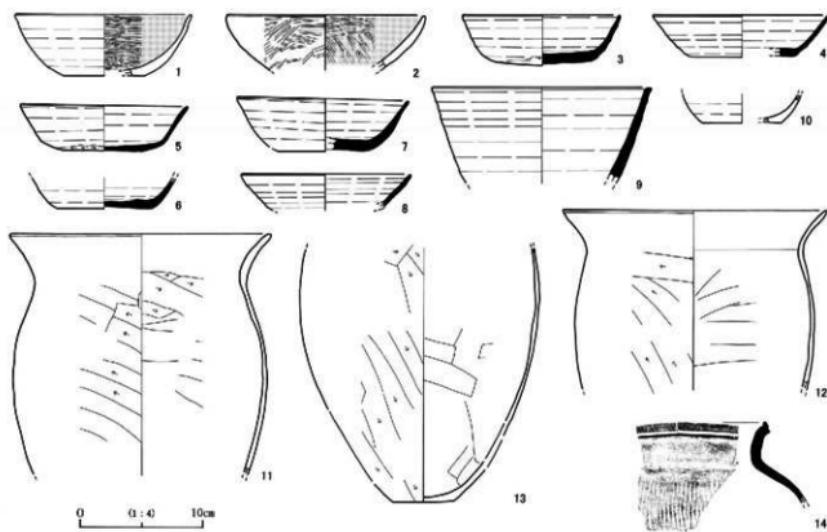
第14圖 H 3号住居址 (4)



第15圖 H3号住居址 (5)



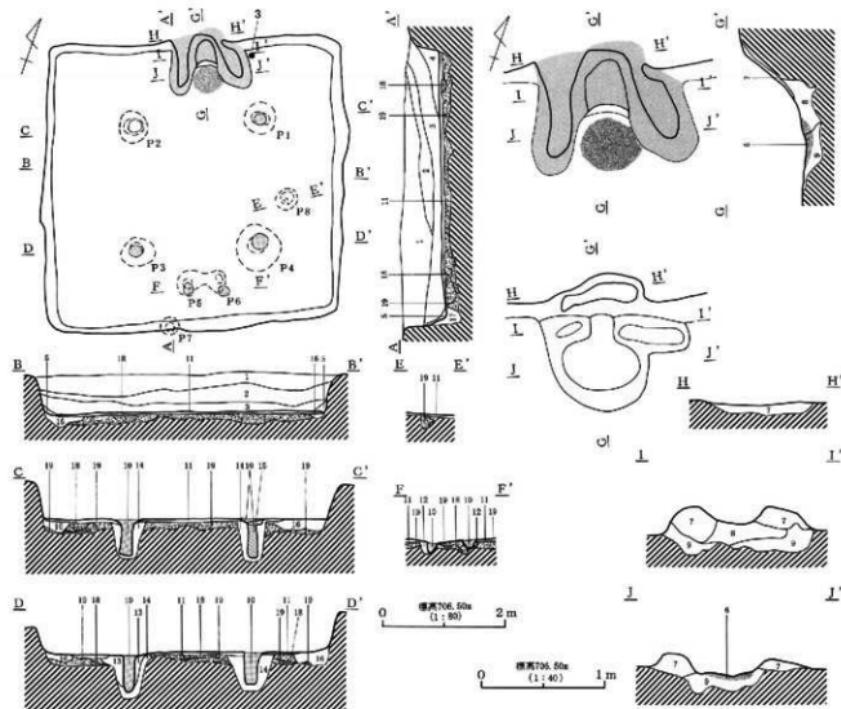
第16図 H3号住居址出(6)



第17図 H4号住居址(1)

(4) H 4号住居址

I区お・か・4・5 Grにあり、H 3・H24・D19・P 148を切る。四隅が角張る正方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴等8個検出された。P5・P6は入り口施設と見られP7は壁柱穴である。床は堅く平坦。覆土2・3層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土製品、弥生時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確ではない。土師器は壺・武藏甕・甕・ロクロ甕が、須恵器には壺・鉢・甕・瓶がある。底部にヘラ成形・調整痕がある土師器壺(1)・須恵器甕(3～6)、回転糸切りを見せる須恵器甕(7)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武藏甕(11・12)がある。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅲ期-8世紀後半(第3四半期)に位置づけられる。



- H 4
 1層 黒褐色土(10YR5/2) 砂質土。自然地盤。
 2層 黒褐色土(10YR2/3) 黃褐色土(10YR5/6)。
 黑褐色土(10YR5/2) - 役場土の小ブロック多量。人為的地盤。
 3層 黃褐色土(10YR2/3) 黄褐色土(10YR5/6) -
 砂土の小ブロック少量。黑褐色土(10YR2/2) -
 の小ブロック多量。人為的地盤。
 4層 黑褐色土(10YR2/3) 砂土の小ブロック多量。
 砂土の小ブロック少量。
 5層 黑褐色土(10YR2/3) 黄褐色土小ブロック多量。
 6層 明瞭褐色土(5YR6/6) 植上。洗い込み。

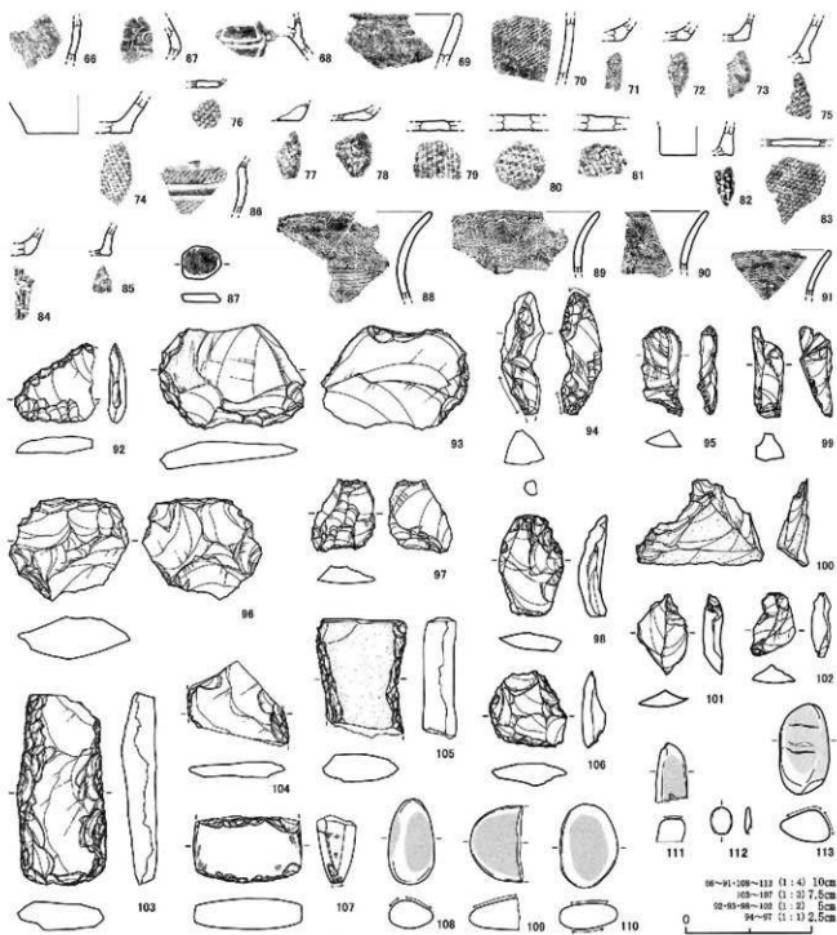
- 7層 黑褐色土(10YR2/2) 地上。カーブ帶粘土。
 8層 黑褐色土(10YR2/2) カーブ帶粘土。
 に上。黄褐色土(10YR5/6)の小ブロック含む。
 9層 黑褐色土(7.5YR4/4) 壁土粘土・粘土・灰。
 黑褐色土(10YR2/2)の小ブロック含む。
 カーブ帶粘土。
 10層 黑褐色土(10YR2/2) 破壊ない。柱状。
 11層 黑褐色土(10YR2/2) FS・FEの植土。
 12層 黄褐色土(10YR2/2) FS・FEの植土。
 13層 黑褐色土(7.5YR4/4) 壁土粘土(10YR2/3)
 の小ブロック含む。P1～P4の植土。

- 14層 壁土(7.5YR4/4) P1が生。P1～P4の植土。
 15層 黑褐色土(10YR2/2) FSの植土。
 16層 黑褐色土(10YR2/2) 黄褐色土(10YR5/6)の
 小ブロック少量。
 17層 黄褐色土(10YR2/3)
 黑褐色土(10YR4/4) 黑褐色土(10YR2/3)。
 褐褐色土(10YR2/2)の小ブロック多量。地下底土。
 18層 壁土(7.5YR4/4) P1が生。黄褐色土
 (10YR2/3)の小ブロック少量。床下底土。

第18図 H 4号住居址 (2)



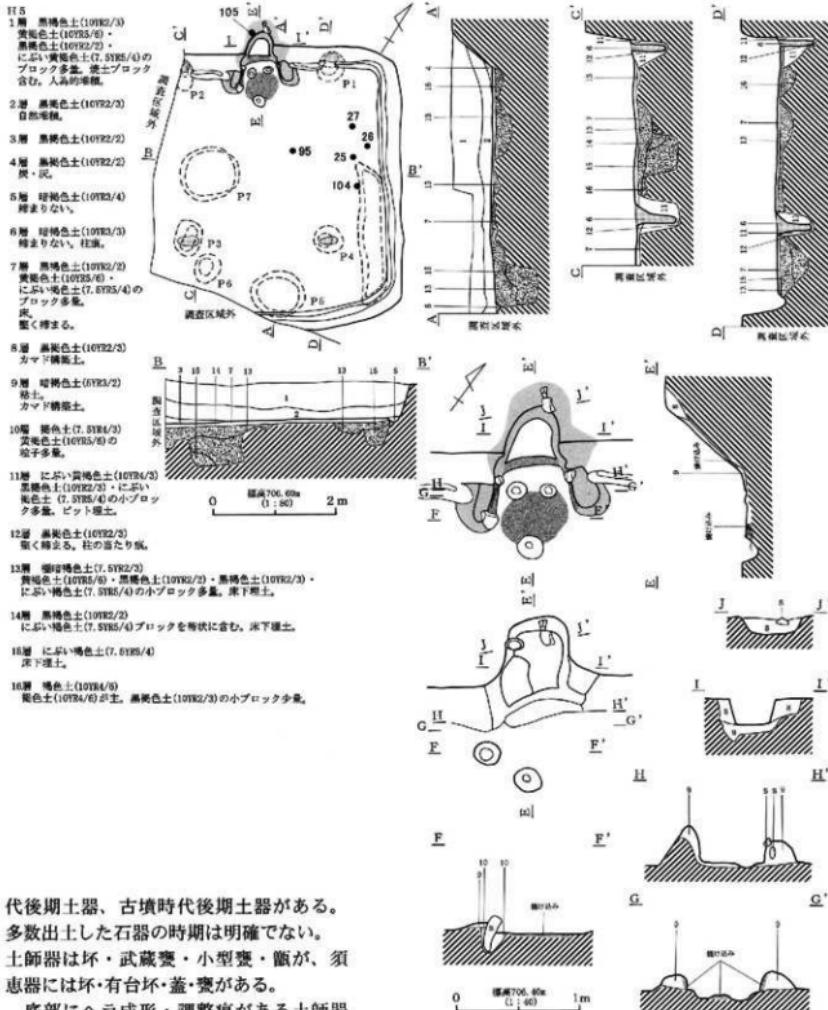
第19図 H4号住居址(3)



第20図 H 4号住居址 (4)

(5) H 5号住居址

I区き・く・5・6 Grにあり、H 6・D 22・D 27を切る。南壁が少し膨らむ方形でカマドは北壁中央に粘土等で構築された袖部・火床が残存する。ピットは、柱痕が確認されたP1～P4の主柱穴等7個検出された。P5は入り口施設と見られP6・P7は床面下から検出された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器・須恵器・滑石製の白玉、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品、弥生時

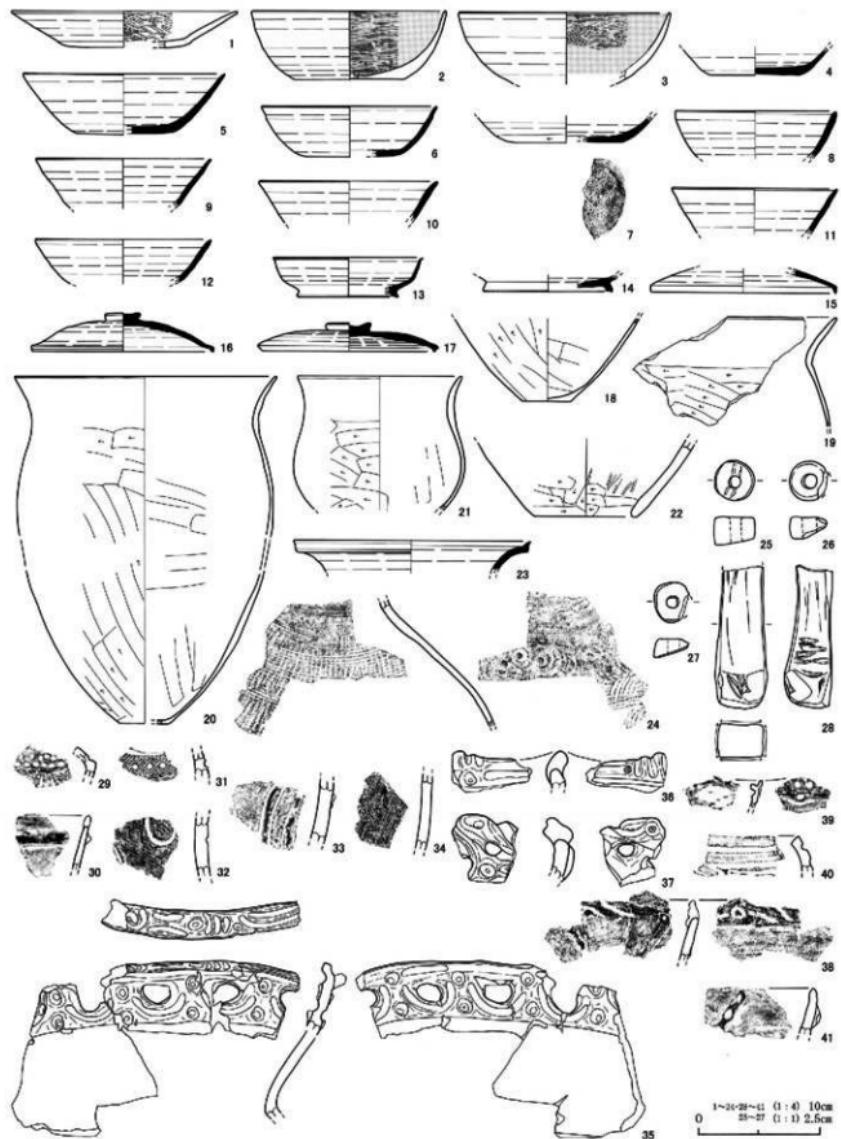


第21図 H5号住居址(1)

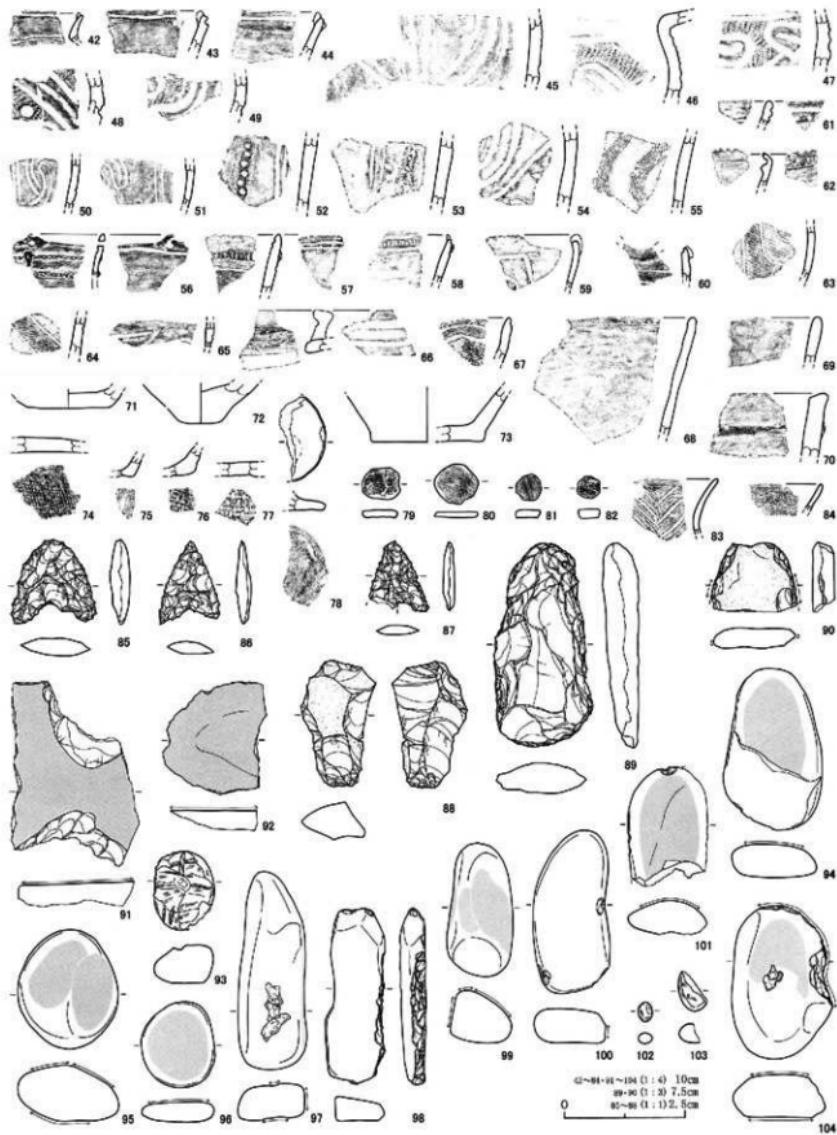
代後期土器、古墳時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。土師器は壺・武藏甕・小型甕・甌が、須恵器には壺・有台壺・蓋・甌がある。

底部にヘラ成形・調整痕がある土師器壺(2・3)・須恵器壺(4~7)、皿状のつまみを有す蓋(16・17)、口径と胴部最大径がほぼ等しい武藏甕(11)がある。

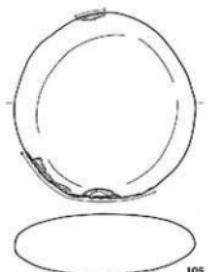
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代II期・8世紀前半(第2四半期)に位置づけられる。



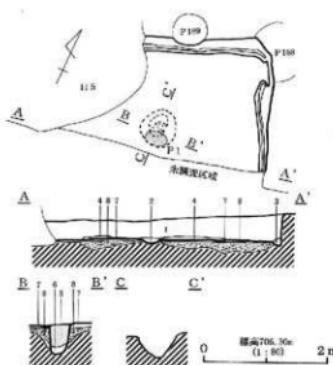
第22圖 II-5号住居址 (2)



第23図 H 5号住居址 (3)



第24図 H5号住居址(4)



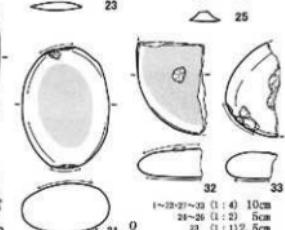
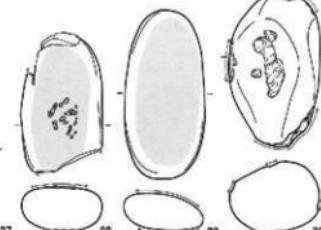
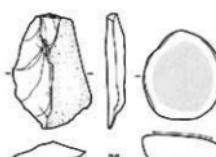
H5号
1層 黒褐色土(10R32/3) 黒褐色土(10R32/2)・褐色土(10YR4/6)のブロック多量。人為的埋立。
2層 褐褐色土(10R32/4) 調査されない。
3層 黑褐色土(10R32/3) 調査されない。
4層 にぶい褐色土(7.5YR5/0)
5層 褐褐色土(10R32/3) 調査されない。
6層 にぶい褐色土(7.5YR5/0)
7層 褐褐色土(10R32/4)
8層 褐褐色土(10R32/4) にぶい褐色土(7.5YR5/0)のブロック多量。

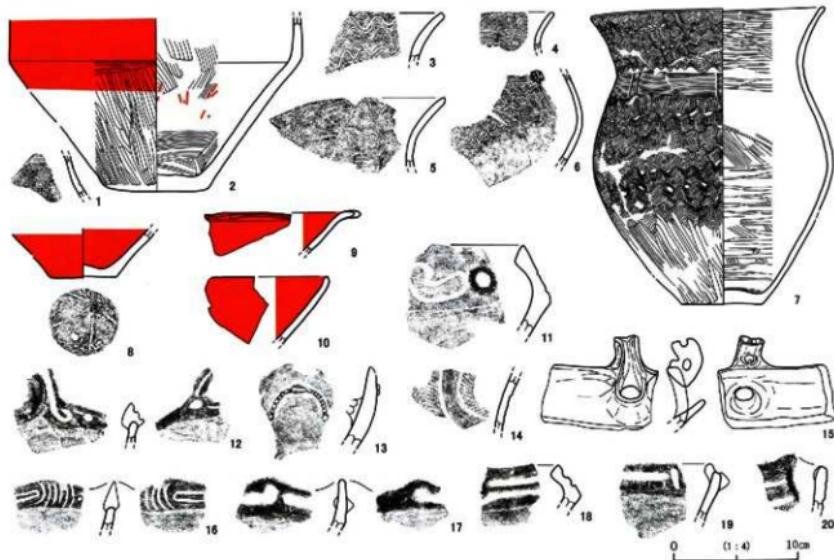
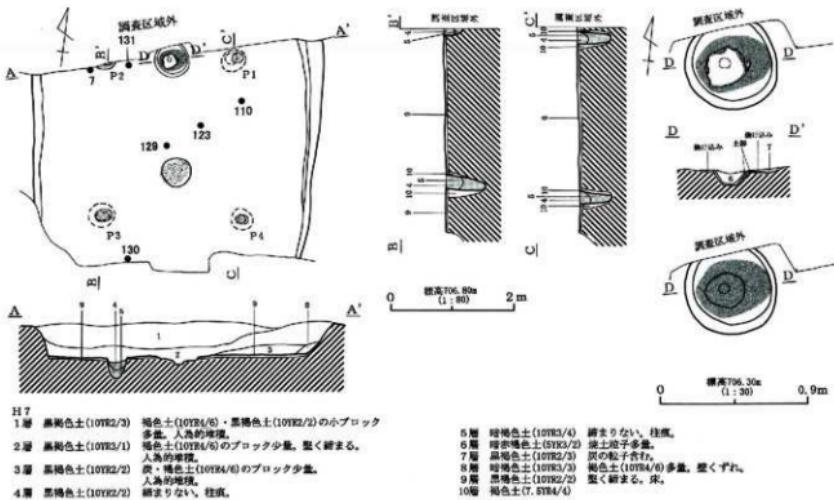


第25図 H6号住居址

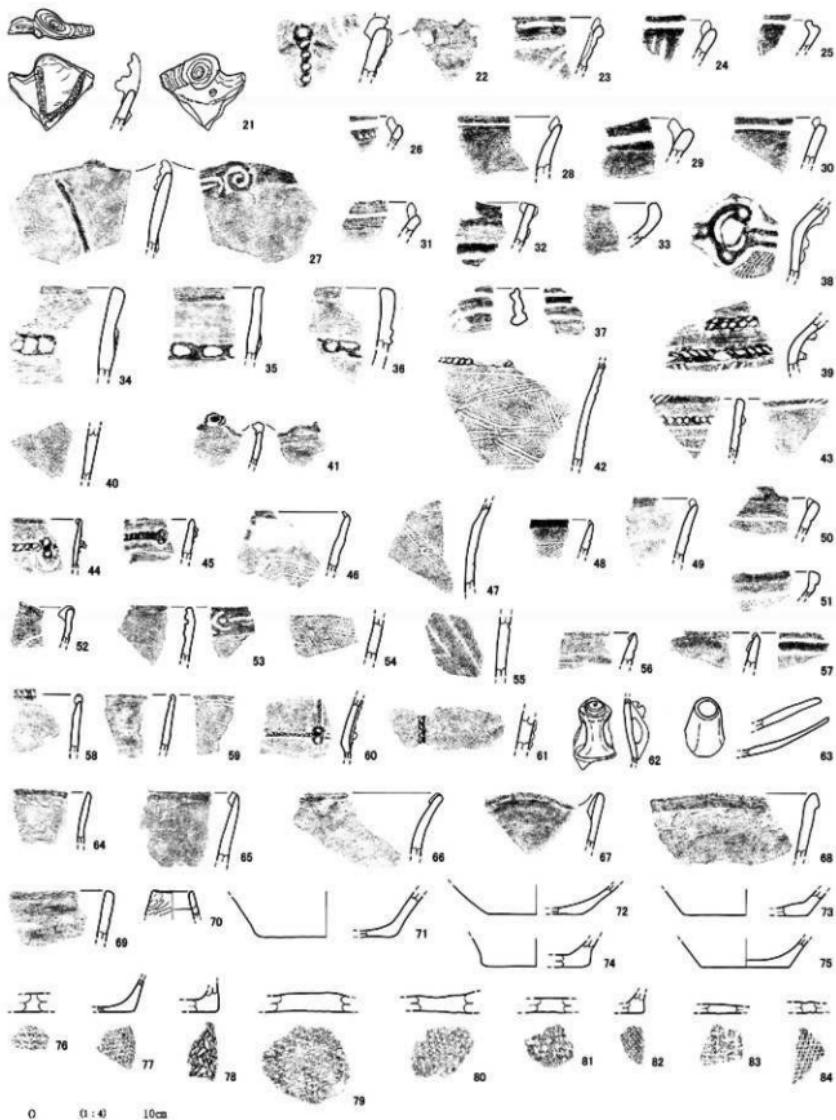
(6)H6号住居址

I区き-5・6Grにあり、H5・P168・P169に切られ、壁溝が北・東壁下を巡る。P1は、柱痕が確認された。床は堅く平坦。覆土1層は人為的埋土。遺物は、土師器壺・甕、須恵器甕、本址に伴わない縄文時代後期土器がある。多数出土した石器の時期は明確でない。底部ヘラケズリされる須恵器壺は、P1から出土した。本址の時期は、8世紀前半(第2四半期)以前である。

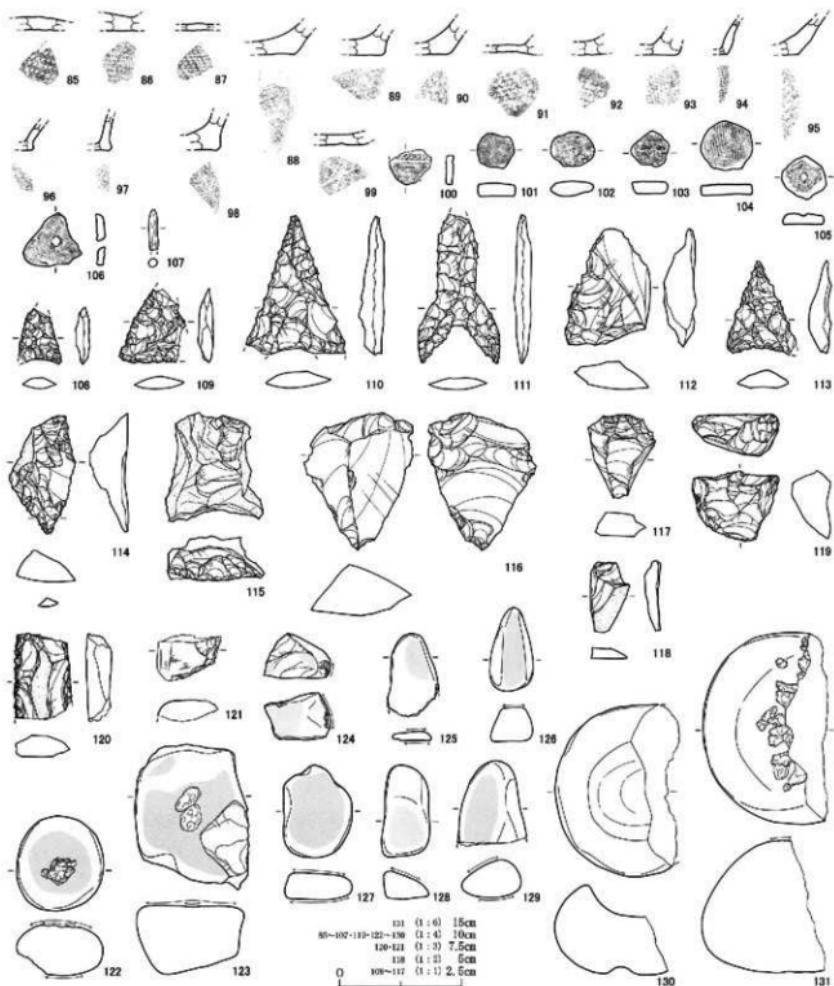




第26図 H7号住居址 (1)



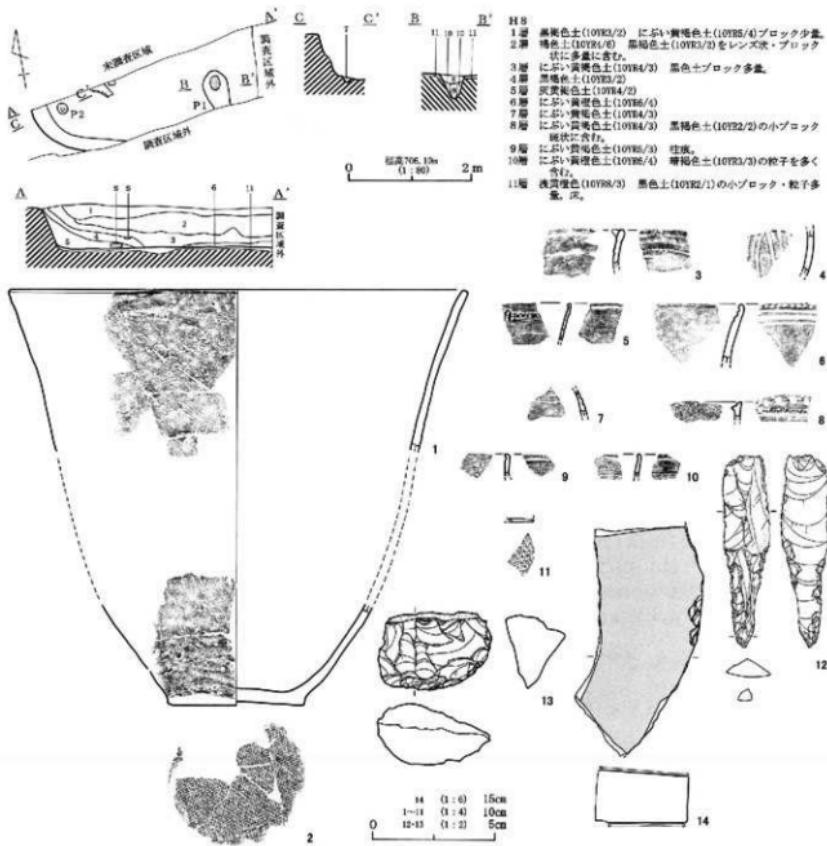
第27圖 H7號住居址(2)



第28図 H 8号住居址 (3)

(8)H 8号住居址

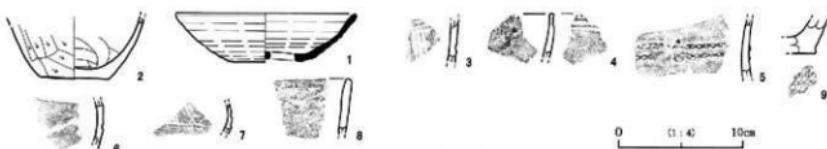
I区あ・い-8 Grにある。D11・P7に切られる。南・東側の調査区域外と北側の未調査区に伸びる。柱痕が確認された主柱穴P1と西南角に1個のピットが検出された。床は堅く平坦。遺物は小片で図示できなかったが、土師器内面黒色処理される壺、外稜を持つ土師器壺がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、石錐・削器・台石は混入遺物であろう。本址の時期は明確でない。



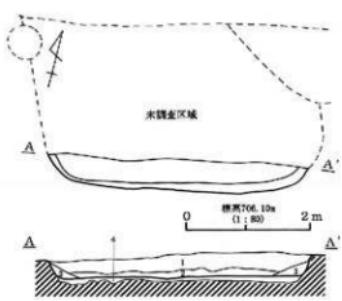
第29図 H8号住居址

(9)H9号住居址

I区お・か・9Grにある。H13を切る。北側の未調査区に伸びる。床は平坦。遺物は、底部回転糸切りを見せる須恵器坏、土師器武藏窯底部がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器、弥生時代後期土器、分厚い土師器甕がある。本址の時期は、9世紀代であろう。



第30図 H9号住居址(1)



H19
1層 黒褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6) ブロック少量。
粘土上にブロック散在す。
2層 にぶる黄褐色土(10YR4/3) 黑褐色土(10YR5/6) ブロック・
粘土多量。粘土ブロック散在。
3層 にぶる黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土(10YR5/6) 粒子多量、
粘土少。粘土上に黒褐色土(10YR5/6) 粒子多量。
4層 にぶる黄褐色土(10YR4/3) 黄褐色土(10YR5/6) ブロック・
粘土を含む。上部が灰土。

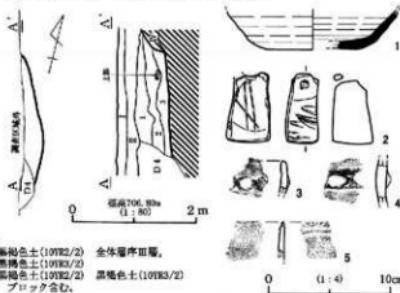
第31図 H19号住居址 (2)

(10)H10号住居址

I区C-3・4 Grにある。D4に切られる。東壁下端は西側の調査区域外に伸びるため、床等詳細は不明。

遺物は、底部手持ちヘラケズリの須恵器壺、砥石がある。他に本址に伴わない縄文時代後期土器がある。

本址の時期は、8世紀代であろう。

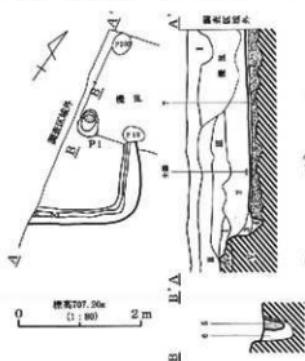


H10
1層 黒褐色土(10YR2/2) 全体覆序Ⅲ層。
2層 黑褐色土(10YR3/2) 黑褐色土(10YR3/2)
3層 黑褐色土(10YR2/2) 黑褐色土(10YR3/2)
ブロック含む。

第32図 H10号住居址

(11)H11号住居址

I区C-3・4 Grにある。H12・P21を切り、P19・P20に切られる。大半が調査区域外にある。柱痕が確認されたP1は、主柱穴であろう。床は堅く平坦。覆土2層は人為的埋土。遺物は小片で図示できなかったが、古墳時代後期の土器内面黒色処理される壺、須恵器蓋等がある。他に縄文時代後期土器・土器片円板、弥生時代後期土器が出土した。本址の時期は明確でないが古墳時代以降であろう。



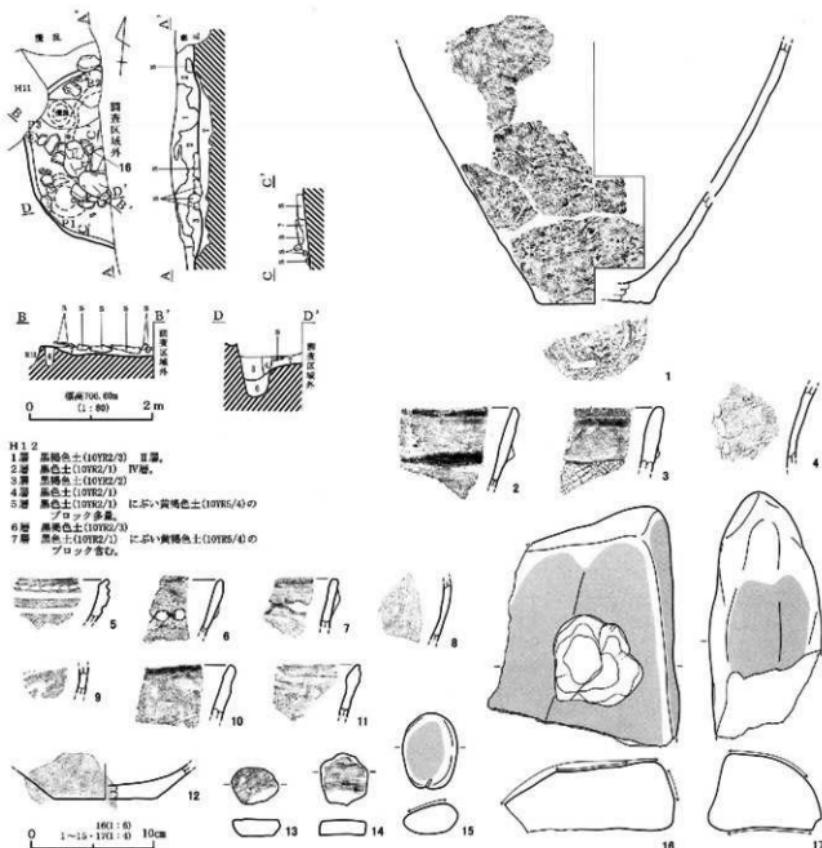
H11
1層 黒褐色土(10YR2/2)
2層 黒褐色土(10YR2/3) IV・VI層のブロック多量。
人の埋土
3層 黒褐色土(10YR2/2) VI層のブロック少量。
4層 黒褐色土(10YR3/2) 黒褐色土(10YR2/2)のブロック多量。
5層 黒褐色土(10YR2/2) 砥石。
6層 黒褐色土(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/2)のブロック多量。
7層 黒褐色土(10YR2/2) 砥石有り。
8層 黒褐色土(10YR2/2) 黑褐色土(10YR2/2)・黄褐色土(10YR5/6)のブロック多量。
上部が灰土。床下の粘土。

第33図 H11号住居址

(12)H12号住居址

I 区け-3・4、こ4 Grにあり、H11に切られる。敷石住居であるが大半が未調査区域外にある。壁際のピット4個は、敷石下端面から検出された。敷石は鉄平石を主に安山岩の平らな面を用いている。小砾で隙間を埋めていたようである。礫下面を掘方の黒色土に入れ平坦を形成している。炉は調査範囲では確認できなかった。遺物は縄文時代中期末葉・後期前葉の土器少量、磨石・台石がある。粗製深鉢1は胴部以上が欠損し文様構成不明、底部には木葉痕がつけられている。他に小片の縄文時代中期後葉2～5、後期称名寺式6・7、後期堀之内1式8、堀之内2式9、後期前半10～14がある。15は1面に磨り面ある磨石、16・17は台石で、16の中央には広めの敲打痕が窺える。

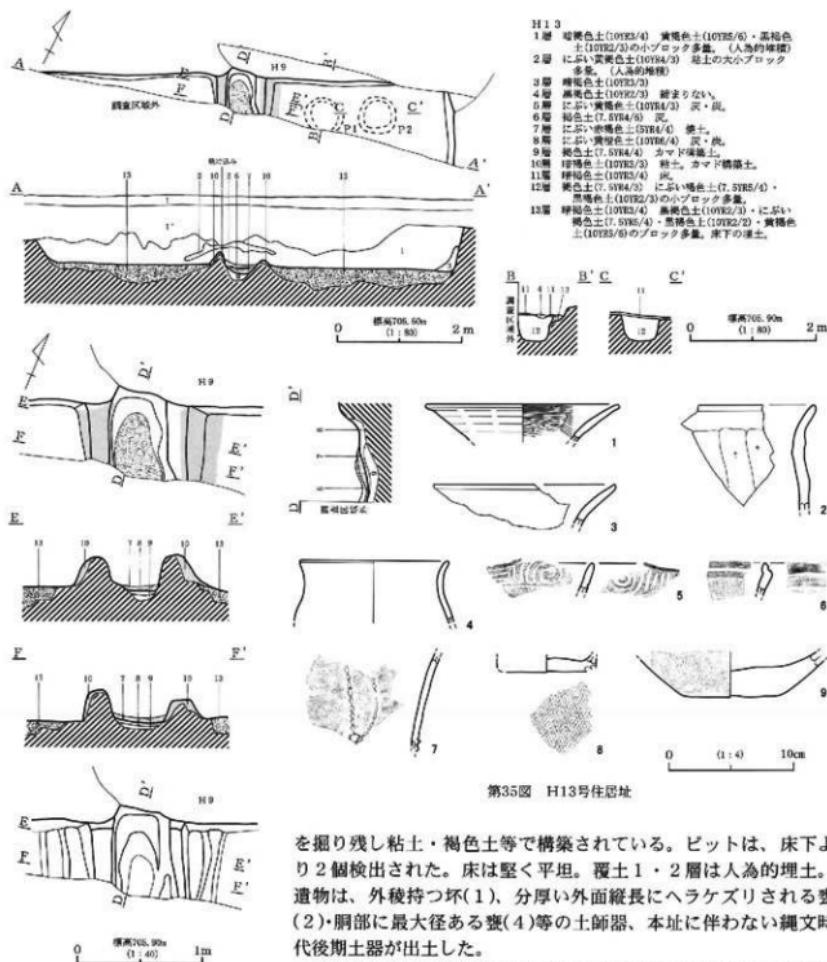
本址の時期は、縄文時代後期前半であろうか。



第34図 H12号住居址

(13) H13号住居址

I区お~き・9GrにありH9に切られる。大半が南側調査区域外に伸びる。カマドは北壁中央に地山



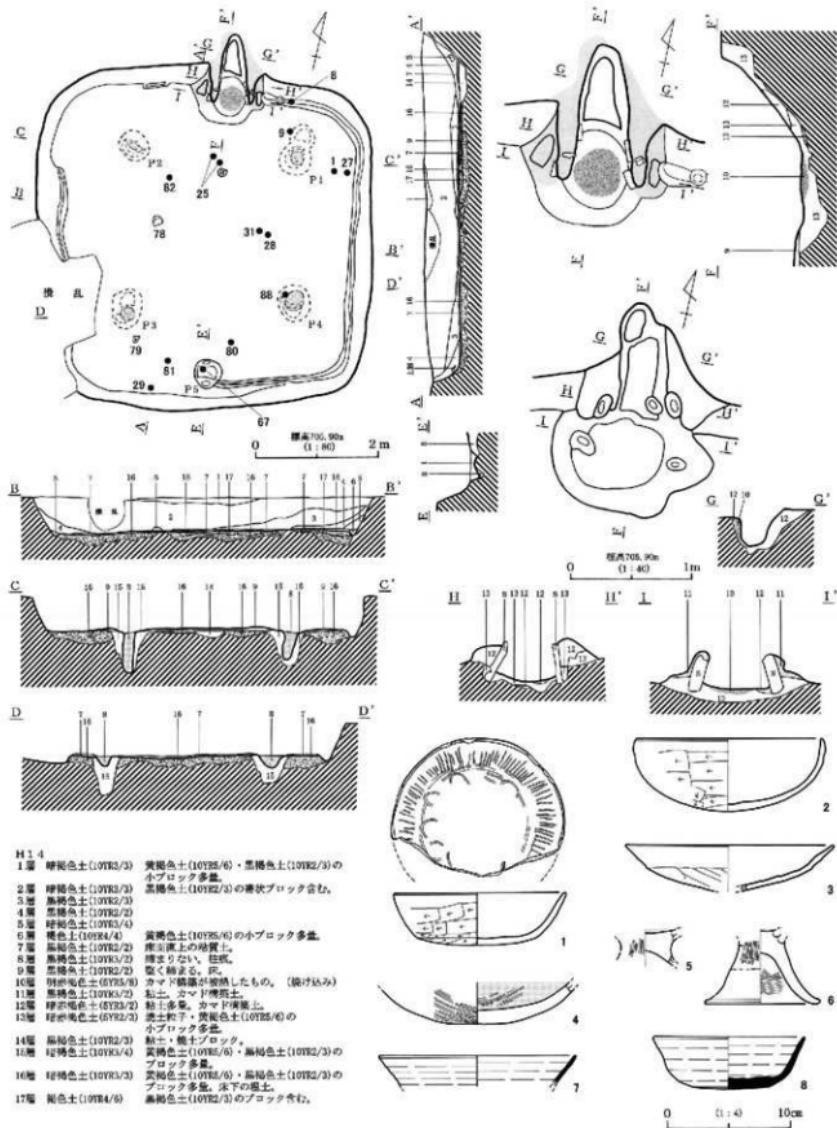
第35図 H13号住居址

を掘り残し粘土・褐色土等で構築されている。ピットは、床下より2個検出された。床は堅く平坦。覆土1・2層は人為的埋土。遺物は、外縁持つ壺(1)、分厚い外面縦長にヘラケズリされる甕(2)・胴部に最大径ある甕(4)等の土器、本址に伴わない縄文時代後期土器が出土した。

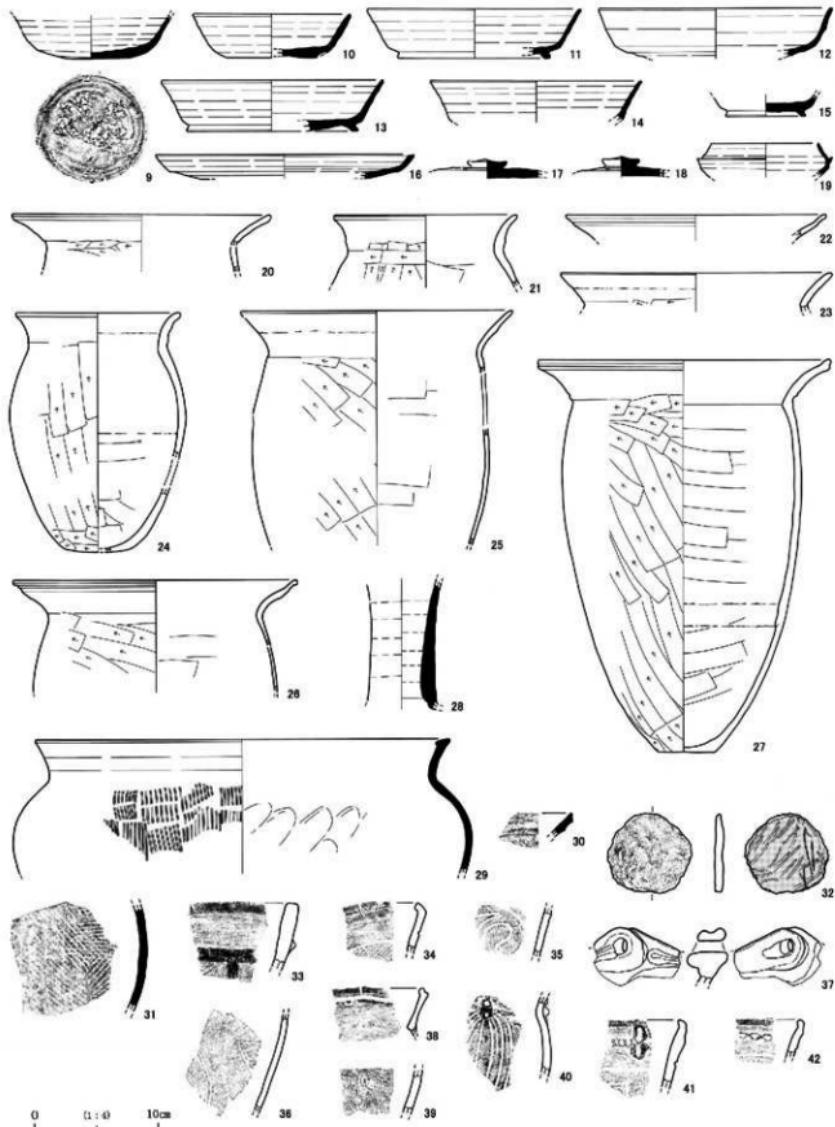
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代Ⅲ期・6世紀中葉～7世紀初頭に位置づけられる。

(14) H14号住居址

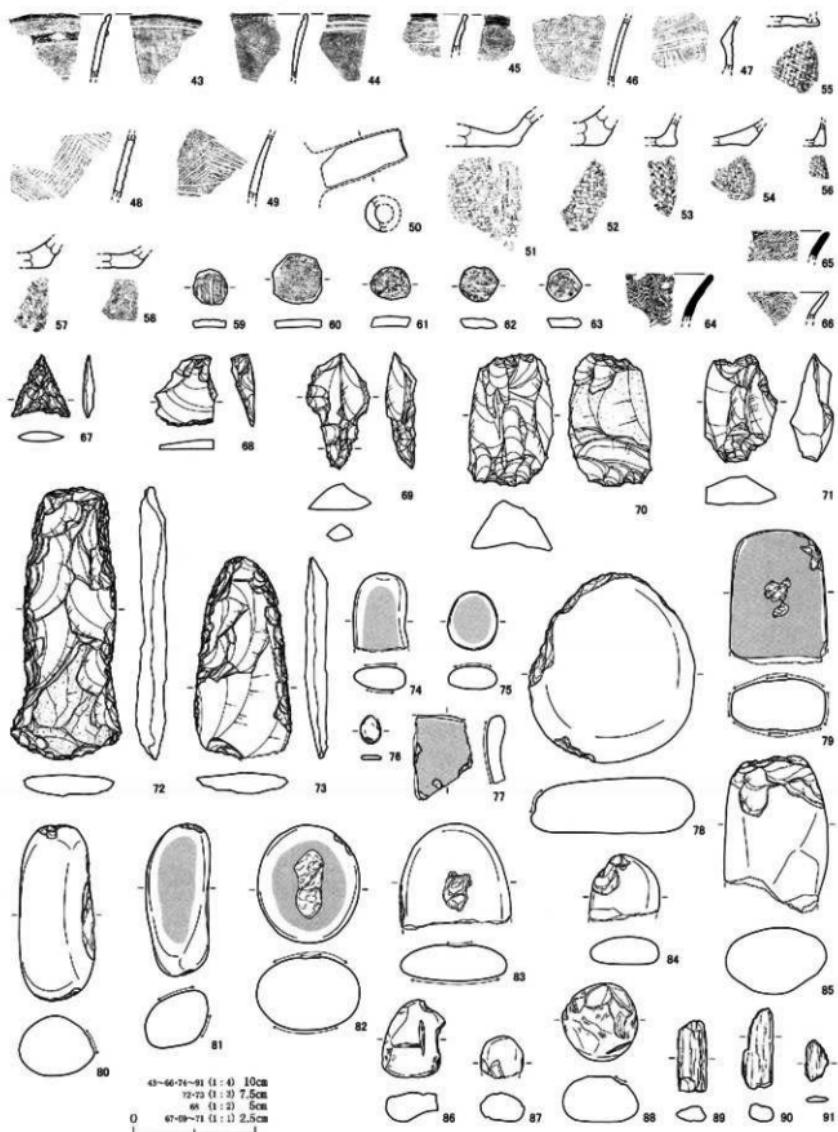
II区さ~す-12~14GrにありH18・H19・D10・P92・P104・P146・P147・OT2を切る。西壁の南半分は搅乱で破壊されていた。カマドは北壁中央に、粘土と安山岩等で構築されている。ピットは柱



第36図 H14号住居址 (1)



第37圖 H14號住居址（2）



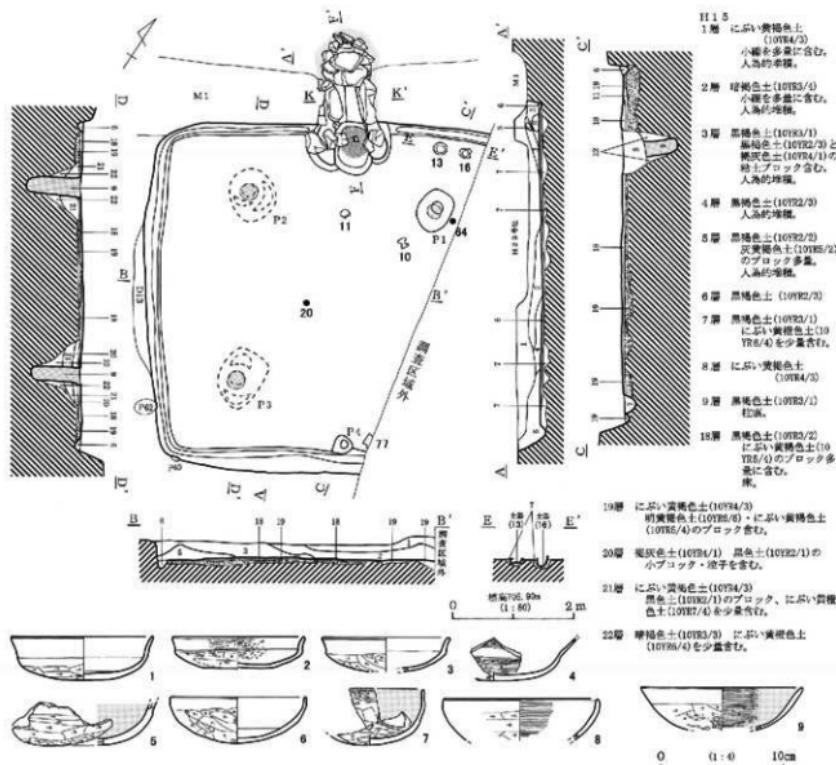
第38図 H14号住居址 (3)

痕が確認されたP1～P4の主柱穴等5個検出された。P5は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。カマドからP5にかけてと西壁中央に壁溝が巡る。遺物は、土師器・須恵器・土製品・石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。土師器には畿内系暗紋壺1・半球状の壺2、ぐの字の口縁部に最大径がある武藏壺20・22・23・25・26・27、高壺5・6がある。須恵器には底部ヘラケズリ調整の壺8～10、有台壺11～15、皿16、擬宝珠つまみの壺蓋17・18、長頸壺28・30、甕29・30がある。32は底部ヘラケズリ内面黒色処理される土師器壺を転用した円板。3の土師器壺、19の須恵器壺、25・26の器厚く口辺部に最大径のある土師器甕は、本址北西壁あたりで重複する古墳時代後期住居址H18との関連が考られる。多量にある石器で磨石・敲石・輕石製品は本址に帰属する可能性があるが、他は伴わない。

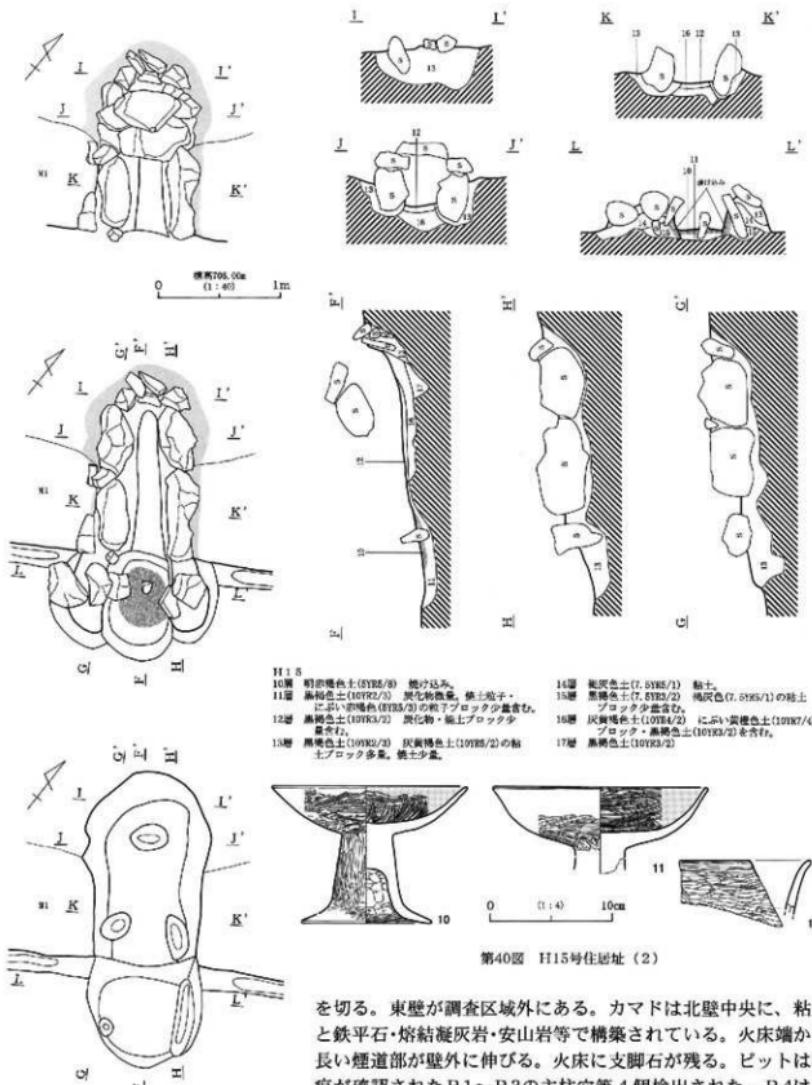
本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅱ期・8世紀前半(第1四半期)に位置づけられる。

(15) H15号住居址

II区け・C-10～12Grにあり、H23・D13・M1・P52・P53・P55・P62に切られ、H25・D29・P40

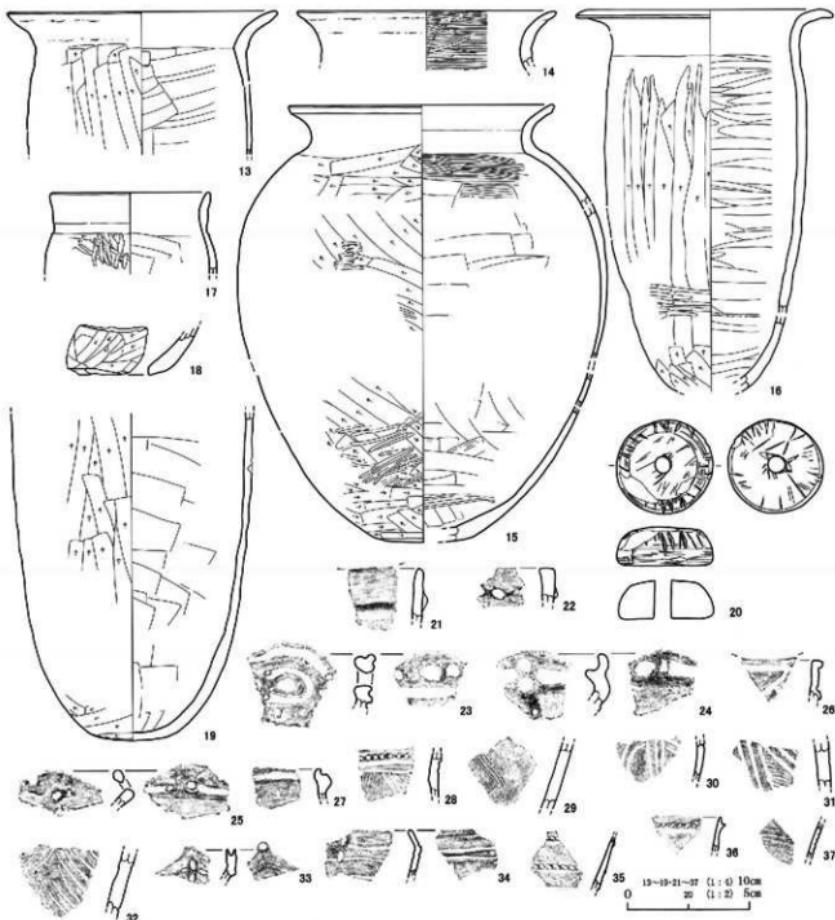


第39図 H15号住居址 (1)



第40図 H15号住居址（2）

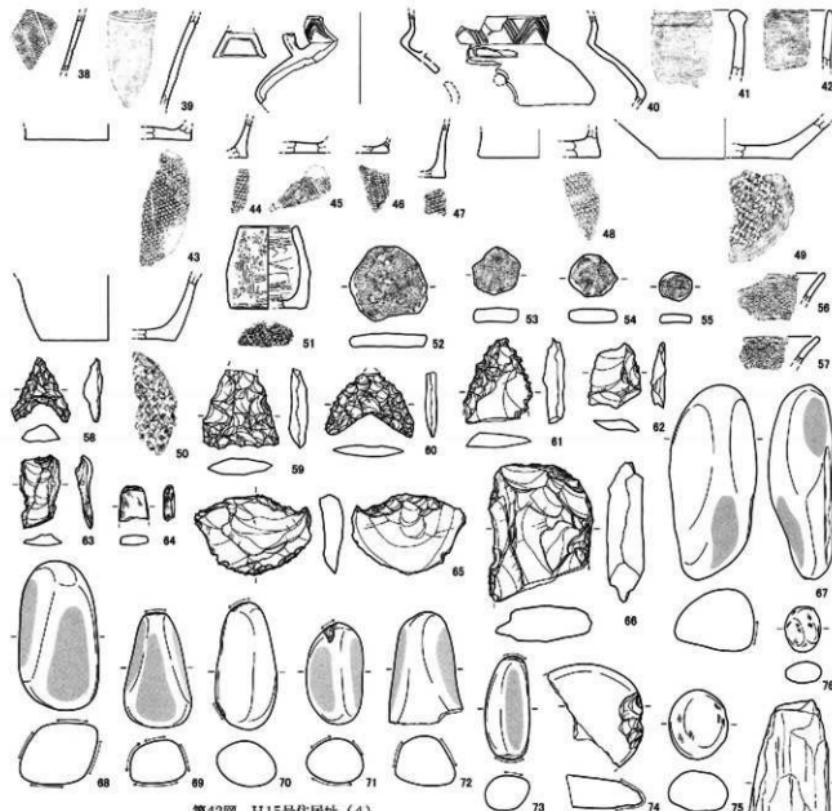
を切る。東壁が調査区域外にある。カマドは北壁中央に、粘土と鉄平石・熔結凝灰岩・安山岩等で構築されている。火床端から長い煙道部が壁外に伸びる。火床に支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1～P3の主柱穴等4個検出された。P4は入り口施設と見られる。床は堅く平坦。壁下に壁溝が巡る。覆土1～5層は人為的埋土。13と16の甕がカマド東脇床面に正位に埋め込まれていた。



第41図 H15号住居址 (3)

遺物は、土師器・石製品、本址に伴わない縄文時代中期後葉・後期土器、弥生時代後期土器、他に多量の石器があるが磨石・敲石は本址に帰属するかと思われるが、石鎌・打製石斧等は伴わない。土師器には須恵器壺蓋模倣の縫を持つ壺1~5、半球状の壺6~9、壺部内面黒色処理の高壺10~11、鉢12~17、口縁部に最大径があり胴が長い甕13~16、胴部丸みを持つ甕23、単孔の甕18がある。20は滑石製の紡錘車である。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。



第42図 H15号住居址 (4)

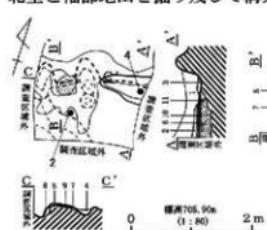
(16)H16号住居址

I区け-8 Grで検出、大半が未調査区にある。搅乱が深く、北壁と袖部地山を掘り残して構築されたカマドが僅かに残る。

覆土1層は人為的埋め

土、検出された範囲の床

面は平坦で堅い。遺物は内面黒色処理される土師器壺1~3、須恵器壺4、土師器甕、縄文時代後期窯之内式鉢転用の土製円板

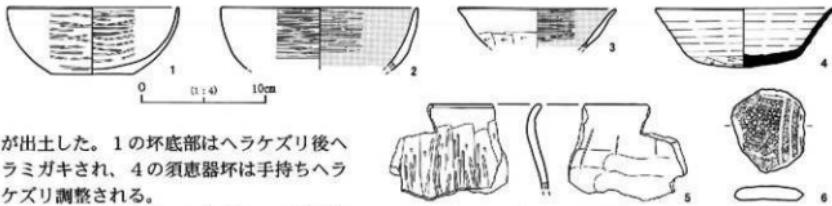


第43図 H16号住居址 (1)

38~57・67~76	77	15cm
(1:4)	(1:6)	10cm
61~65	78	7.5cm
(1:3)	(1:5)	5cm
63~65	79	3cm
(1:2)	(1:3)	2.5cm
58~61	80	2.5cm

77

- 6層 黒褐色土(10YR2/3) 粘質土。
- 7層 暗褐色土(10YR3/4) ク多量。
- 8層 暗褐色土(7.5YR3/3) 明褐色土(7.5YR3/6) のブロック多量。
- 9層 塔形埴生土(8YR2/4) 粘土。
- 10層 暗褐色土(10YR3/4) 粘土。
- 11層 暗褐色土(10YR4/6) 黒褐色土(10YR2/3) のブロック少量。底下の瓶土。

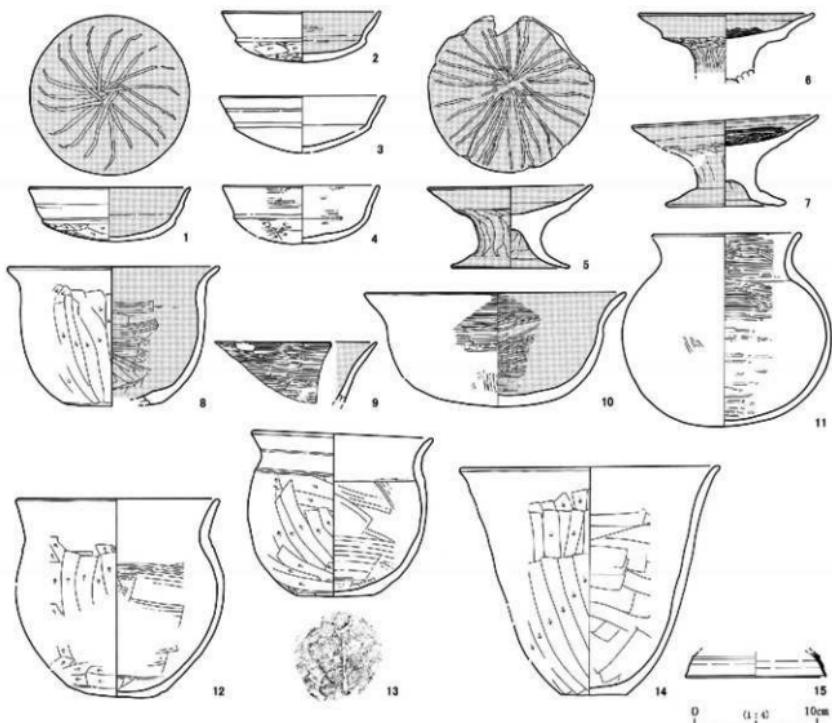


が出土した。1の壺底部はヘラケズリ後ヘラミガキされ、4の須恵器壺は手持ちヘラケズリ調整される。

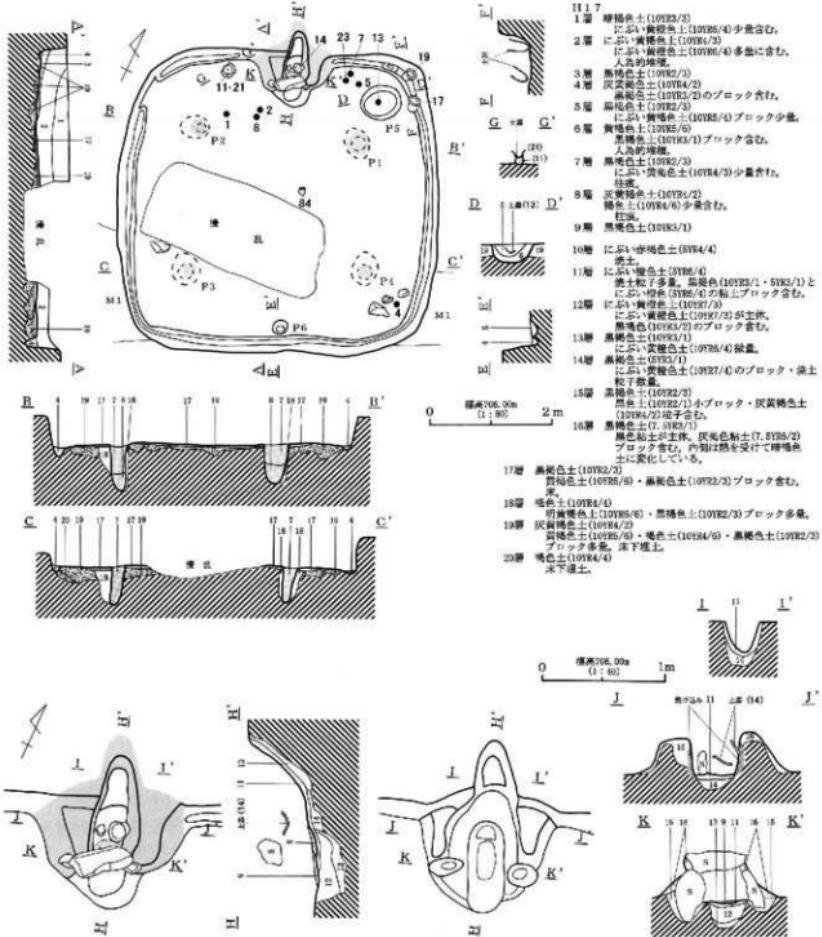
これらの出土遺物から本址は、小林真寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代Ⅰ期-8世紀前半(第Ⅰ四半期)に位置づけられる。

(17)H17号住居址

II区け・c-10~12Grにある。M1に切られ、OT1・P106・P126を切る。III区に床面に達する搅乱がある。カマドは北壁中央に、地山を掘り残し黒色の粘土で構築されている。袖部先端と焚き口天井部には芯材に安山岩を用いている。火床中央には支脚石が残る。ピットは柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴等5個検出された。P5は入り口施設、P6は深く貯蔵穴であろう。床は堅く平坦で、北西角



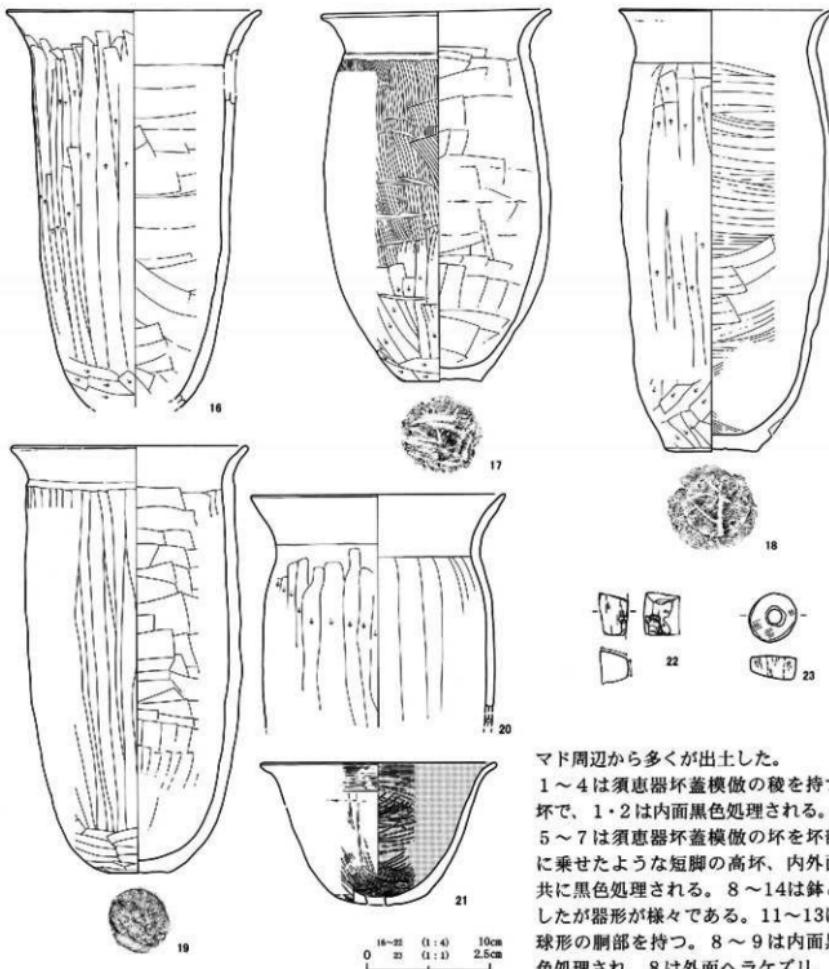
第45図 H17号住居址 (1)



第46図 H17号住居址 (2)

を除き壁溝が巡る。覆土は2層は人為的埋土であった。

遺物は、土師器壺・高杯・鉢・甕・領・須恵器壺蓋・白玉・石器、本址に伴わない縄文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。6・12・14がカマド内、16・18がカマド内と周辺出土片接合、9・13がP5内、17・19が北東壁下に寄りかかって正位で、カマド西床面から11に21が乗る状態で、1・2・5・7・8がカマド周辺床面直上ないしは5cmほど浮いて、4が南東角床面5cm上、などカマド内や力

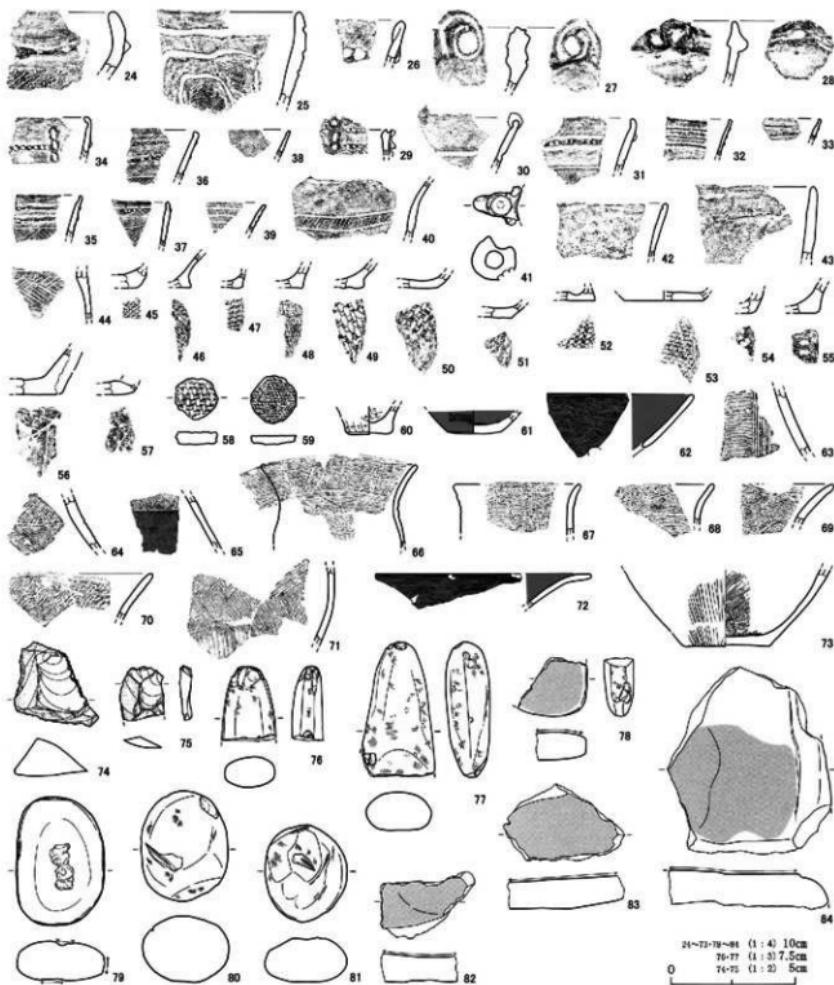


第47図 H17号住居址 (3)

部最大径が等しい壺で、いづれも長胴である。17はハケメ調整、他は縦長のヘラケズリ調整である。21は1穴の壺で内面黒色処理される。23は滑石製の白玉。22の砥石以外の石器は、本址に帰属するか不明である。

本址はこれらの遺物より小林真寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。

マド周辺から多くが出土した。
1~4は須恵器壺蓋模倣の縫を持つ壺で、1・2は内面黒色処理される。
5~7は須恵器壺蓋模倣の壺を壺部に乗せたような短脚の高壺、内外面共に黒色処理される。8~14は鉢としたが器形が様々である。11~13は球形の胴部を持つ。8~9は内面黒色処理され、8は外面ヘラケズリ、9・10は内外面よくミガれる。14は壺の形態によく似る。16は口縁部に最大径がある壺。17~20は口径と胴

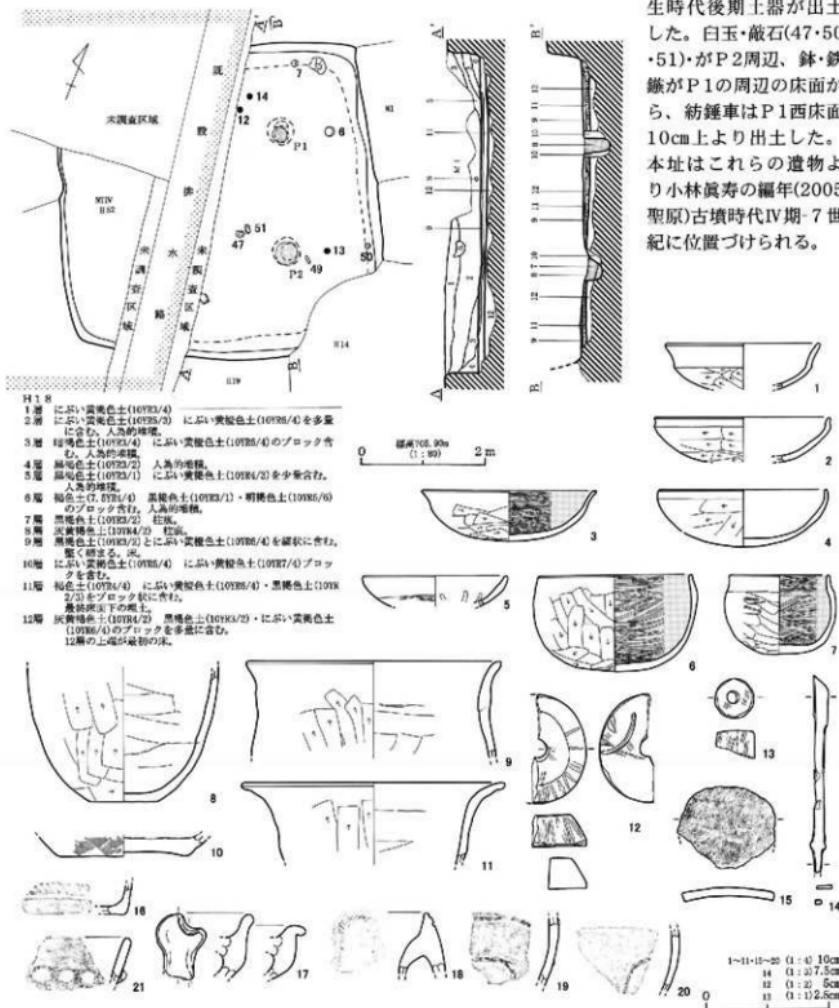


第48図 H17号住居址 (4)

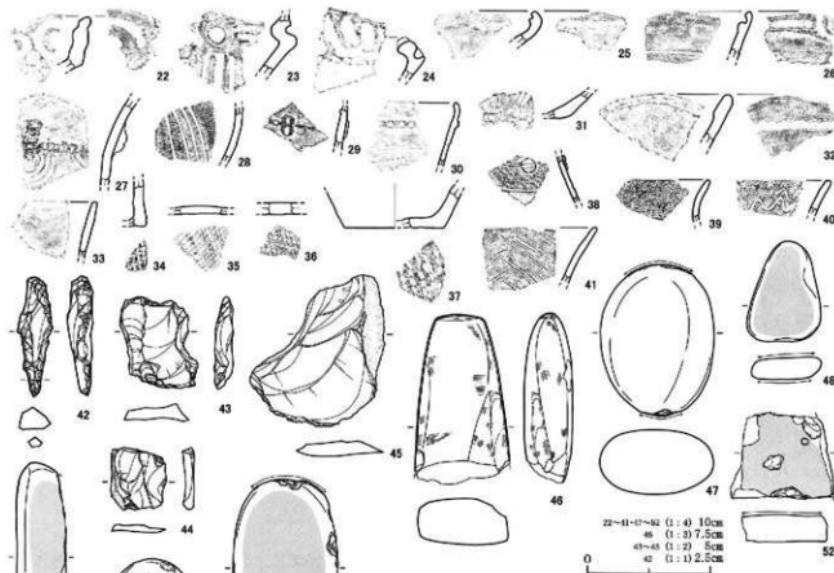
(18)H18号住居址

II区す-12・13Grにある。H14・M1・P91に切られ、H19・P85・P97・P107を切る。西側半分は、西近津遺跡IV(平成20年度)H52号住居址として調査されている。ピットは柱痕が確認されたP1・P2の主柱穴が2個検出された。堅く平坦な床が2面検出された。各壁が15~25cm程度拡張されている。

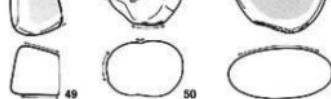
カマドは、未調査区の排水溝下であろうか。覆土2~6層は人為的埋土。遺物は、須恵器壺蓋模倣の壺(1)・須恵器壺身模倣の壺(2)・半球状で口縁部短く外反する壺(3)・半球状の壺(4・5)・内面黒色処理される鉢(6・7)・胴部に最大径を持つ分厚い甕(9)・甕(11)等の土師器、上師器甕胴部を加工した円板(13)、長頸輪状闊平造片刃状式の鉄鎌(15)、紡錘車(12)、白玉(14)、石器、本址に伴わない繩文時代中期・後期土器、弥生時代後期土器が出土した。白玉・鐵石(47・50・51)がP2周辺、鉢・鐵鎌がP1の周辺の床面から、紡錘車はP1西床面10cm上より出土した。本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。



第49図 H18号居住址 (1)



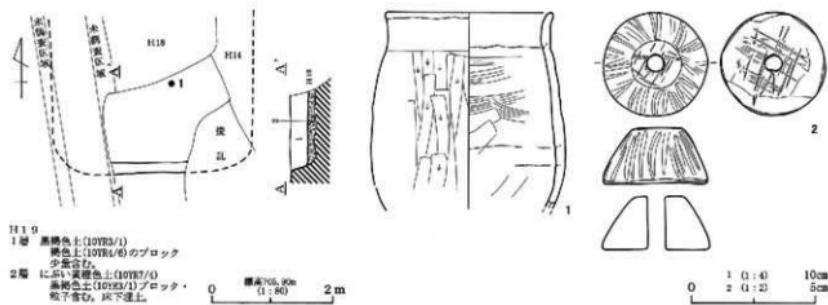
第50図 H18号住居址（2）



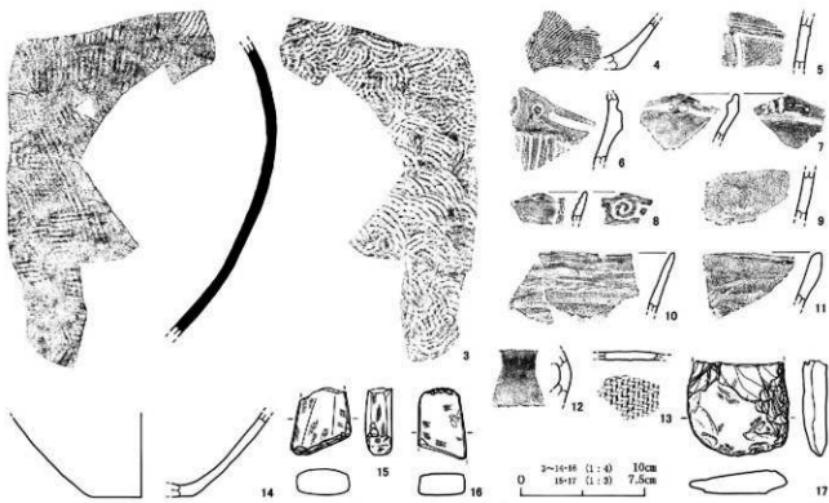
(19)H19号住居址

II区す-13Grにある。H14・H18に切られる。西壁は未調査区内にあるとみられ、西近津遺跡IV(平成20年度)調査区まで本址は伸びていない。床は平坦で堅く締まる。

遺物は、1の胸部に最大径を持ち縦長にヘラケズリされる分厚い壺、3の須恵器壺2の滑石製の紡錘車、本址に伴わない绳文時代中期・後期、石器が出土した。本址はこれらの遺物と7世紀のH18号住居址に切られることから、7世紀代とした。



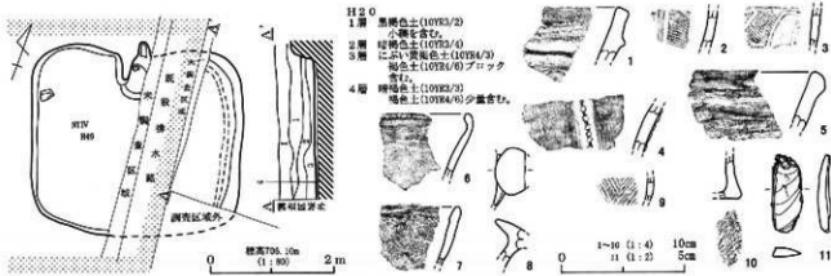
第51図 H19号住居址（1）



第52図 H19号住居址(2)

(20) H20号住居址

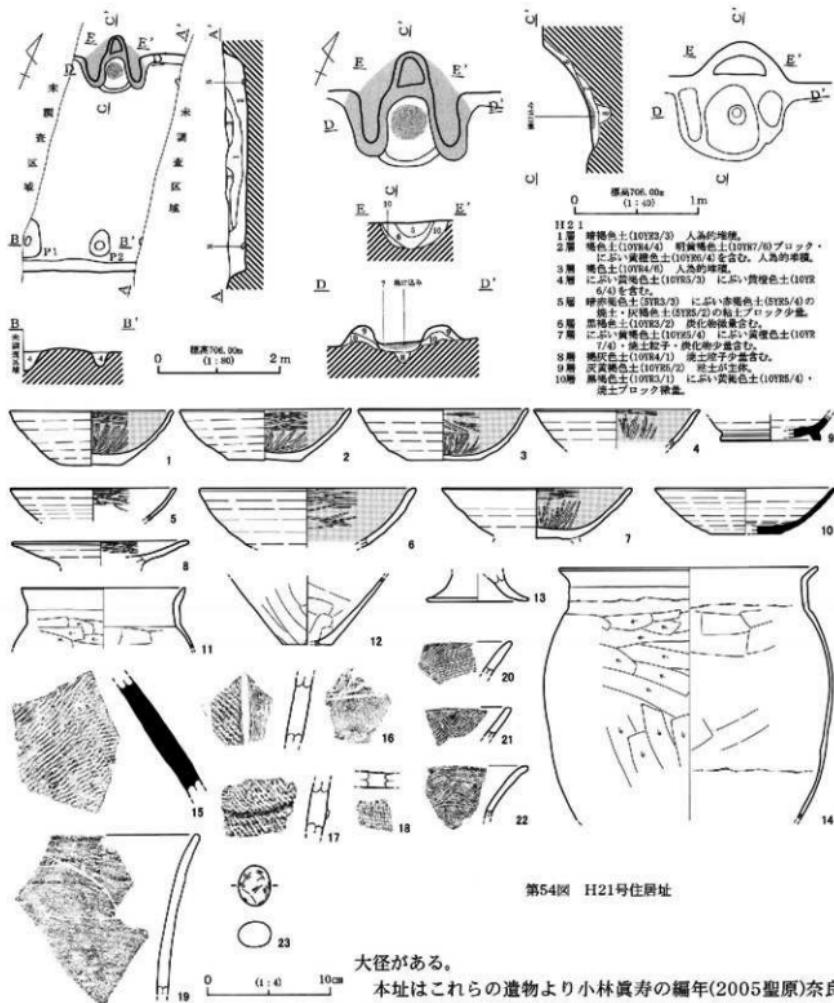
II区す・13・14Grにある。H14・M1に切られ、OT 3・P 138を切る。西側半分は、西近津遺跡IV(平成20年度)H49号住居址として調査され、北壁にカマドがある。主柱穴等は確認されていない。堅く平坦な床である。遺物は土師器の壺・武藏甕や須恵器壺・甕小片が少量ある。図示した縄文時代後期土器、石器は本址に伴わない。西近津遺跡IV(平成20年度)H49号住居址では、底部手持ちヘラケズリされる須恵器壺等が出土し、古墳時代後期のH50号住居址を切っている。このような状況から、本址は8世紀前半に位置づけられよう。



第53図 H20号住居址

(21) H21号住居址

II区す・せ・9・10Grにある。H22を切る。西側と東側一部分が未調査区と調査区域外にある。カマドが北壁中央にある。ピットは南壁下から2個検出された。床は堅く平坦で、床下の掘方は認められなかった。覆土1~3層は人為的埋土。遺物は、土師器の壺1~3、4~5壺?、碗7、碗?6、皿8、甕11~14、須恵器の有台壺9、壺10、甕15、本址に伴わない縄文時代中期・後期出土した。1~3・7・10は回転糸切り、1~4・6・7は内面黒色処理される。「コ」字口縁の武藏甕11~14は、胴部に最



第54図 H21号住居址

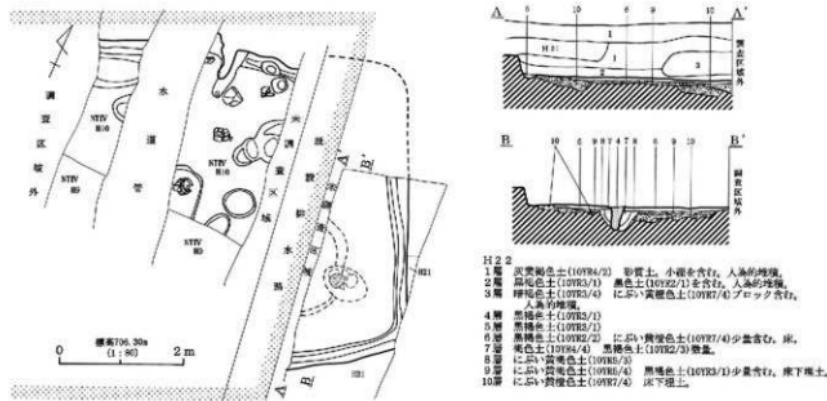
大径がある。

本址はこれらの遺物より小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期・9世紀前半に位置づけられる。

(22)H22号住居址

II区す・せ・9・10Grにある。H21に切られる。西側大部分は、西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址として調査され、北壁にカマドがある。本調査では柱痕が確認された主柱穴と見られるP1から柱痕が確認された。堅く平坦な床である。覆土1~3層は人為的埋土。遺物は土器師の須恵器壺蓋模倣

の壺や分厚い小麦片が少量ある。西近津遺跡IV(平成20年度)H10号住居址では、口縁部に最大径がある長胴の甕等、古墳時代後期の遺物が出土している。このような状況から、本址は小林眞寿の編年(2005聖原)古墳時代IV期-7世紀に位置づけられる。

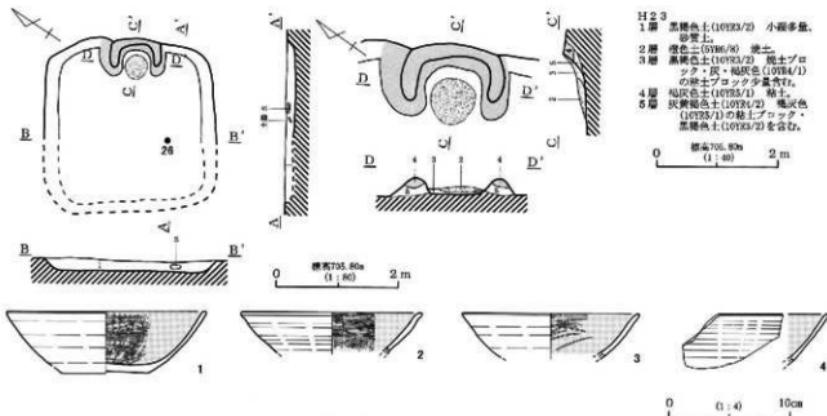


第55図 H22号住居址

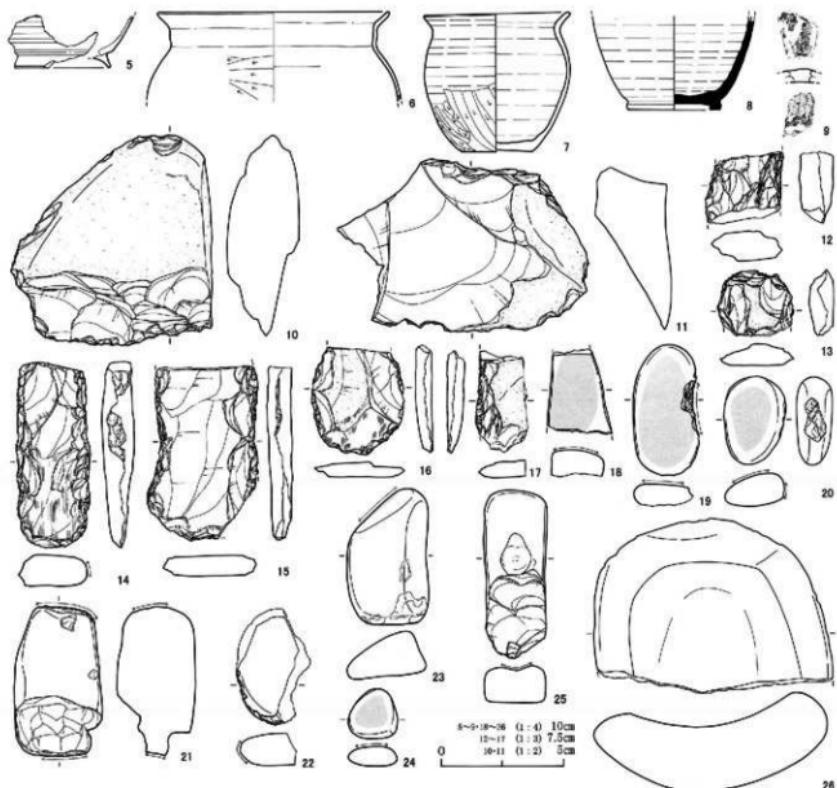
(23)H23号住居址

II区け・C-10-11Grにある。D13に切られ、H25を切る重複関係のため確認は困難を極めた。西壁および床下掘方は、不明瞭であった。北壁中央のカマドは、粘土と灰黄褐色土で構築された一部の袖部と火床が残る。床面は明確でない。物は、土器類の壺1、2～4壺、碗？、碗5、甕6・7、須恵器壺8、布目瓦、本址に伴わない縄文時代の石器、伴うか不明確な石器が多く出土した。1は回転系切り、1・2・4・5は内面黒色処理される。6は「コ」字口縁の武藏甕、7はロクロ甕である。

本址はこれらの遺物より、小林眞寿の編年(2005聖原)奈良・平安時代V期-9世紀前半に位置づけられる。



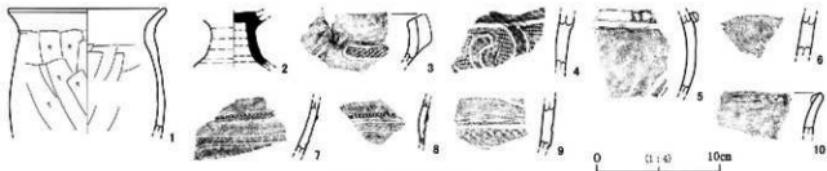
第56図 H23号住居址 (1)



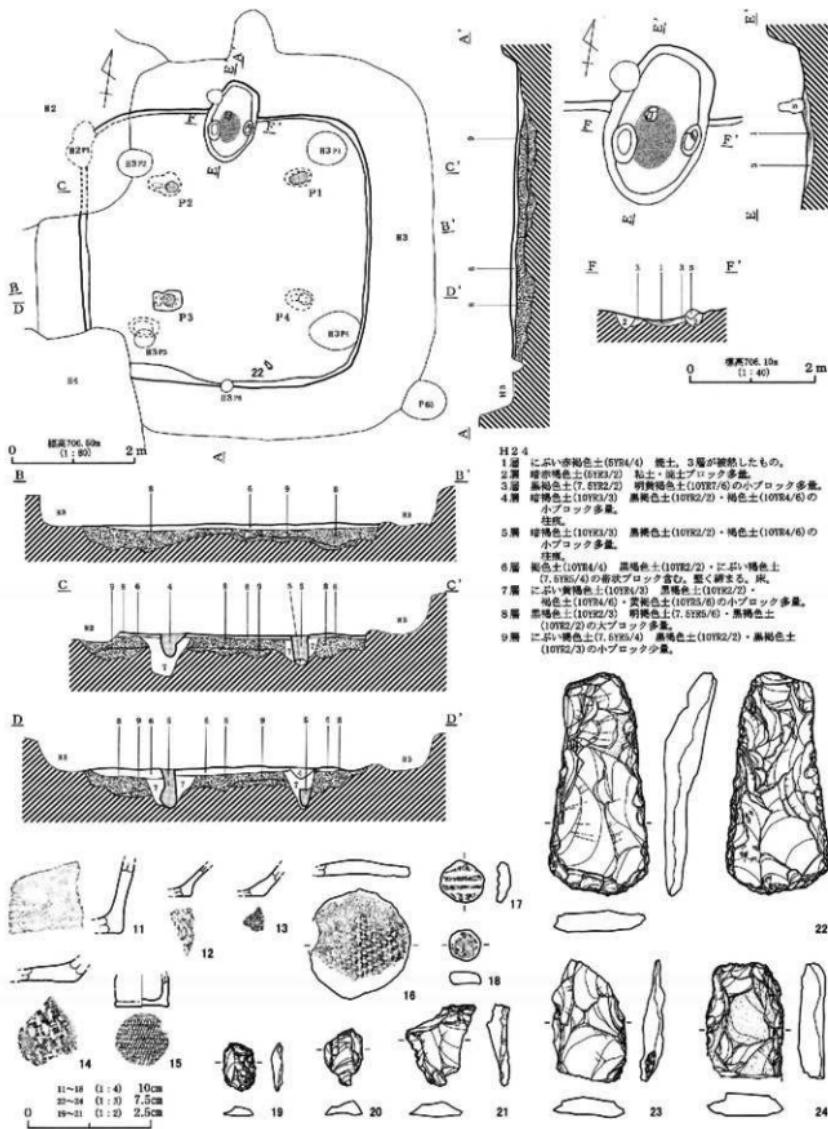
第57図 H23号住居址(2)

(24)H24号住居址

I区え・お-3・4 Grにある。H2~H4に切られる。H3のカマド・主柱穴と本址のそれらと相似形であり、本址がH3の規模に拡張されたとみられる。カマドは北壁中央で火床の支脚石、袖部芯材を埋め込んだピットがみられる。ピットは柱痕が確認されたP1~P4の主柱穴が検出された。堅く平坦な床である。遺物は1の土師器壺、2の須恵器高壺か高盤、本址に伴わない縄文時代後期土器・土製品・石器が出土した。本址は、H3の遺物より8世紀前半(第1四半期)以前に位置づけられる。



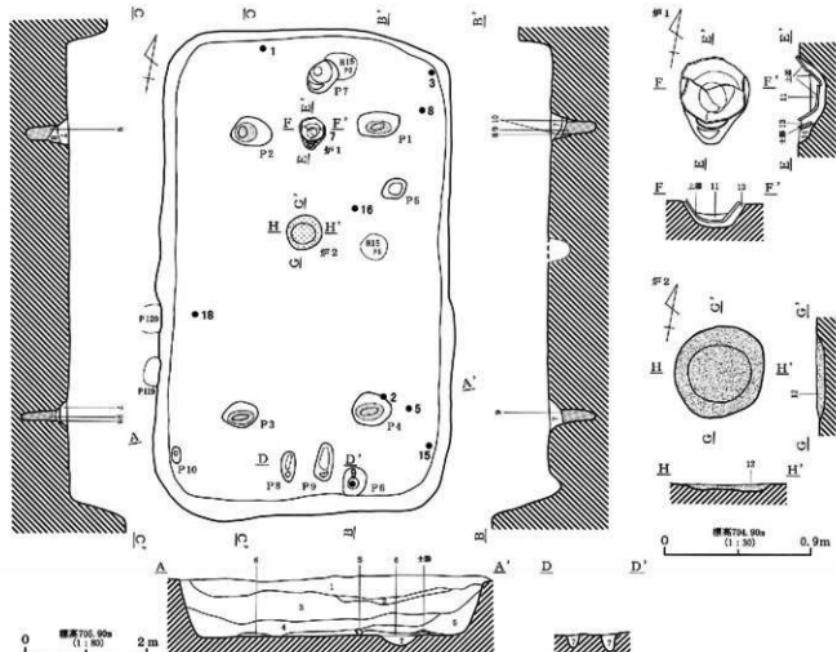
第58図 H24号住居址(1)



第59図 H24号住居址 (2)

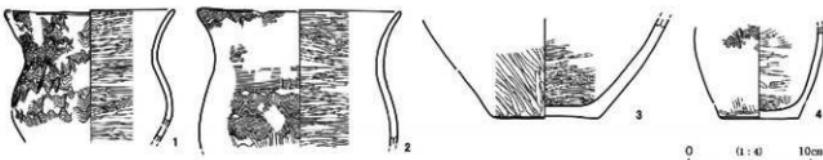
(25) H25号住居址

II区け・C-11～13Grにある。H15・H23・M1・D13・P40～P45・P51～56・P62・P119～123・P125に切られ、D29を切る。炉は主柱穴P1・P2間に住居址中央に、2基ある。炉1は7の壺底部を用いた土器埋設炉で、10cm程度掘りこまれている。壺底部内部に灰の堆積が認められた。炉2は地床炉で、3cmほどの焼土の堆積がある。ピットは9個検出され、P1～P4の主柱穴から五平状柱痕が確認された。P7は棟持柱、P8・P9は出入口施設、P6は貯蔵穴と考えられる。敲き床の床面は堅く平坦で、覆土1～5層は人為的埋土である。遺物は赤彩の壺・甕・赤彩の高杯・無彩の蓋等の弥生土器、柄



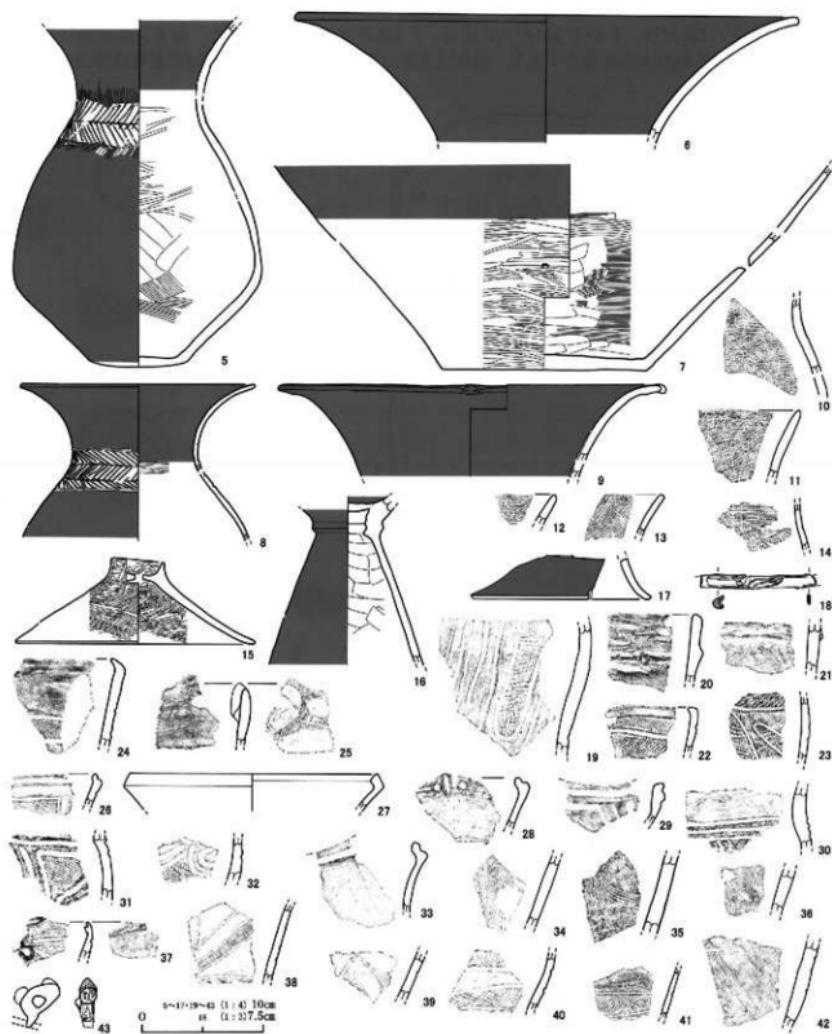
- 1層 黒褐色土(10YR2/1)に少い黄褐色土(10YR8/4)を含む。人為的堆積。
- 2層 黒褐色土(10YR2/1)
- 3層 に少い黄褐色土(10YR7/4) 黃褐色土(10YR3/4)ブロック含む。
- 4層 人為的堆積。
- 4.5層 黑褐色土(10YR4/1)に少い黄褐色土(10YR7/4)ブロック・に少い黄褐色土(10YR6/4)多量に含む。人為的堆積。
- 5層 に少い黄褐色土(10YR6/3) 人為的堆積。
- 6層 黒褐色土(10YR3/2) 塗上絞子・炭化稈子含む。
- 7層 黒褐色土(10YR2/3)

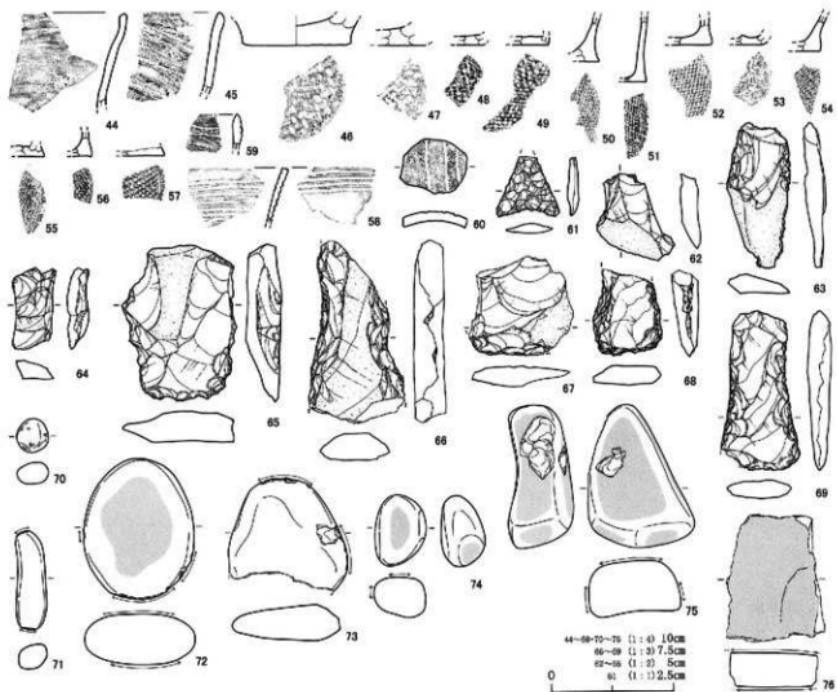
- 8層 密赤褐色土(5YR3/3) 横土粒子・焼土フロック少量含む。
- 9層 に少い黄褐色土(10YR6/4) 程度。柔らかい。
- 10層 黄褐色土(10YR7/4) 黄褐色土(10YR3/2)を少々含む。
- 11層 に少い黄褐色土(10YR7/4) 黄褐色土(10YR3/2) 灰化が進む。炭化物微量。
- 12層 例示被覆土(5YR5/3) 横土。
- 13層 浅黄褐色土(7.5YR3/3) 黄褐色土(7.5YR7/3)を多量に含み、少量の炭化物含む。
- 14層 に少い灰褐色土(7.5YR6/4) 烧土微量含む。



第60図 H25号住居址 (1)

部に木質残る刀子?、本址に伴わない縄文時代中期末～後期土器・土製円板(深鉢等の転用)がある。P1・炉周辺の床から1・3・8・16が、P4周辺の床から2・5・7・15が多数出土した。石器の時期は明確でない。本址は弥生時代後期箱清水期に位置づけられる。





第62図 H25号住居址実測図（3）

6. 土坑

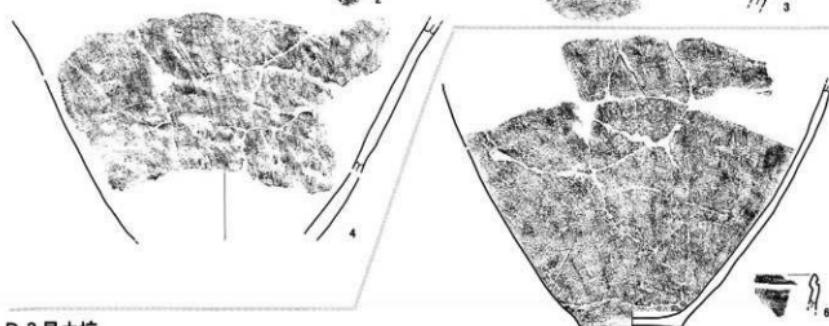
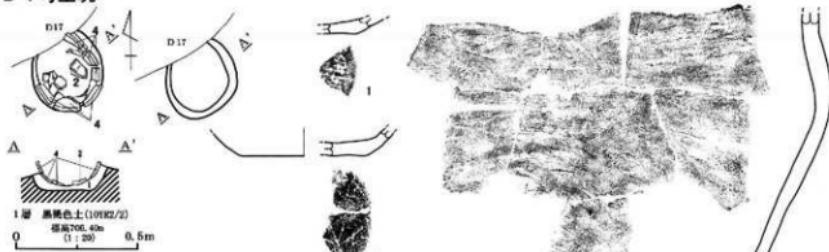
合計で37基の土坑が検出された。遺構掘り下げ時にピットの名称を付した中に土坑として扱うべき遺構もある（P97・P98）。D 4・D 5をのぞき35基から縄文・弥生・古墳時代の遺物が出土した。ほとんど縄文時代後期初頭から前葉の土器である。縄文時代後期前葉H12号住居址周辺に濃く分布している。

土坑底面にピット2個があり落とし穴とみられるD 32号土坑。

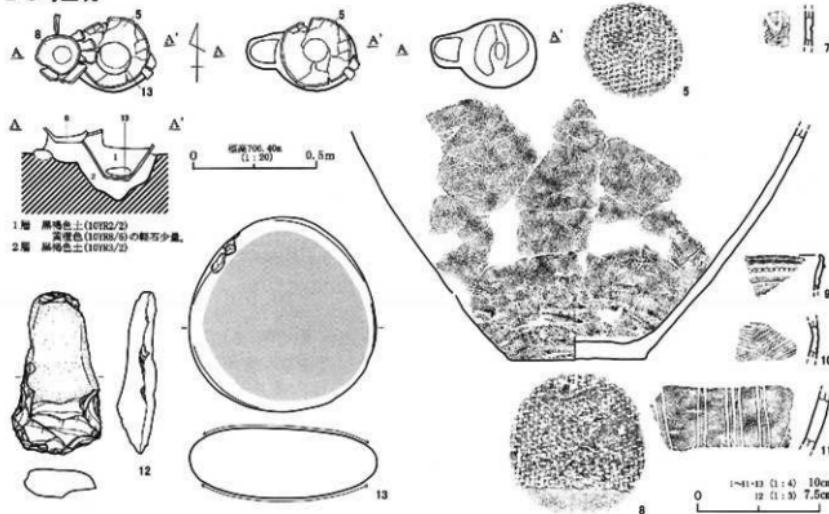
袋状の貯蔵穴とみられるD 6・D 21・D 22・D 29号土坑。D 22号土坑からは、堀之内1式の注口土器（第68図-138）・深鉢・石皿（第95図-164）・打製石斧・石錐・台石などが出土した。

土壤リシン酸分析を実施していないため断定できないが、D 1～D 3号土坑・P97・P98は墓址とみられる。く4グリッドのD 1号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部（第63図-4）が正位に埋設されていた。胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。他に深鉢の木葉痕を持つ底部と網代底の深鉢・粗製深鉢胴部が出土している。き-4グリッドのD 2号土坑は、径35cm深さ25cmの掘り込みに後期前葉堀之内1式の深鉢（第64図-18）を正位に埋設し、底部から8cm上に熔結凝灰岩の丸み帯びた礫と鉄平石、その上部に有頭大型石棒を納めている。石棒は残存長29.5cm最大径11.2cmで、頭部一部と基部を欠く。基部は欠損か分割かは不明。いずれにしても深鉢にほどよく取まる長さである。深鉢から20cm離れて16の陽形土製品が出土した。周辺の深鉢小片が18と接合しており、本遺構との関連性をあながち否定はできない。き-4グリッドのD 3号土坑は、後期前葉の粗製深鉢胴部から底部が正位に併置埋設されていた（第63図-5・8）。さらに、8の底部に接して13の円形の磨石が納められていた。

D 1号土坑

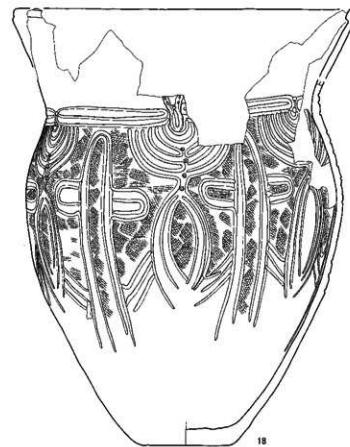


D 3号土坑

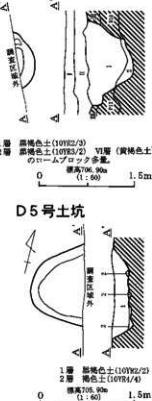


第63図 D 1・D 3号土坑

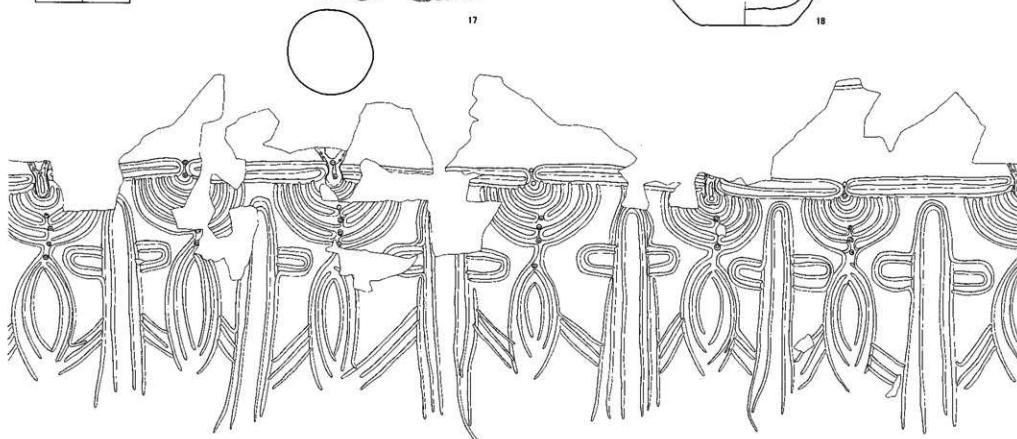
D2号土坑



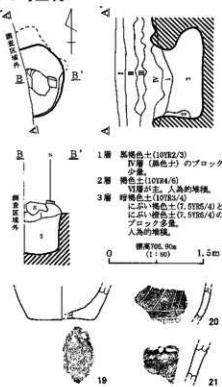
D4号土坑



D5号土坑

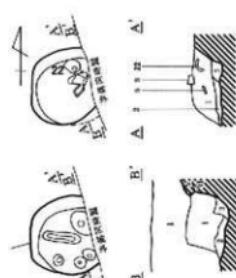


D6号土坑

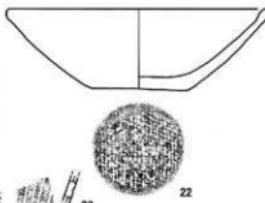


第64図 D2号・D4号・D5号・D6号土坑

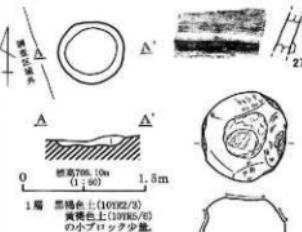
D 7号土坑



0 検索700.0m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR3/0) 黄褐色土(10YR5/0)
小プロック少々
2層 黒褐色土(10YR3/4) 黄褐色土(10YR5/6)
3層 黑褐色土(10YR4/8) 黄褐色土(10YR5/6)
人為的堆積。



D 8号土坑

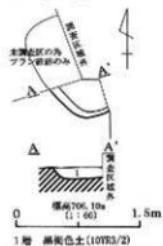


0 検索700.10m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR2/3)
黄褐色土(10YR5/6)
の小プロック少々。



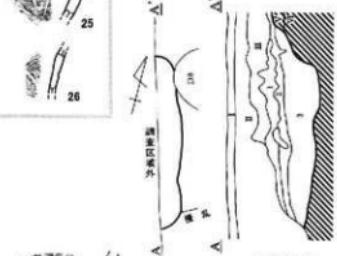
28

D 9号土坑



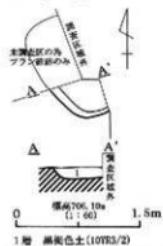
0 検索700.10m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR3/2)

D 10号土坑



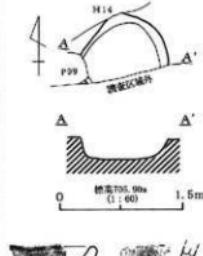
0 検索700.90m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR3/3) 砂質土。
2層 黒褐色土(10YR3/4)
3層 黃褐色土(10YR5/6)と
黒褐色土(10YR2/3)の
プロック多量。人為的堆積。

D 11号土坑



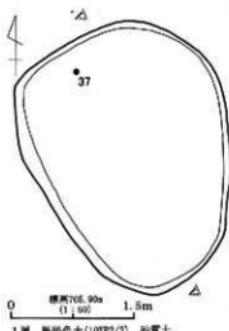
0 検索700.10m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR3/2)

0 22~26 (1:4) 10cm
37 (1:2) 5cm

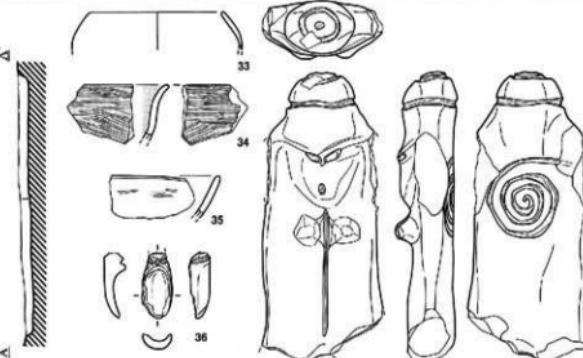


32

D 13号土坑



0 検索700.90m
(1:60) 1.5m
1層 黒褐色土(10YR2/3) 砂質土。



第65図 D 7号・D 8号・D 9号・D 10号・D 11号・D 13号土坑

D14号土坑

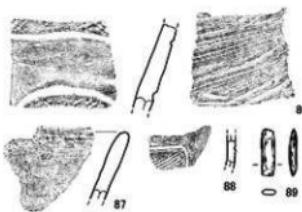


D15号土坑

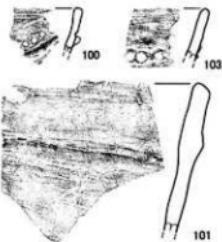
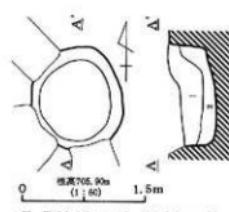


第66図 D14号・D15号・D16号土坑

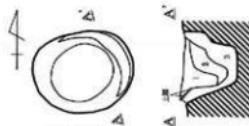
D16号土坑



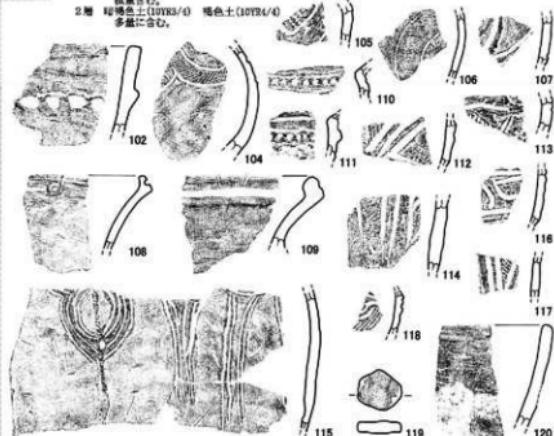
D18号土坑



D17号土坑



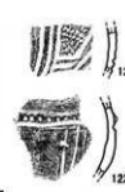
1層 黒色土(10YR2/1) 黑褐色土(10YR2/3)
ブロック含む。
2層 黃褐色土(10YR2/3)
3層 黑褐色土(10YR2/1) 黑褐色土(10YR2/2)
黄褐色土(10YR5/6)・青色土(10YR2/2)
のブロック多量。人頭的堆積。



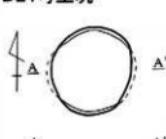
D19号土坑



1層 黑褐色土(10YR2/2)
黄色土(10YR3/4)小ブロック少量。



D21号土坑



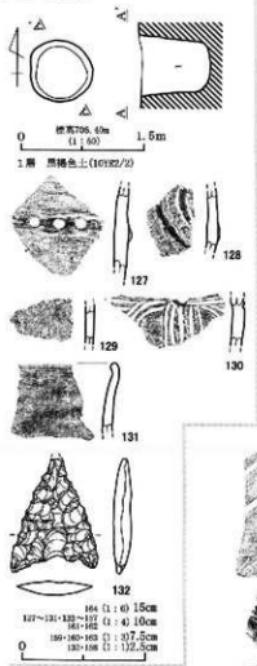
1層 黒褐色土(10YR2/2)
人頭的堆積。
2層 青色土(10YR4/4)
人頭的堆積。
3層 黄褐色土(10YR3/3)
青色土(10YR4/6)の小ブロック
多量。人頭的堆積。

86-89-90-126 (1:4) 10cm
89 (1:37.5cm)

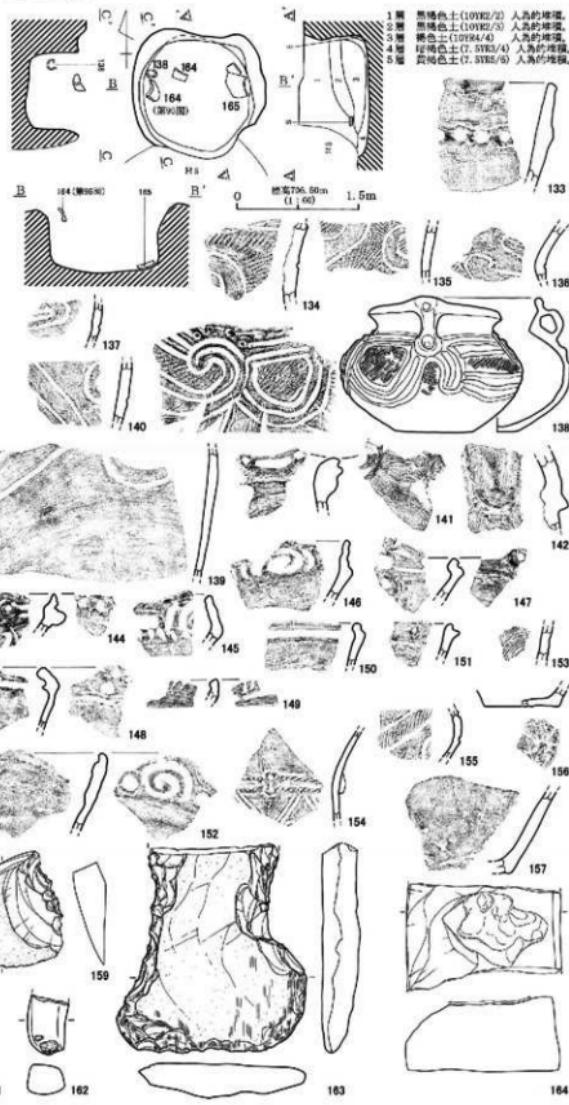


第67図 D16号・D17号・D18号・D19号・D21号土坑

D20号土坑

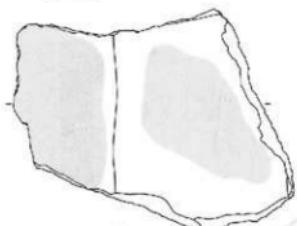


D22号土坑

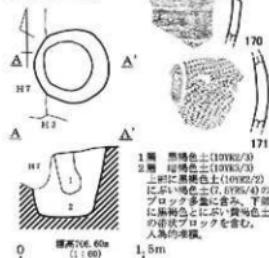


第68图 D20号·D22号土坑

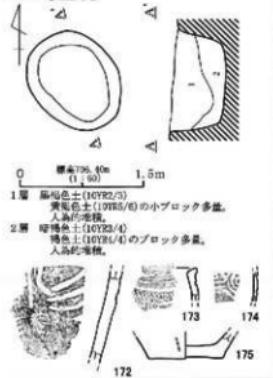
D22号土坑



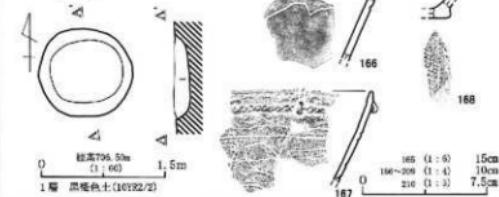
D26号土坑



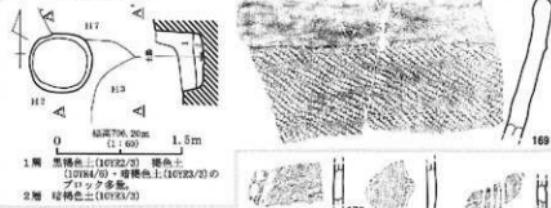
D27号土坑



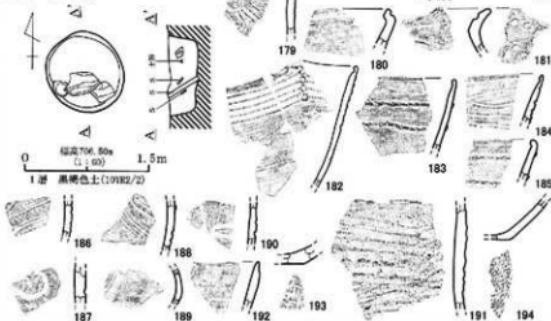
D23号土坑



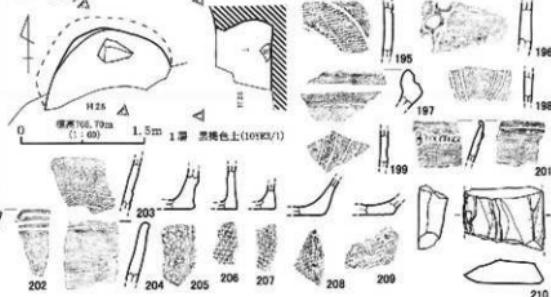
D25号土坑



D28号土坑

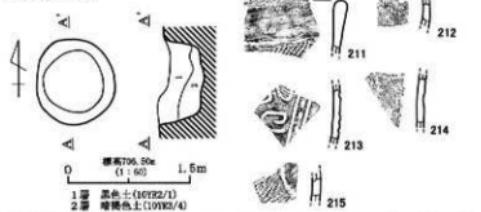


D29号土坑

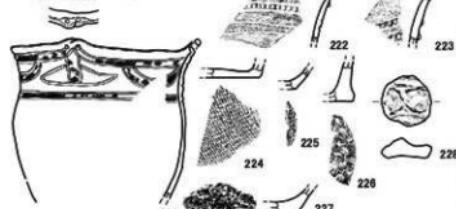
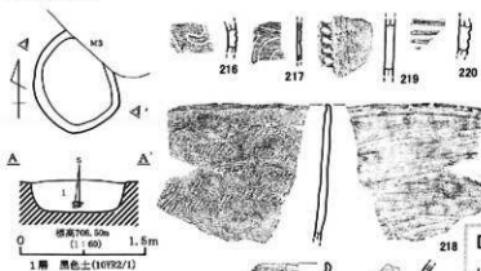


第69図 D22号・D23号・D25号・D26号・D27号・D28・D29号土坑

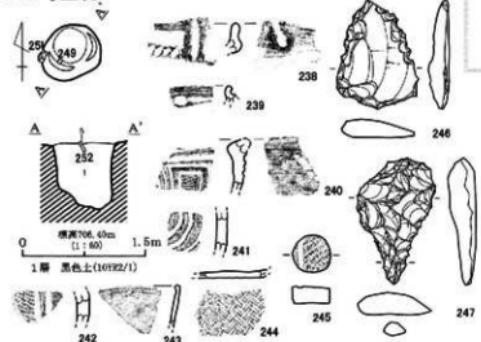
D30号土坑



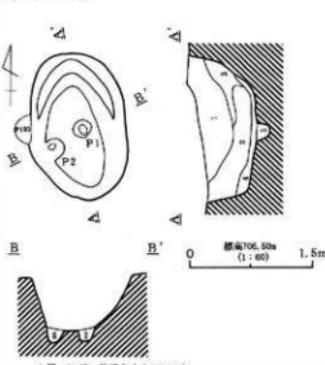
D31号土坑



D34号土坑

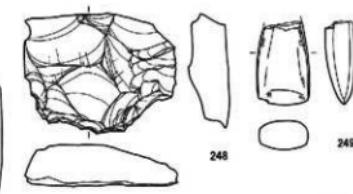
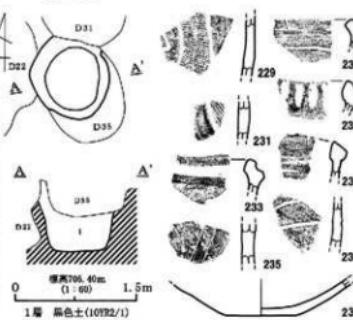


D32号土坑



1層 に赤い黄褐色土(10Y37/3)
黄褐色土(10Y37/9)ブロック・粒子含む。
人為的堆積。
2層 に赤い黄褐色土(10Y37/9)ブロック含む。
人為的堆積。
3層 に赤い黄褐色土(10Y37/4)人為的堆積。
4層 に赤い黄褐色土(10Y36/4)
浅黄褐色土(10Y28/4)を含む。人為的堆積。
5層 に赤い黄褐色土(10Y36/3)

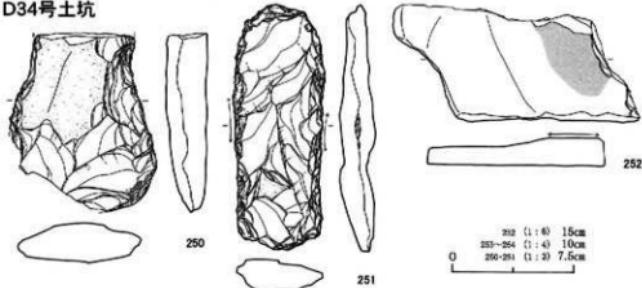
D33号土坑



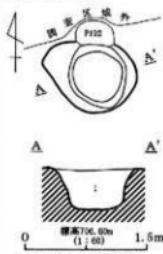
231~240 (1:3) 10cm
249 (1:3) 7.5cm
248 (1:3) 5cm
241~247 (1:1) 2.5cm

第70図 D30号・D31号・D32号・D33号・D34号土坑

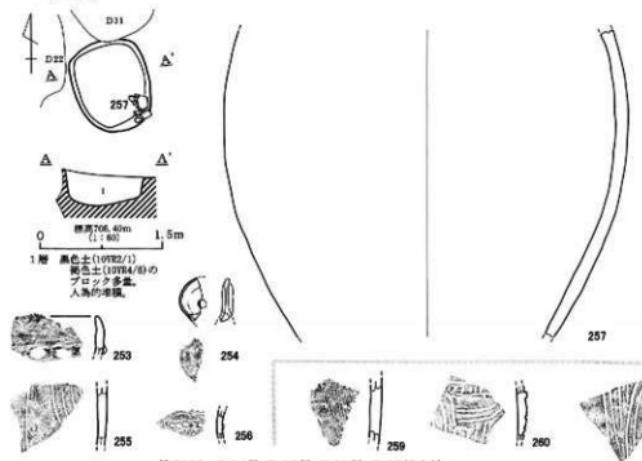
D34号土坑



D36号土坑



D35号土坑



第71図 D34号・D35号・D36号・D37号土坑

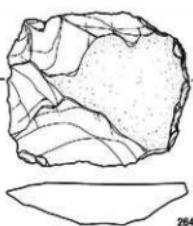
8の胴部内面は黒色に変化し、薄い黒色の付着物が見える。

P 97はす-11グリッドで縄文時代後期前葉のD 14土坑、M 1号溝状遺構に切られる。残存高61.5cmの口縁部を欠く大型粗製深鉢がほぼ正位に埋設されていた。

ある程度時期が想定できる土坑は、次のとおりである。

- ・縄文時代中期後半～後期前葉の土器が出土。D 14-D 30
- ・縄文時代後期初頭～前葉の土器が出土。D 15-D 18-D 21～D 23-D 27-D 33-D 37
- ・縄文時代後期前葉の土器が出土。D 1～D 3-D 6～D 10-D 15～D 17-D 19-D 21-D 25-D 26-D 28-D 29-D 31-D 34-D 35-P 97
- ・弥生時代中期栗林式が出土。D 36
- ・古墳時代後期と縄文時代後期前葉の土器等が出土している。D 13
土坑は、け-こ-11-12グリッドで弥生後期・古墳時代後期・平安

D37号土坑



時代のH15・H23・H25を切る。古墳時代後期の土師器と縄文時代後期前葉の土偶と土製匙が出土した。土偶は両腕と足を欠損する。中期の板状土偶の伝統を残し、体部側面形は扁平で頭部が肩の真上に付かず、体部上端の前面についている。前面には乳房を突起、正中線を沈線で、細長い刺穴でつり上がった目、隆帶で眉と鼻を表現している。頭部の一条の沈線はかぶり物の表現か？背面に渦巻き状沈線、頭頂部に垂直な盲孔と円形沈線を施す。

7. 円形周溝墓

3基の円形・方形周溝が検出された。主体部が検出されないが、形状・遺構重複関係や80m東方長野県埋蔵文化財センターの西近津遺跡群の調査で弥生時代の周溝墓が17基調査されており周溝墓として大過ないであろう。

(1) OT 1号円形周溝

し・す11グリッドで、H17・M1・P84・P86に切られ、P98・P137・P143・P144を切る。径は溝外側で4.6m、幅0.40~0.56m深さ0.27m前後、南西で溝が切れる。

遺物は縄文時代中期後・後期初頭・後期前葉の土器、打製石斧が出土した。

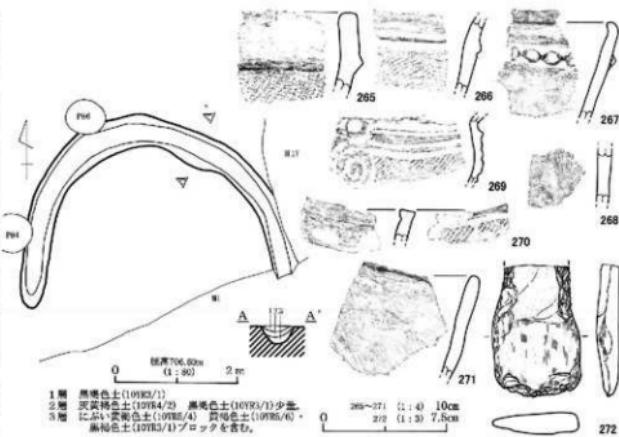
(2) OT 2号円形周溝

し13・14グリッドで、H14に切られ、P92・D18を切る。径は溝外側で推定7m、幅0.5~0.6m深さ0.21m前後。

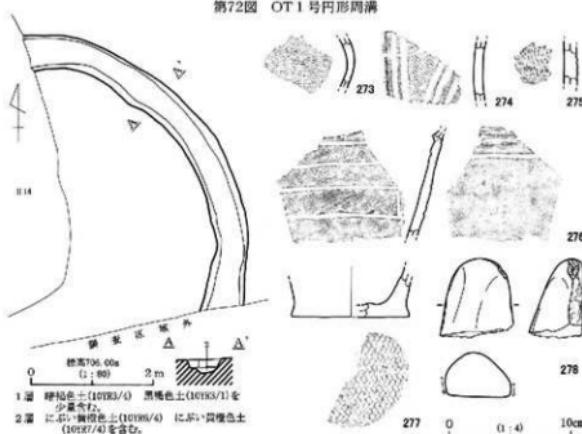
遺物は弥生時代後期箱清水式の甕、縄文時代後期前葉・中葉の土器、敲石が出土した。

(3) OT 3号方形周溝墓

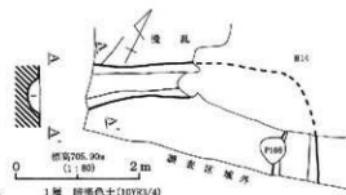
し14・す14グリッドで、H14・P108に切られる。1辺推定4m以上、幅0.5~0.7m深さ0.23m前後。出土遺物はない。



第72図 OT 1号円形周溝



第73図 OT 2号円形周溝

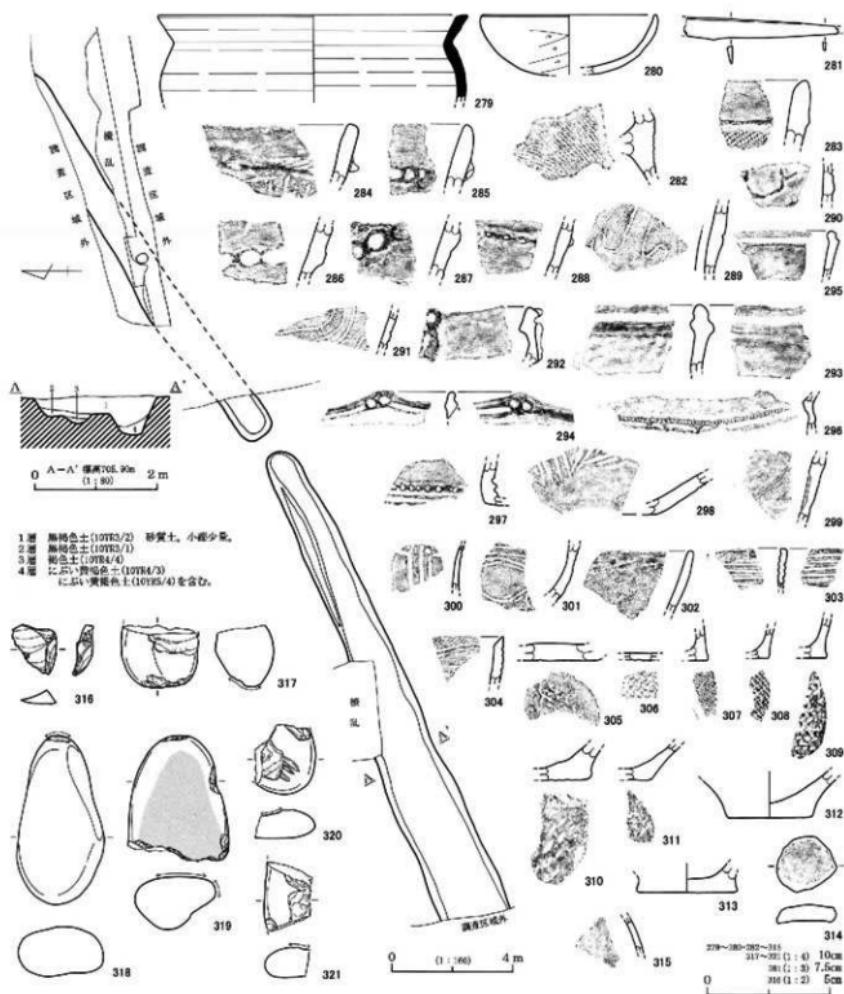


第74図 OT 3号方形周溝

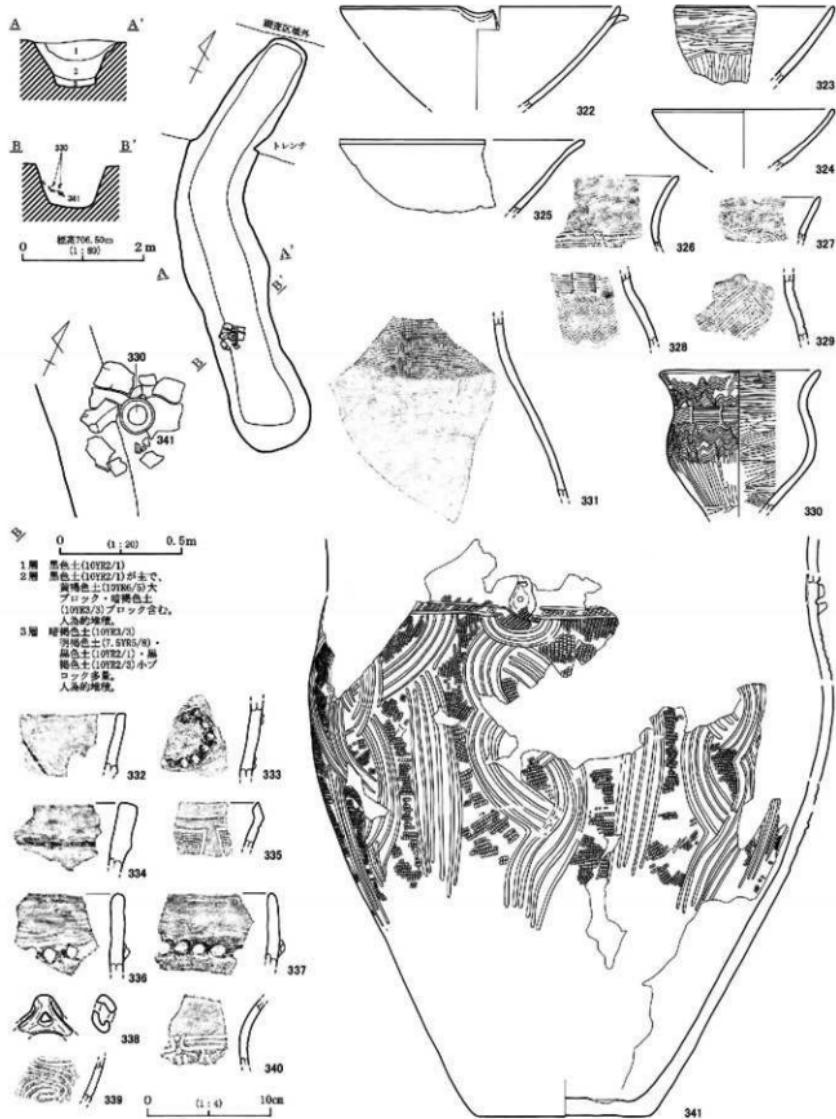
8. 溝状遺構

(1) M 1号溝状遺構

かへす-8~12グリッドで、H15・H17・H18・OT1・D29・P91・P105・P142を切る。H15号住居址カマド煙道部で途切れ、西側は西近津遺跡IVで検出された溝に続きさらに西に延び、東は未調査区域に延びる。H17・H18重複部分で溝底が把握できず、溝西側部分ではテラスを持つ断面形とU字状



第75図 M 1号溝状遺構



第76図 M3号冲状道構 (1)



第77図 M3号溝状遺構(2)

の断面形で(掘下げ時のM2で欠番とする。)

東側はテラスを持つ。H15東側は断面U字形であり、同一の溝で新旧関係があったのかもしれない。東端と低い西端で20cmの高低差がある。溝底は堅くない。遺物は須恵器壺・土師器壺・刀子の他縄文時代中期後葉・後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器、石器が出土した。

本址は、住居址との重複関係から古墳時代後期以降の所産であろう。

(2) M3号溝状遺構

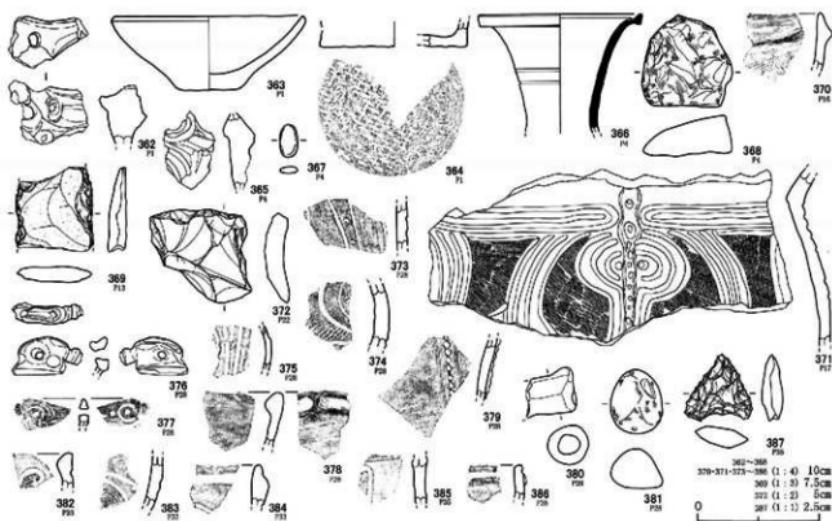
き・く・3・4グリッドで、D31・P89・P188を切る。くの字形の平面形で南北長7.26m上端最大幅1.34m最深度0.95m。断面は逆梯子形。

覆土は2・3層が人為的な埋土、3層上面から341の縄文土器片を敷き

330の弥生後期窯が置かれた状態が確認された。遺物は弥生時代後期箱清水式の壺・甕・台付甕・鉢・片口鉢・高杯、縄文時代後期初頭・後期前葉・後期中葉の土器・不明土製品、石器が出土した。

本址は、弥生時代後期箱清水式の所産である。

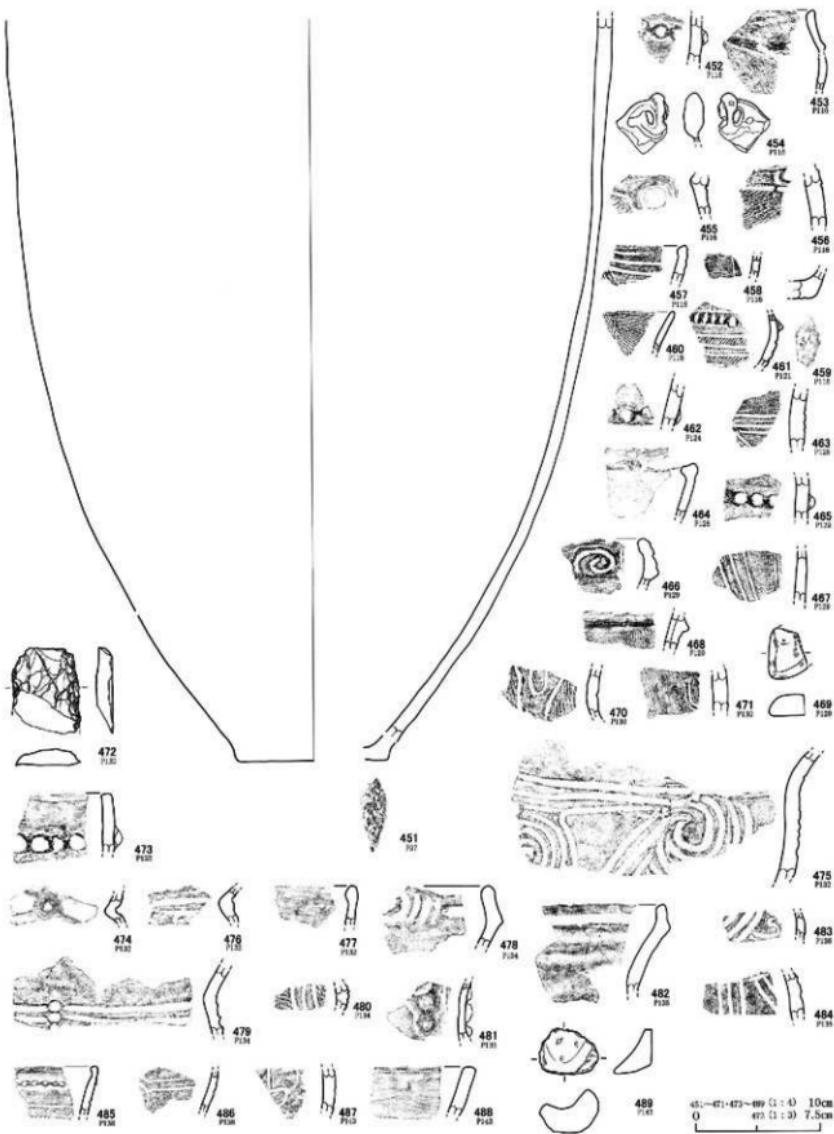
9. ピット



第78図 ピット出土遺物実測図(1)



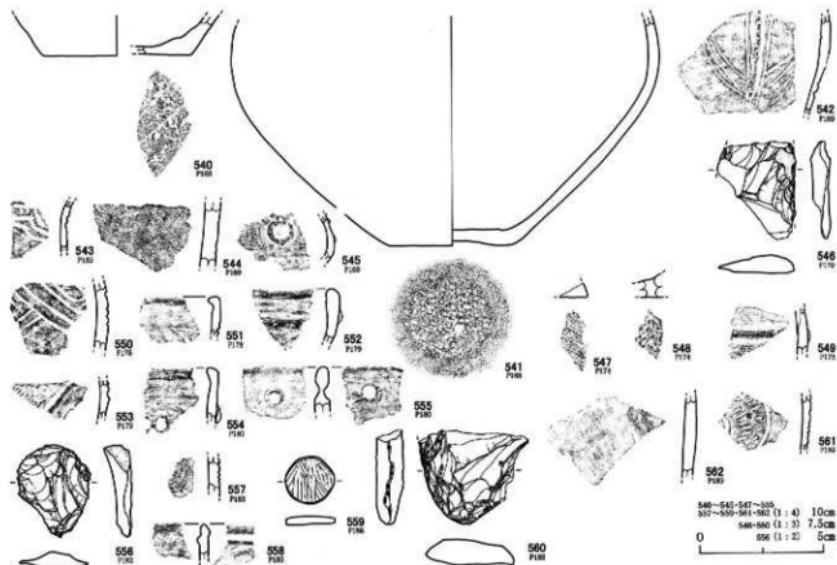
第79図 ピット出土遺物実測図（2）



第80図 ピット出土遺物実測図（3）



第81図 ピット出土遺物実測図（4）



第82図 ピット出土遺物実測図(5)

ピットは201基が検出され、A地区2地点、B地区的3地点に集中している。

A調査区H3(8世紀前半)とH1(弥生時代後期)周辺では、H1と新旧の重複が多くH2~4との重複が少ない。この地点のピットの時期はH1以前の縄文時代後期初頭から前葉、H2~H4の8世紀代が考えられよう。H12・土坑群(縄文時代後期)の周辺では、H5(8世紀後半)・H12との重複がなく、土坑群(縄文時代後期)との新旧の重複が多い。

A地区のP1・P28・P33・P153・P155・P169からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。P4からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器と平安時代の須恵器長頸壺が出土している。

B地区ほぼ全体で検出されたが、H23(9世紀前半)とD13より新しいものは確認されていない。H15・H17(古墳時代後期)との新旧重複、H25(弥生時代後期)より新しく、H14(8世紀前半)より古い傾向がある。

B地区的P49・P97・P99・P109・P115・P116・P129・P132・P138・P144・P164からは、縄文時代後期初頭~前葉の土器が多く出土している。

P97は、人骨の出土は確認されていないが第80図451の粗製深鉢がほぼ正位の状態で置かれており土器棺墓の可能性がある。

10. 遺構外出土遺物

縄文時代早期・中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、弥生時代中期・後期、土師器・須恵器、石器、鉄器、縄文時代石製品、縄文時代土製品が出土した。

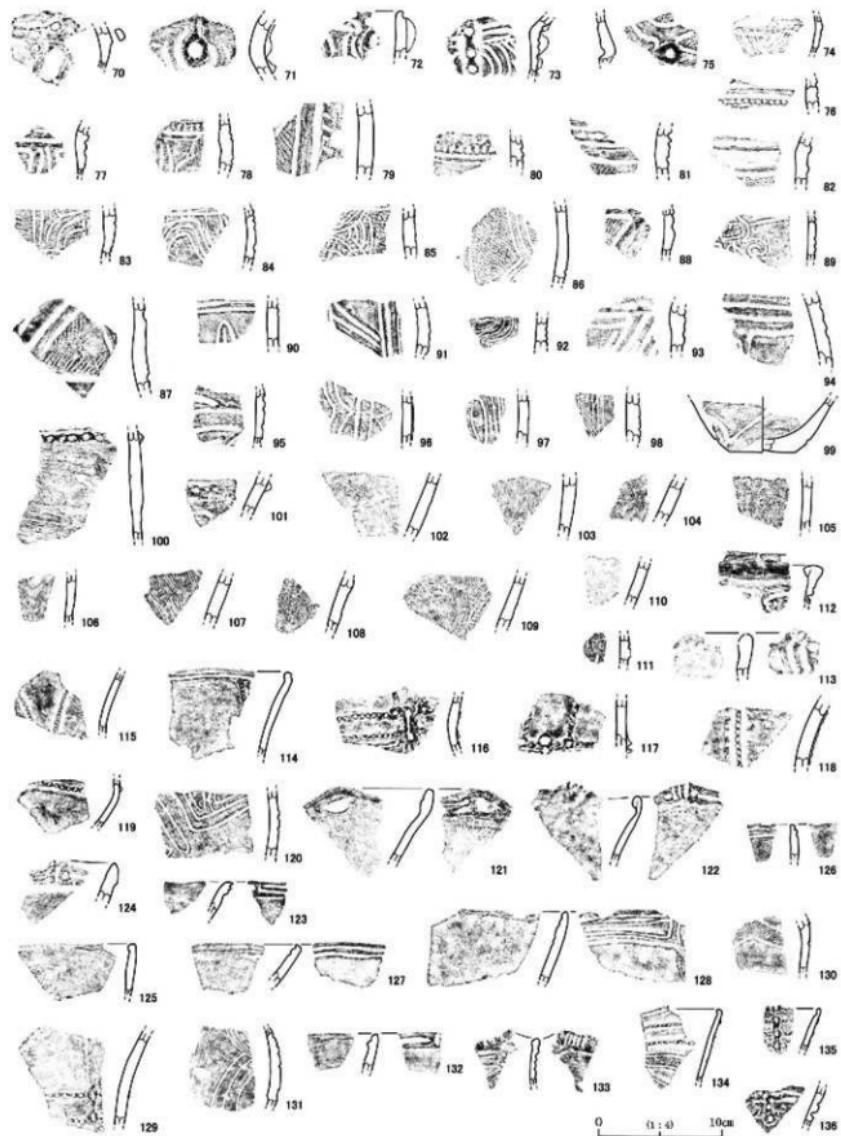
縄文時代早期田土下層式であろう深鉢片がA地区く4グリッドから出土した。

縄文時代後期初頭土器は、A地区的H12号住居址周辺に集中している。縄文時代後期前葉土器は、土坑群の周辺とD34周辺、東側に密集するピット群周辺に集中している。

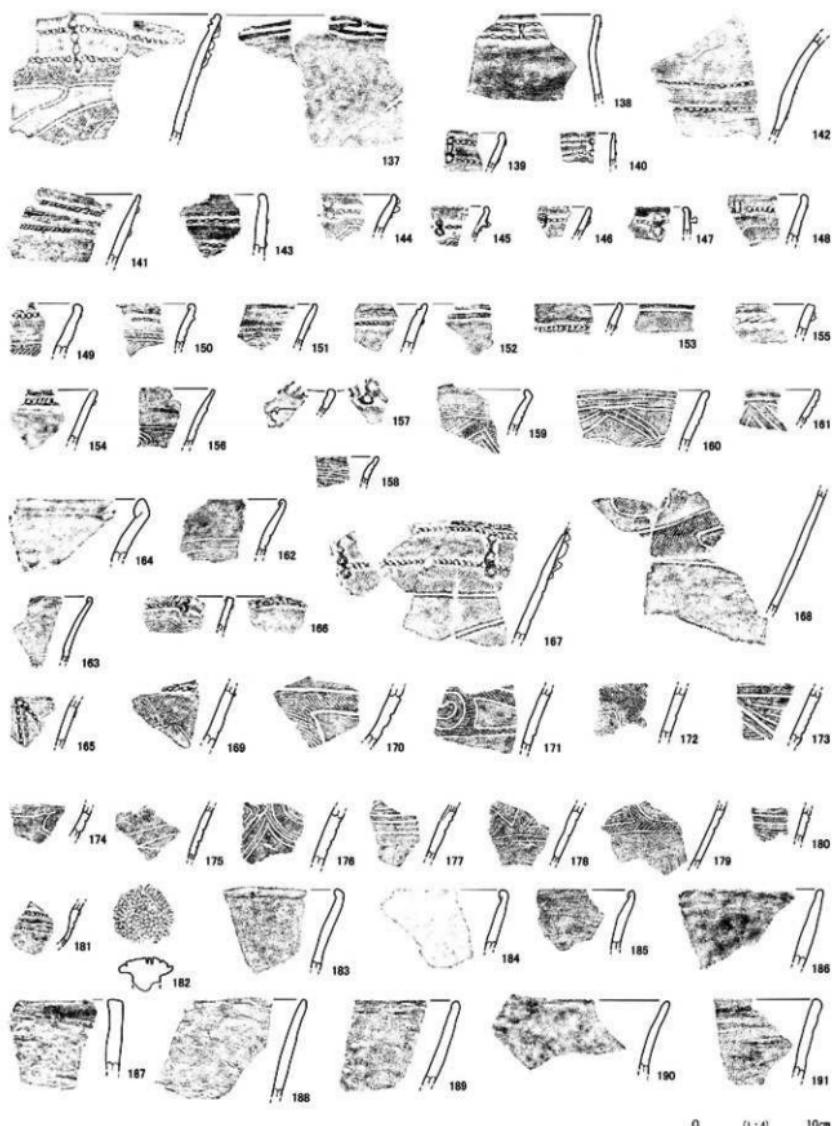
遺構外出土遺物（A 地區）



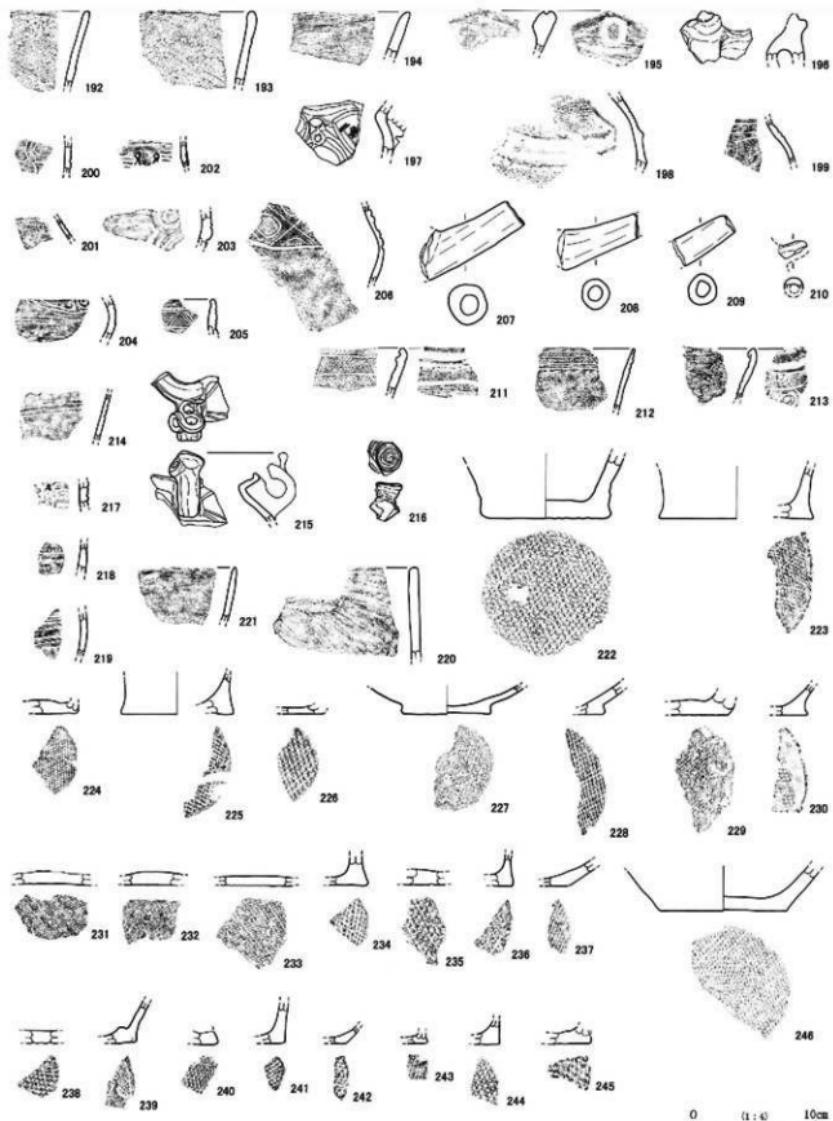
第83図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(1)



第84図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(2)

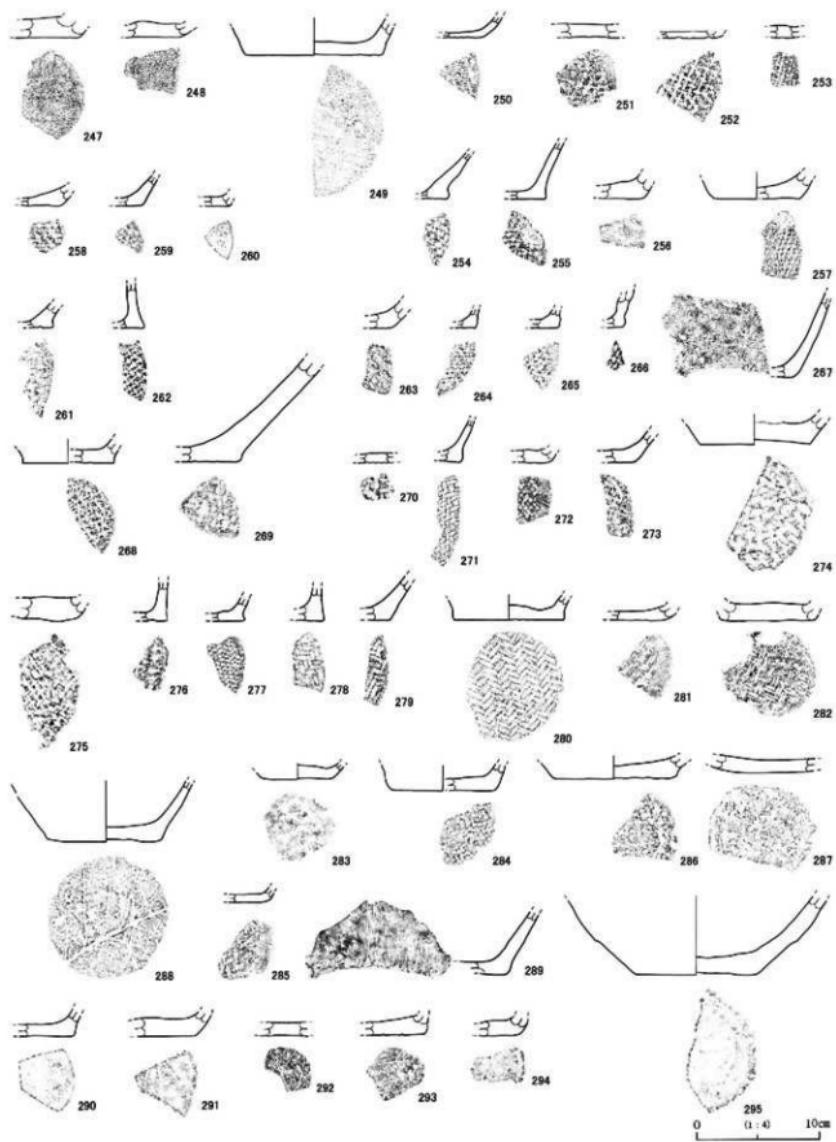


第85図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(3)

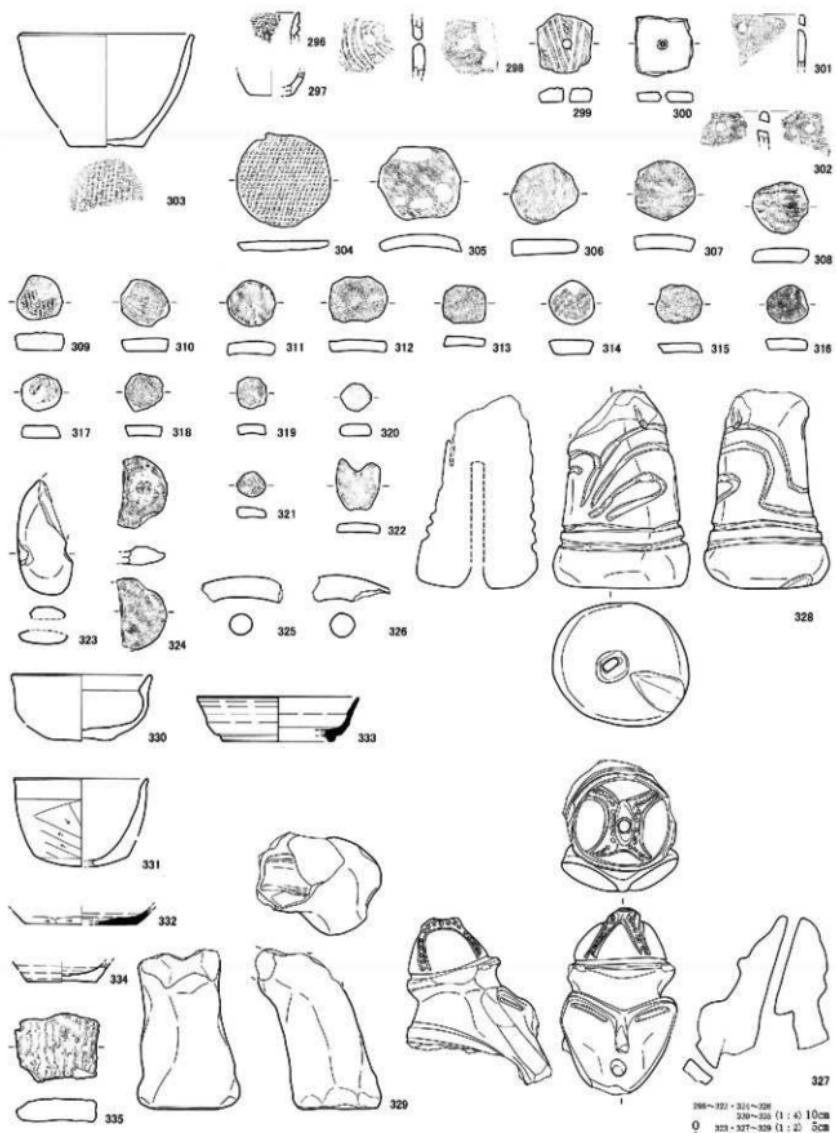


第86图 遗物外(A地区)出土遗物实测图(4)

0 (1:4) 10cm



第87図 造構外(A地区)出土遺物実測図(5)

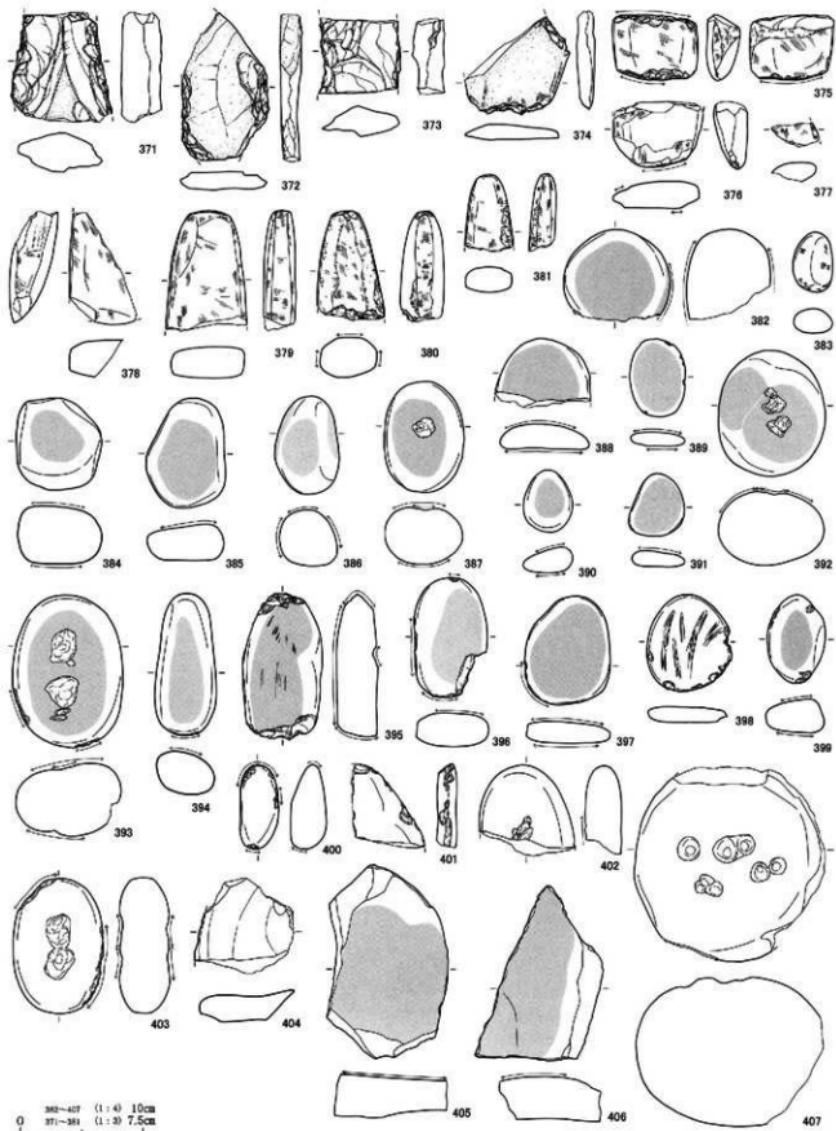


第88図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(6)

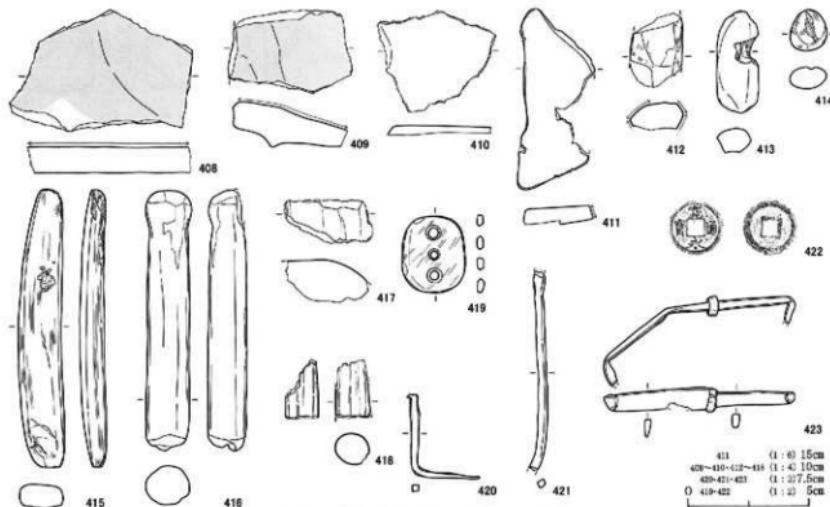
296~321・324~326
328~330 (1 : 4) 10cm
323・327~329 (1 : 2) 5cm



第89図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(7)

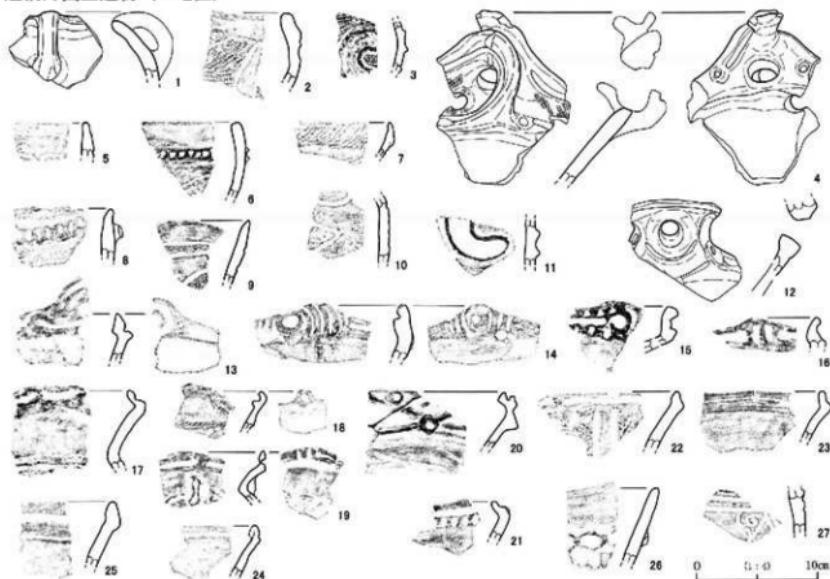


第90図 造構外(A地区)出土遺物実測図 (8)

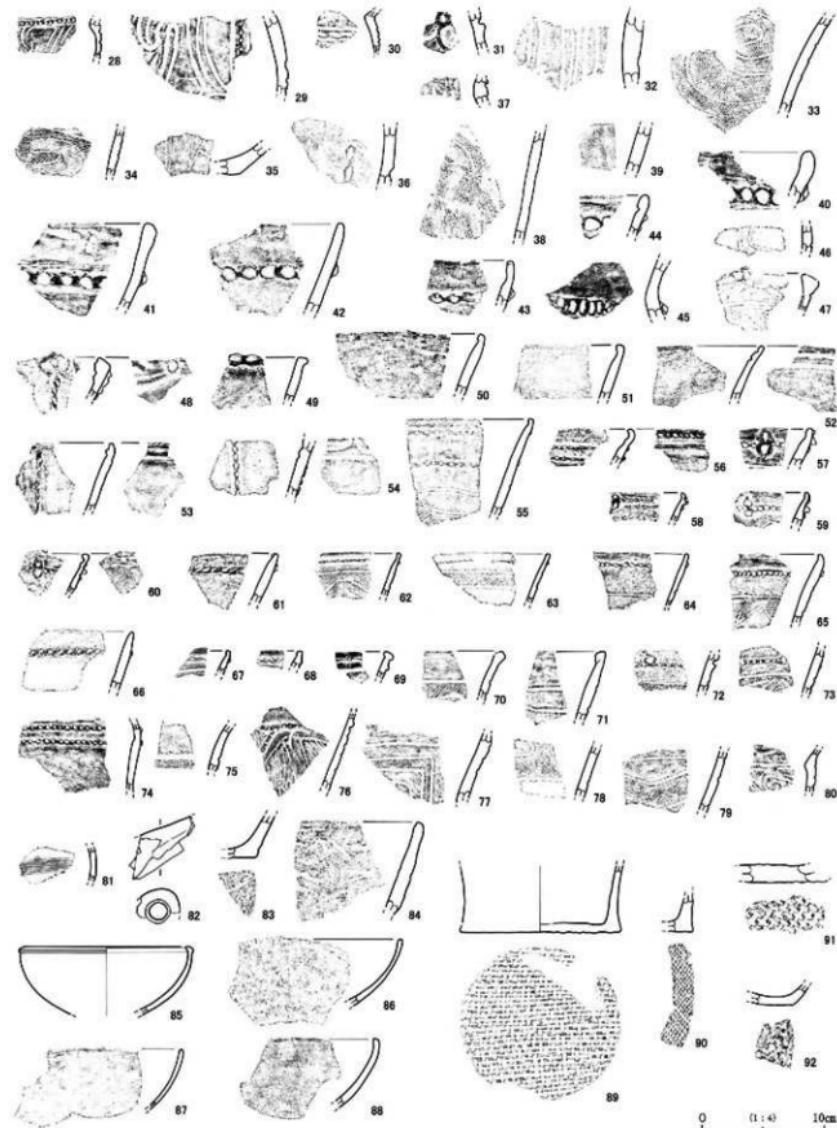


第91図 遺構外(A地区)出土遺物実測図(9)

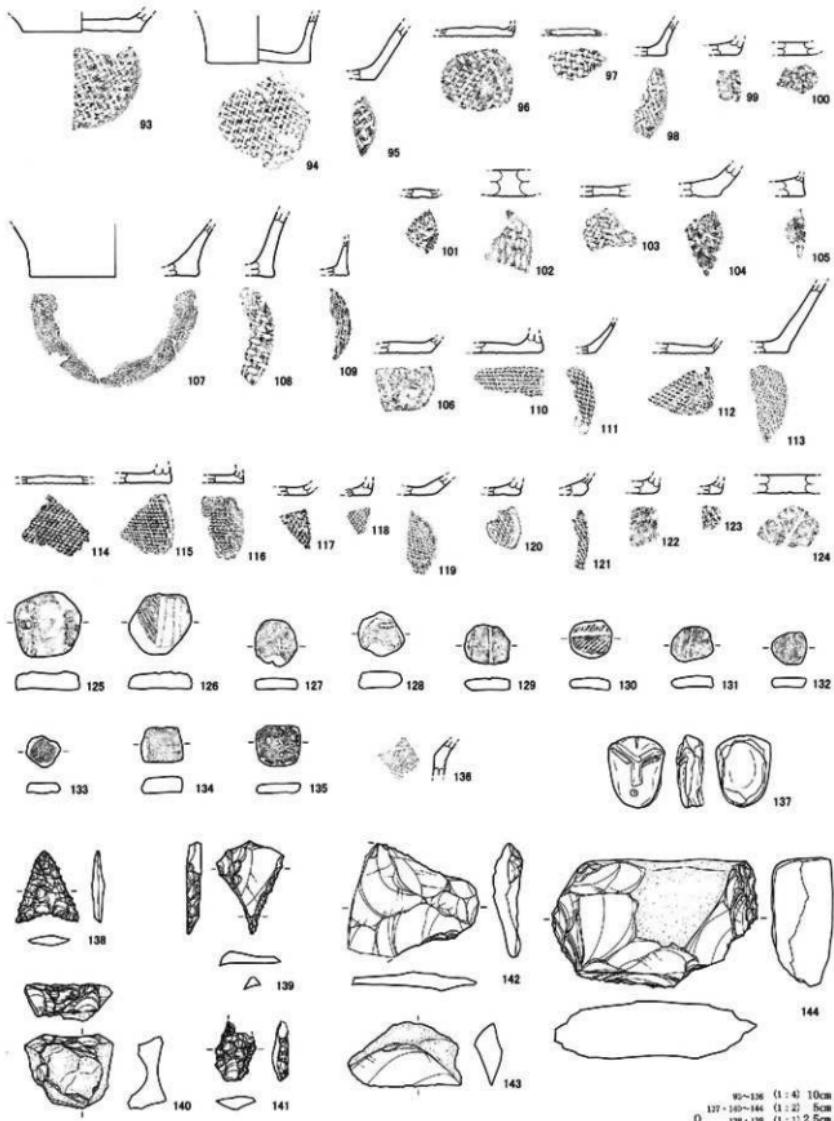
遺構外出土遺物 (B地区)



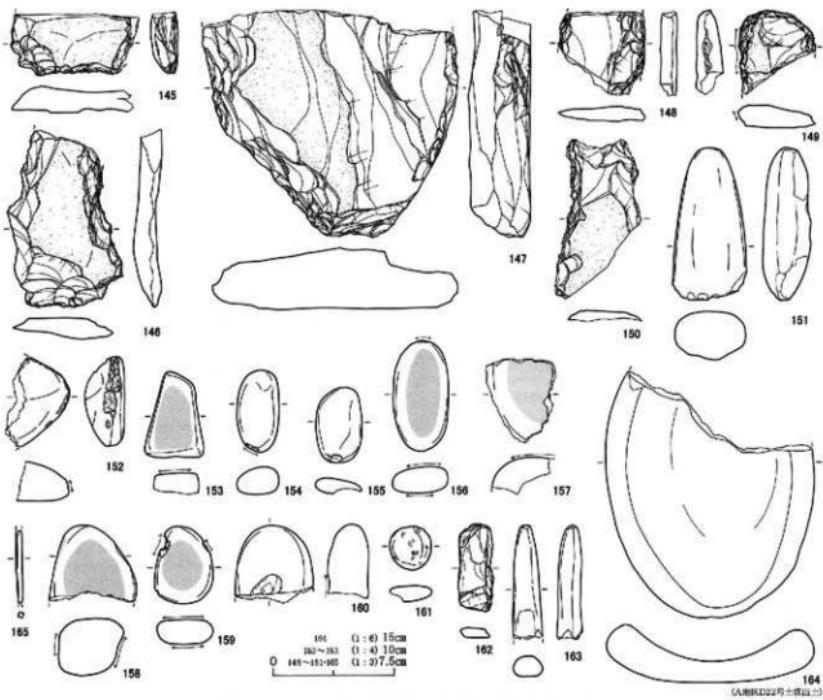
第92図 遺構外(B地区)出土遺物実測図(1)



第93图 道桥外(B地区)出土遗物实测图(2)



第94圖 遺構外(B地区)出土遺物実測図(3)



第95図 D22号土坑及び遺構外(B地区)出土遺物実測図(4)

B地区でも縄文時代中期後半・後期初頭・前葉・中葉・後葉、縄文時代石器、石製品が出土した。P49・D15・D16・P138周辺より比較的多く出土した。

416の小型石棒と391の丸い磨石が近接してえ-5グリッド遺構確認面より出土。329の土偶脚部片はえ-1グリッドD26近辺、328の土偶脚部片はBトレンチ、327の土偶顔面・頭部はD2土坑東、いずれも遺構確認面より出土した。327の土偶頭部は仮面のようにも見えるが、斜め上方に顔を突き出した形でY字流体で眉と鼻を、口は透かし孔で目は沈線で表現する。顔と頭部境の隆帯は帽子をかぶったような形である。突起状頭頂部から貫通孔、孔を起点の平行沈線内に小円形刺突のX字文が施される。後頭部に2条の沈線が巡る。堀之内1式の土偶の特徴を備えている。B地区し13グリッドから出土した筒形土偶とみられる第94図137は、D13号土坑出土の板状の土偶の顔面表現と酷似する。

4.まとめ

遺構は、周辺で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の堅穴住居址・土坑・溝状遺構等であったが、西近津遺跡群内で初見の縄文時代後期前半の敷石住居址が1軒確認された。また、他の調査地点では数少ない縄文時代の遺構と遺物が多量に検出された。堅穴住居址は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐都駅の北方にある鷺林城跡から東方に展開する縄文時代集落の東端を確認できた。

第1表 穴穴住居址・土坑一覧表

(浅存) (検出部) (推定) (cm)

番号	検出位置	平面形	方位	カマド (炉熱部位)	柱径 × 高さ	柱材種	名前					
H1	v3・4	北東部 南東部	北東部 西側壁 壁高	N	P1 60×80×65柱径25×20 P2 46×30×67柱径22×16 P3 30×24×65柱径20 P4 44×20×17.5 P5 12×38×34 P6 40×20×7.5 P7 62×34×60×19 副炉あり	柱径25×20 柱高20×67柱径22×16 柱径24×30 柱高20×65柱径20×17.5 柱径30×24 柱高38×34 柱径40×20×7.5 柱高60×19	三井北山1号 P1-P3、P5-P7、P7-T P3-C1からP5-P7を切る P3-C1からP5-P7を切る					
H2	う・か-1・5	(200)	-	(75)	66							
H3	お・か-3・4	方形	N-70° E	東 中央	P1 62×50×67柱径25×20 P2 39×23×65柱径20 P3 34×24×65柱径20 P4 46×34×65柱径20 P5 16×48×73柱径20 P6 35×30×68柱径20 P7 60×52×65柱径20 P8 48×34×27柱径20 P9 33×30×26柱径20	柱径25×20 柱高23×65柱径20 柱径34×24 柱高34×65柱径20 柱径16×48 柱高73柱径20 柱径35×30 柱高30×26柱径20	三井北山2号 P1-P3、P5-P7 P1-P3、P5-P7を切る					
H4	え・お-3・4	方形	N-8° W	北 中央	P1 62×54×71柱径25×20 P2 54×34×61柱径20 P3 32×30×65柱径20 P4 46×34×65柱径20 P5 16×48×73柱径20 P6 35×30×68柱径20 P7 60×52×65柱径20 P8 48×34×27柱径20 P9 33×30×26柱径20	柱径25×20 柱高24×71柱径25×20 柱径32×30 柱高34×61柱径20 柱径16×48 柱高73柱径20 柱径35×30 柱高30×26柱径20	三井北山3号 P1-P3、P5-P7 P1-P3、P5-P7を切る					
H5	か・が-4・3	方形	N-20° W	北 中央	P1 44×40×65柱径20 P2 60×20×120柱径20 P3 34×34×65柱径20 P4 50×74×72 P5 48×36×70 P6 40×40×65柱径20 P7 90×74×72 P8 48×36×70 P9 91×80×73 柱高120cm	柱径40×40 柱高20×120cm 柱径50×74 柱高72 柱径48×36 柱高70	三井北山4号 P1-P3、P5-P7 P1-P3、P5-P7を切る					
H6	き・く-5・6	方形	N-32° W	北 中央	P1 60×28×75柱径24	柱径60×28 柱高75柱径24	三井北山5号 P1-P3、P5-P7 P1-P3、P5-P7を切る					
H7	え・お-2・3	(200) (240)	-	62								
H8	あ・い-5	(110)	-	69								
H9	お・か-9	(110)	-	62								
H10	こ・4・3	(240)	-	10								
H11	こ・3・1	(170) (180)	-	40		P1 48×24×55柱無						
H12	ひ-3・4	P166	-			P1 74×80×76 P2 22×12×36 P3 16×16×19						
	こ・4	車輪 320.1	21									
H13	わ・か・き 9	(360)	-	(316)	76	N-21° W	北 中央	P1 60×30×46 P2 58×58×37	M1にカマドを少し切られる			
H14	さ・し・1・1・3	方形	N-8° W	北 中央	P1 84×40×65柱無	P2 55×23×71柱無	P3 56×48×65柱無	H18-H19・OT2・D10・ P12-104・146・147を切る				
H15	し・す・12・14	449 444 490 62	N-8° W	北 中央	P1 60×50×49柱無	P2 48×42×42						
H16	じ・こ・10・11	方形	N-31° W	北 中央	P1 50×50×72柱無	P2 80×60×88柱無	P3 74×68×68柱無	H23・H24・H25・H26・H27を切る				
H17	- - 12	(539) (312)	-	534 48								
H18	け 8	(365)	-	-	265	N-17° W						
H19	じ・し・10・11	方形	N-24° W	北 中央	P1 50×40×65柱無	P2 44×34×61柱無	P3 40×40×65柱無	M1にカマドを少し切る OT1・P16-17・ P17-18・P19-20・P21-22				
H20	す・12・13	(170) (168) (360) 56	N-23° W	-		P1 64×38×28×15柱無	P2 41×49×32柱無	H4-H5・M1-L1からR1-L2・ P1-P2・P1-P3・P1-P7に切る M1-M2・M3-M4に切る				
H21	す・12・13	(170) (160)	-	-	24			M1-M2・M3-M4に切る				
H22	す・13・14	(480) (280)	-	-	36			P15-E8を切る 近石津遺跡の H4-H5と同一層				
H23	す・せ 9・10	(180) (Q82.1)	-	29		N-25° W	北 中央?	P1 (82)×24×33 P2 42×30×36	H17-H18・OT2・D10・ P12-104・146・147を切る			
H24	す・せ 9・10	(180)	24.0	-	88			P1 78×54×51柱無	H17-H18・OT2・D10・ P12-104・146・147を切る			
H25	け・こ・10・11	(360) (188.2) (227.1) (584.1)	-	16		N-35° W	北 中央					
H26	え・お-3・4	416 (1352) 289.1 (340)	-	4		N-13° W	北 中央	P1 44×36×48柱無	H2-H3・H4-H5に切られる			
H27	じ・こ・11・12	方形	N-31° W	-		P1 70×40×61柱無	P2 60×16×72柱無	P3 60×44×79柱無	H2-H3・H4-H5に切られる P1-P2・P1-P3・P1-P7に切る			
H28	- - 18	432 422 736 720	90			P4 60×36×76 P5 20×36×21 P6 44×38×24 P7 54×40×44 P8 50×20×26 P9 64×38×31	P10 24×16×12	H2-H3・H4-H5に切れる P1-P2・P1-P3・P1-P7に切る P1-P2・P1-P3・P1-P7に切る				
H29	け・こ・6	(84) 128	20									
H30	け・こ・6	(80) 110 88	88	壁内1								
H31	け・7	-	94	(74)	45	壁内1						
H32	け・6・7	円形	82	76	15	倒壊部分						
H33	け・7	-	202	(360)	34	DRに切られる 壁内						
H34	さ・し-13・14	-	104	(64)	25	P19-P20に切られる 壁内上						
H35	あ・8	(50) (52)	12	H8を切る		D30 壁-4・5	楕円形	106	98	55	中腰壁半・楕円内2	
H36	き・9	-				D31 壁-4	楕円形	118	98	40	M2-M3を切る 壁内半・楕円内	
H37	け・こ・11・12	楕円形	332	248	24	M1-H23-H25を切る 壁材 室内壁	D32 壁-5	楕円形	183	116	83	P1-P3に切られる 壁内
H38	す・11	楕円形	(128)	148	62	P17を切り、P18とP19に切られる 中腰壁半・楕円内1・2	D33 壁-4	円形	102	96	75	D21に切れる D22とD23を切る 壁 内・楕円内
H39	し・10	楕円形	106	98	54	二つ部屋 壁内・室奥・壁内2	D34 壁-5	楕円形	76	64	81	壁内1・壁内2
H40	し・10	楕円形	126	(74)	28	中腰壁半・椭円半・壁内2	D35 壁-1・5	楕円形	126	103	40	D30に切られる 壁内
H41	<4	楕円形	122	100	69	D1を切る 壁内半・室奥半・壁内2	D36 壁-2・3	不整形	110	84	38	P1-P2に切られる 張子垂壁
H42	さ・13	楕円形	124	110	39	P17-P21に切られる 壁長壁・楕円内	D37 壁-4	楕円形	70	64	60	P1-P2に切れる 壁名・壁内2
H43	か・4・5	円形	104	104	30	壁内1	-	-	-	-	-	

土坑

(検出部) (残存部)

番号	検出位置	平面形	長軸	短軸	深さ (cm)	備考	発見箇所	平面形	長軸	短軸	深さ (cm)	備考	
D1	<4	円形	30	(25)	11	D17に切られる 後腰利斜	D20	か-4	円形	76	83	背舟半・壁内1	
D2	さ・4	円形	35	35	25	P18-P25を切る	D21	さ・-3	円形	104	102	P20に切れる 断面フラスク形・背舟半	
D3	き・4	不整形	43	28	19	壁内1・壁内2	D22	<4・5	不整形	146	140	80 H23-H24・P15-16に切られる 壁内	
D4	こ・1・5	-	-	(25)	30	H10-P15を切る	D23	さ・3	楕円形	110	106	20 壁内2	
D5	ひ・6	-	(84)	128	20	断面フラスコ形	D24	欠	-	-	-		
D6	け・こ・6	-	(80)	110	88		D25	円形	76	76	61	H2-H3に切られる 断面利斜	
D7	け・7	-	94	(74)	45	壁内1	D26	天-2・3	円形	90	90	87	H7に切られる 壁内
D8	け・6・7	円形	82	76	15	倒壊部分	D27	<4・5	楕円形	126	104	62	H5に切られる 壁舟半・壁内2
D9	け・7	-	202	(360)	34	DRに切られる 壁内	D28	さ・3・4	円形	94	91	36	P18-P19に切れる 壁舟半・壁内2
D10	さ・し-13・14	-	104	(64)	25	P19-P20に切られる 壁内上	D29	こ・11	-	126	84	64	H2に切られる 壁舟フラスコ形・壁内1・壁内2
D11	あ・8	(50)	(52)	12	H8を切る	D30	さ・4・5	楕円形	106	98	55	中腰壁半・楕円内2	
D12	き・9	-				D31	さ・4	楕円形	118	98	40	M2-M3を切る 壁舟半・楕円内	
D13	け・こ・11・12	楕円形	332	248	24	M1-H23-H25を切る 壁材 室内壁	D32	か・5	楕円形	183	116	83	P1-P3に切られる 壁内
D14	す・11	楕円形	(128)	148	62	P9を切り、P10とP11に切られる 中腰壁半・楕円内1・2	D33	さ・4	円形	102	96	75	D21に切れる D22とD23を切る 壁 内・楕円内
D15	し・10	楕円形	106	98	54	二つ部屋 壁内・室奥・壁内2	D34	さ・5	楕円形	76	64	81	壁内1・壁内2
D16	し・10	楕円形	126	(74)	28	中腰壁半・椭円半・壁内2	D35	さ・1・5	楕円形	126	103	40	D30に切られる 壁内
D17	<4	楕円形	122	100	69	D1を切る 壁内半・室奥半・壁内2	D36	さ・2・3	不整形	110	84	38	P1-P2に切られる 張子垂壁
D18	さ・13	楕円形	124	110	39	P17-P21に切られる 壁長壁・楕円内	D37	さ・4	楕円形	70	64	60	P1-P2に切れる 壁名・壁内2
D19	か・4・5	円形	104	104	30	壁内1	-	-	-	-	-		

第2表 ピット計測表

欠番61-76-150-171 (cm)

機種	機種番号	高さ × 幅さ	重 量	No.	機種別番	高さ × 幅さ	重 量
1	品名	32×28	10YK3/3-10YK3/4	23	72×50	タラウア H1 を切る。10YK3/3	136
2	品名	56×50	10YK3/3-10YK3/4	75	11×20-55	H1 を切る。10YK3/3	137
3	品名	47×59	10YK3/2-10YK3/3	75	6×39	H1 を切る。10YK3/3	138
4	品名	38×40	10YK3/2-10YK3/3	77	11×4	99×19	HI-778 が切る。H1 内に 2. 10YK3/2
5	品名	32×22	Y3 23.8 あり。幅さ 20cm	78	11×4	95×42	10YK3/3
6	品名	69×54	10YK3/4	79	5×4	64×36	タラウア H1 で切れる。10YK3/3
7	品名	60×44	10YK3/3-10YK3/4	80	5×4	65×38	タラウア H1 で切れる。10YK3/3
8	品名	40×34	10YK3/3	81	5×4	75×61	タラウア H1-92 が切る。H1 内に 1. 10YK3/3
9	品名	35×23	H13 を切る	82	11×4	76×23	10YK3/3
10	品名	40×47	10YK3/4	84	9×11	70×84	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3 を切る
11	品名	32×43	10YK3/3-10YK3/6 の多く	85	11×12	0×9×56	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3 を切る
12	品名	35×12	10YK3/2	86	8×10-11	61×50	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3 を切る
13	品名	53×37	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	86	8×10-11	74×70	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3 を切る
14	品名	45×16	10YK3/3-10YK3/4 の多く	87	7×11	78×33	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3-3 の多く
15	品名	78×29	タラウア H1-94 10YK3/2-10YK3/3	88	7×11	78×33	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3-3 の多く
16	品名	63×39	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3-3 の多く	89	6×7.0	78×49	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3-3 の多く
17	品名	76×23	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	90	5×11	62×22	10YK3/3-10YK3/4 の多く
18	品名	48×17	10YK3/2-10YK3/3 の多く	90	6×11	73×39	タラウア H1-94 が切る。H1-PT3 を切る
19	品名	38×31	タラウア H1-94 を切る	91	7×12	68×17	MI に切れる。H1-PT3 を切る
20	品名	40×27	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	92	8×12	84×36	MI に切れる。H1-PT3-3 を切る
21	品名	65×30	タラウア H1-94 が切れる	93	6×7.0	63×32	MI に切れる。H1-PT3-3 の多く
22	品名	70×44	10YK3/3-10YK3/4 の多く	94	7×11	74×39	10YK3/3-10YK3/4-10YK3/5 の多く
23	品名	46×39	タラウア H1-94 が切れる。軸	95	7×11	63×48	タラウア H1-94 が切れる。軸
24	品名	52×26	10YK3/2	96	8×10-11	75×36	10YK3/3-10YK3/4-10YK3/5 の多く
25	品名	69×41	10YK3/2-10YK3/5 の多く	96	8×10-11	75×36	10YK3/3-10YK3/5 の多く
26	品名	64×32	P27 が切る 10YK3/2	97	7×11	90×44	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く
27	品名	48×36	10YK3/4-10YK3/5-10YK3/2 の多く	98	7×11	104×54	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く
28	品名	86×122	柱 H1-40cm の高さ。幅さ 6. 高さ 2. 10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	99	11×4	58×20	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
29	品名	47×68	タラウア H1-94 を切る。軸	100	5×11	128×52	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
30	品名	65×29	10YK3/2-10YK3/4-10YK3/5 の多く	100	5×11	128×52	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
31	品名	72×24	10YK3/2	101	5×11	128×52	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
32	品名	87×40	10YK3/2-10YK3/4 の多く	102	7×12	148×31	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
33	品名	42×39	タラウア H1-94 を切る。軸	103	8×12	70×43	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
34	品名	85×96	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	104	6×10-11	90×22	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
35	品名	96×22	タラウア H1-94 が切れる	105	6×11	94×46	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
36	品名	76×38	P27 を切る	106	7×10-11	107×42	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
37	品名	81×24	タラウア H1-94 を切る	107	6×12	107×42	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
38	品名	65×36	H1-1 を切る	108	7×12	107×42	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4 を切る
39	品名	77×28	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	109	7×12	100×53	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
40	品名	42×17	H1-1 切る。P27 が切る 10YK3/2-3 の多く	110	6×12	70×37	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
41	品名	47×36	10YK3/2-3 の多く	111	6×12	92×45	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
42	品名	26×30	10YK3/2	112	7×12	93×52	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
43	品名	12×12	10YK3/2	113	7×12	98×32	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
44	品名	22×11	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4	113	7×12	98×32	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
45	品名	38×10	10YK3/2-3	114	8×13	94×52	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
46	品名	12×20	10YK3/2	115	7×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
47	品名	42×17	タラウア H1-94 が切れる	115	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
48	品名	65×20	10YK3/2	116	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
49	品名	58×26	タラウア H1-94 を切る	116	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
50	品名	38×31	10YK3/2-10YK3/3-10YK3/4 の多く	117	6×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
51	品名	47×36	タラウア H1-94 を切る	117	6×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
52	品名	65×24	10YK3/2	118	6×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
53	品名	72×24	10YK3/2	119	6×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
54	品名	40×27	10YK3/2-3	120	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
55	品名	67×27	10YK3/2-3	121	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
56	品名	40×27	10YK3/2-3	121	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
57	品名	44×56	10YK3/2-3	122	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
58	品名	73×16	10YK3/2	123	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
59	品名	27×17	P114 に切れる H1-1-10YK3/2	124	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
60	品名	34×11	10YK3/2	125	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
61	品名	44×56	10YK3/2-3	126	7×12	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
62	品名	57×16	10YK3/2-3	127	8×13	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
63	品名	60×46	10YK3/2-3	127	8×13	104×61	MI-1-OT1 が切る。D1-1-D1-10YK3/4-10YK3/5 の多く
64	品名	73×50	10YK3/2-3 のロムの多く	128	7×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
65	品名	69×42	10YK3/2-3 のロムの多く	129	7×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
66	品名	35×22	10YK3/2	130	7×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
67	品名	52×28	10YK3/2	131	7×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
68	品名	22×27	10YK3/2-3 の多く	132	9×12	96×25	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
69	品名	29×45	10YK3/2-3 の多く	132	9×12	96×25	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
70	品名	14×27	10YK3/2-3 の多く	133	9×12	96×25	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
71	品名	39×49	タラウア H1-11 を切る 10YK3/2-3	134	9×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く
72	品名	14×24	10YK3/2-3 の多く	135	9×12	104×61	P114 に切れる H1-1-10YK3/2-3 の多く

第3表 H 1・2号住居址出土遺物觀察表

目次	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)の構造	
				構 造	考 例
16. 磁器 茶器 内(底面) 磁器(底) 磁器(底)	-	-	-	既存壁	既存壁
17. 陶土上部 瓢 (16.6)	-	(12.1)	3.0万	青磁貼付文	既存壁
18. 陶土上部 瓢 6.2 G.62 ハケツヒー3.0万	-	G.62	青磁貼付文	既存壁	既存壁
19. 陶土上部 瓢 5.5 G.87 3.0万	-	G.87	青磁貼付文	既存壁	既存壁
20. 陶土上部 瓢 (16.4) (4.6) 3.0万	-	(4.6)	青磁貼付文	既存壁	既存壁
21. 陶土上部 瓢 4.9 3.0万+一部白釉貼付一部青磁貼付(3.0) 3.0万+一部青磁貼付	-	-	-	既存壁	既存壁
22. 陶器 残器 文字・施文 陶 内 壁	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
23. 陶土上部 瓢 (16.6) 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
24. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
25. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
26. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
27. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
28. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
29. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
30. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
31. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
32. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
33. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
34. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
35. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
36. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
37. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
38. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
39. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
40. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
41. 陶土上部 瓢 4.3 3.0万+一部白釉貼付	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁	既存壁
42. 陶器 残器 量(大) 大量	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
122. 石器 磨石チャート (1.0) 0.30 (0.43) 丸脚→圓頭尖端	-	-	-	-	-
123. 石器 破片チャート 2.2 0.5 2.82	-	-	-	-	-
124. 石器 破片チャート 2.9 1.5 2.63	-	-	-	-	-
125. 石器 圆筒形磨石山型 3.7 1.5 2.63	-	-	-	-	-
126. 土器(の)ある鉢形 陶器 14.5 6.5 1.7 194.94 土器自用器、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
127. 打製石斧 陶器(底) 11.2 6.5 1.4 120 土器自用器、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
128. 打製石斧 陶器(底) (5.4) (4.0) (1.0) (60.92) 下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
129. 打製石斧 陶器(底) 1.9 1.7 2.0 95.33 下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
130. 打製石斧 陶器(底) 1.0 0.5 (0.5) (10.47) 下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
131. 磁器 磁器(底) (5.5) (4.1) (0.5) (15.76) 磁器(底) 磁器(底) 磁器(底)	-	-	-	既存壁	既存壁
132. 磁器 磁器(底) 16.5 5.5 1.9 55.17 磁器(底) 磁器(底) 磁器(底)	-	-	-	既存壁	既存壁
133. 磁器 磁器(底) 16.2 5.5 2.3 51.05 3.下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
134. 磁器 磁器(底) 19.8 9.2 3.0 370.35 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
135. 磁器 磁器(底) 4.3 4.1 3.6 73.00 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
136. 磁器 磁器(底) 8.2 5.1 3.7 260.57 上下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
137. 磁器 磁器(底) 10.6 6.6 3.8 375.29 下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
138. 磁器 磁器(底) 13.0 11.0 9.2 1787.16 上下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
139. 磁器 磁器(底) 6.5 5.5 2.0 20.47 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
140. 磁器 磁器(底) 6.5 5.5 2.0 (1.0) (18.47) 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
141. 磁器 磁器(底) 4.5 6.5 4.4 182.28 上下縁欠損、蓋に二次加工痕	-	-	-	既存壁	既存壁
142. 磁器 磁器(底) 27.0 37.5 12.1 8020.00 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
143. 磁器 磁器(底) 18.8 9.2 5.0 681.92 土器に打痕	-	-	-	既存壁	既存壁
144. 台石 磁器(底) (16.1) C0.00 (4.2) (1567.68) 下部欠損、止端側面	-	-	-	既存壁	既存壁
145. 台石 磁器(底) (8.6) (3.9) (2.1) (80.65) 上部・側面欠損、表面白い跡	-	-	-	既存壁	既存壁
146. 磁器 磁器(底) 7.0 6.4 4.1 64.63 表面取りと表面の凹みあり、土色にすり	-	-	-	既存壁	既存壁
H 2 (2) (2)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
151. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
152. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
153. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
154. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
155. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
156. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
157. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
158. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
159. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
160. 磁器 磁器(底) 磁器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)
161. 土器(底)	内 壁	外 壁	成形・焼成・文様	既存壁(現存壁)	既存壁(現存壁)

第4表 H2・3号住居址出土遺物観察表

施設別	施設名	施設内別	内部・前面・背面				施設名	施設内別	施設外
			内	面	背	外			
H2	住居	内側(6)	内側(6)	内側(6)	内側(6)	内側(6)			
12. 土器類	鍋	-	(5.0)	(3.3)	ヘラナゲ	陶輪ハラケナリ 茶色ヘラケナリ 内側輪ナゲナリ 棕色ヘラケナリ	内側環形	瓦足(2)	瓦足(2)
13. 土器類	鍋	-	(3.5)	(2.3)	ヘラナゲ	陶輪ハラケナリ 棕色ヘラケナリ 内側輪ナゲナリ 棕色ヘラケナリ	内側環形	瓦足(2)	瓦足(2)
14. 土器類	鍋	-	(20.5)	(12.3)	ヘラナゲ	口部端擦傷テテ 舐延ヘラナゲ	山型端擦傷テテ 端延ヘラケナリ	内側環形	瓦足(2)
15. 土器類	盆	(3.7)	-	(1.8)	ヘラナゲ	ヘラナゲ	ロウナゲ	内側環形	瓦足(2)
16. 土器類	盆	21.2	-	4.1	79.4	口部端擦傷テテ 端延ヘラナゲ	口部端擦傷テテ 端延ヘラケナリ	内側環形	瓦足(2)
17. 土器類	瓶	-	-	-	ヘラナゲ	ヘラナゲ	タクヨウガラケナリ	内側環形	1・瓦足(2)
21. 容器類	瓶	(23.8)	-	(3.4)	白口端擦傷テテ 瓶延ヘラナゲ	口部端擦傷テテ 瓶延ヘラケナリ 棕ナギ	白口端擦傷テテ 瓶延ヘラケナリ	内側環形	瓦足(2)
22. 容器類	罐	-	(17.2)	(3.2)	瓦口端擦傷ナギ	瓦口端擦傷ナギ 棕ナギ	瓦口端擦傷ナギ 瓦底延	瓦足(2)	瓦足(2)
23. 土器類	罐	(18.5)	-	(1.4)	白口端擦傷テテ 制延ヘラケナリ(付)	口部端擦傷テテ 制延ヘラケナリ	白口端擦傷テテ 制延ヘラケナリ	瓦足(2)	瓦足(2)
24. 土器類	罐	-	-	-	口部端擦傷テテ 制延ヘラケナリ	口部端擦傷テテ 制延ヘラケナリ	瓦足(2)	瓦足(2)	瓦足(2)
60. 葡萄	葡萄	文葉・蝶葉	茎 3	葉	花被子	花被子	花被子 3	葉被子	葉被子
62. 乾漆土器	漆	漆環形(2)	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2
63. 乾漆土器	漆	漆環形(2)	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2
64. 乾漆土器	漆	漆環形(2)	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2	漆 2
67. 壁面下部	理縫	皮質・漆質	皮質 2	漆質 2	漆質 2	漆質 2	漆質 2	漆質 2	漆質 2
28. 革文上部	革	丸頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	46 製文上部	外	外	内側(1)	内側(1)	内側(1)
29. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	47 製文上部	外	外	内側(1)	内側(1)	内側(1)
30. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	48 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
31. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	49 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
32. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	50 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
33. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	51 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
34. 革文上部	革	背縫第二段	中間部延長	52 製文上部	外	外	内側(1)	内側(1)	内側(1)
35. 革文上部	革	小頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	53 製文上部	外	外	内側(1)	内側(1)	内側(1)
36. 革文上部	革	小頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	54 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
37. 革文上部	革	小頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	55 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
38. 革文上部	革	小頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	56 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
40. 革文上部	革	小頭圓筒内側延長部以降	中間部延長	57 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
41. 羊革	革	口部端擦傷	瓶上(2)	58 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
42. 革文上部	革	口部端擦傷	瓶上(2)	59 製文上部	内側	内側	内側(1)	内側(1)	内側(1)
66. 海綿	海綿	素材	最大径	高さ	横断面	横断面	周	周	周
18. ナフ	陶器	-	(1.0)	(0.9)	(0.0)	(0.0)	内側	内側	内側
19. ナフ	陶器	-	(7.4)	1.1	(0.35)	(0.05)	内側	内側	内側
20. 土器類	器	-	(31.0)	(4.0)	-	-	内側	内側	内側
27. 大型骨器の丸形容れ	剥片	骨質	2.4	0.5	0.5	0.5	内側(2)	内側(2)	内側(2)
28. 剥片	骨質	チャート	3.9	1.7	0.4	1.7	内側(2)	内側(2)	内側(2)
79. 剥片	骨質	瓦山骨	8.2	7.0	4.9	536.20	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹
80. 剥片	瓦山骨	-	7.0	6.8	5.2	214.05	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹
81. 肩骨剥片	骨石	-	(4.0)	(3.0)	口側端擦傷	口側端擦傷	内側(2)	内側(2)	内側(2)
82. 肩骨	骨	骨石	18.7	1.3	4.5	18.75	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹	瓦上にすり凹
H3	住居	内側(6)	内側(6)	内側(6)	内側(6)	内側(6)	内	外	内
施設別	施設名	施設内別	施設内別	施設内別	施設内別	施設内別	内	外	内
				上	面	外	内	外	内
60. 葡萄	葡萄	文葉・蝶葉	茎 2	葉	花被子	花被子	内	外	内
1. 土器類	盆	-	2.6	5.7	5.0	5.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
2. 土器類	盆	-	2.5	4.5	4.0	4.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
3. 土器類	盆	-	11.0	-	5.6	5.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
4. 土器類	盆	(12.2)	-	(3.0)	5.6	5.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
6. 土器類	盆	-	12.1	-	4.6	4.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
6. 土器類	盆	-	4.6	-	3.6	3.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
7. 土器類	盆	-	12.9	-	4.5	4.5	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
8. 土器類	盆	-	(15.8)	-	(3.0)	(3.0)	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
9. 土器類	盆	-	(16.0)	-	(4.1)	(4.1)	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
10. 土器類	盆	-	12.1	-	4.6	4.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
11. 土器類	盆	-	2.0	-	2.6	2.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
12. 土器類	盆	-	-	6.0	6.0	6.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
13. 土器類	盆	-	-	11.0	-	-	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
14. 土器類	盆	-	-	-	3.6	3.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
15. 土器類	盆	-	-	-	2.0	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
16. 土器類	盆	-	-	-	3.1	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
17. 土器類	盆	-	-	-	3.1	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
18. 土器類	盆	-	-	-	3.1	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
19. 土器類	盆	-	-	-	2.0	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
20. 土器類	盆	-	-	-	2.0	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
21. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
22. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
23. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
24. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
25. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
26. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
27. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
28. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
29. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
30. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
31. 土器類	盆	-	-	-	1.9	1.9	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
施設別	施設名	施設内別	施設内別	施設内別	施設内別	施設内別	内	外	内
				上	面	外	内	外	内
60. 葡萄	葡萄	文葉・蝶葉	茎 2	葉	花被子	花被子	内	外	内
2. 土器類	盆	-	2.6	5.7	5.0	5.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
3. 土器類	盆	-	2.5	4.5	4.0	4.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
4. 土器類	盆	-	11.0	-	5.6	5.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
4. 土器類	盆	-	(12.2)	-	(3.0)	(3.0)	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
6. 土器類	盆	-	12.1	-	4.6	4.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
6. 土器類	盆	-	4.6	-	3.6	3.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
7. 土器類	盆	-	12.9	-	4.5	4.5	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
8. 土器類	盆	-	(15.8)	-	(3.0)	(3.0)	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
9. 土器類	盆	-	(16.0)	-	(4.1)	(4.1)	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
10. 土器類	盆	-	12.1	-	4.6	4.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
11. 土器類	盆	-	-	2.0	2.6	2.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
12. 土器類	盆	-	-	-	6.0	6.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
13. 土器類	盆	-	-	-	11.0	-	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
14. 土器類	盆	-	-	-	-	5.6	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
15. 土器類	盆	-	-	-	-	4.7	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
16. 土器類	盆	-	-	-	-	4.7	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
17. 土器類	盆	-	-	-	-	4.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
18. 土器類	盆	-	-	-	-	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
19. 土器類	盆	-	-	-	-	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
20. 土器類	盆	-	-	-	-	3.1	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
21. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
22. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
23. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
24. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
25. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
26. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
27. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
28. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
29. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
30. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)
31. 土器類	盆	-	-	-	-	2.0	内側	瓦足(2)	瓦足(2)

第13表 H25号住居址・土坑出土遺物観察表

II25		法量				成形・側面・文様				性別(性)・既存様(次)・状況(出土地)				
No.	種別	断面	口径(高)	底径(幅)	高さ(深)	内面		外面		性別		出土地		
7	住居上部	電	-	-	16.8	(17.0)	ハケ口一軒ナフ	-	ヘラ 1.5cm 布色施影	-	円筒状器 外周から赤或 黒(火)	No.10	-	
8	住居上部	土	19.2	-	(13.0)	ハクナ ハラニガキ一赤色施影	-	ハラニガキ一火漆施影又一ハニキテ カバ色影	-	丸少方面	No.3	-		
9	住居上部	土	(12.0)	-	(7.0)	ハラニガキ一赤色施影	-	ハラニガキ、赤色施影	-	西西北面	No.1	-		
10	住居上部	土	(19.6)	-	7.1	ハラニガキ	-	ヘラ 1.5cm	-	完全焼結	No.8	-		
11	住居土器	瓦	-	-	(13.5)	板縁瓦3.ガキ・赤色施影 瓦口ハクナ	-	ハラニガキ・赤色施影	-	完全瓦口	No.5 H21-13	-		
12	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
13	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
14	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
15	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
16	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
17	住居土器	瓦	-	-	-	-	-	ハラニガキ	-	缺	-	-		
No.	種別	断面	文様・調査	口径(高)	底径(幅)	内面	成形・調査	四角	高さ	No.	地質	断面	文様・調査	調査
18	住居土器	陶器以文化・譲状文	後輪削出水	30	河文土器	井	井筒状合掌形 横断合掌形	井筒内	-	47	河文土器	井	横断水2本柱1本柱 焼失有無あり	北側
19	住居土器	瓦	後輪削出水	21	圓丈十筋	井	高さ15cm前後に火漆又火漆	井筒内	-	-	-	-	井筒底直火漆又火漆有無あり	北側
20	住居土器	瓦	後輪削出水	32	井筒上部	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	48	高丈上部	井	井筒底直火漆又火漆有無あり	北側
21	住居土器	瓦	後輪削出水	33	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	-	-	-	井筒底直火漆又火漆有無あり	北側
22	住居土器	瓦	後輪削出水	34	河文土器	井	井筒状 井に火漆又火漆	井筒内	-	49	純丈十筋	井	井筒底直火漆又火漆	北側
23	住居土器	瓦	後輪削出水	35	河文土器	井	井筒状 井に火漆又火漆	井筒内	-	50	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
24	住居土器	瓦	後輪削出水	36	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	51	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
25	住居土器	瓦	後輪削出水	37	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	-	-	-	井筒底直火漆又火漆	北側
26	住居土器	瓦	後輪削出水	38	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	52	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
27	住居土器	瓦	後輪削出水	39	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	53	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
28	住居土器	瓦	後輪削出水	40	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	54	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
29	住居土器	瓦	後輪削出水	41	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	55	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
30	住居土器	瓦	後輪削出水	42	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	56	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
31	住居土器	瓦	後輪削出水	43	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	57	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
32	住居土器	瓦	後輪削出水	44	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	58	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
33	住居土器	瓦	後輪削出水	45	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	59	河文土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
34	住居土器	瓦	後輪削出水	46	河文土器	井	井筒直火漆又火漆又火漆	井筒内	-	60	土器	井	井筒底直火漆又火漆	北側
No.	器種	点材	量(大)	量(小)	量(大)	量(大)	量(大)	量(大)	所見			所見	所見	
18	刀子?	土器鋸齒	(7.0)	10.80	(0.7)	(0.8)	(0.8)	(0.8)	内質伴生(画面の欠損部分にも小質あり)	-	-	No.9	-	
61	石器	米袋チャート	(1.0)	1.3	0.8	(0.4)	-	-	先端欠損	-	-	174	-	
62	鉈片	荷包チャート	2.5	3.2	0.8	7.51	直線部の弱い鉈片	-	-	-	-	No.6	-	
63	二次加工のある鉈片	荷包チャート	5.9	2.7	0.8	11.83	両端に二次加工 斜面直きにすると左芯部が折り	-	-	-	-	-	-	
64	鉈片	荷包チャート	3.3	1.8	0.8	5.70	内側刃欠け 斜面直き	-	-	-	-	No.5	-	
65	スクレイバー	荷包チャート	0.4	4.7	1.4	51.11	平行に舟型を削る 下刃が左端に折れ	-	-	-	-	No.4	-	
66	打削器	荷包チャート	(1.1)	(0.7)	(2.0)	(1.0)	(0.8)	(0.8)	火漆・基盤・断面直き 工事や工具の印が残る	-	-	No.5	-	
67	打削器	荷包チャート	0.60	0.50	0.20	(4.92)	火漆の一部を削り斜面直き	-	-	-	-	No.4	-	
68	打削器	荷包チャート	(3.2)	(4.2)	(3.0)	(3.62)	火漆の一部を削り斜面直き	-	-	-	-	No.4	-	
69	打削器	荷包チャート	(3.7)	(4.0)	(3.0)	(7.06)	火漆 刀根一部欠損 A部に使用痕跡	-	-	-	-	No.4	-	
70	礫石	砾石	2.8	2.8	1.8	4.28	今昔にすり	-	-	-	-	No.5	-	
71	礫石	砾石	8.1	2.5	2.2	61.29	上下端部に底打痕	-	-	-	-	No.5	-	
72	礫石	砾石	11.5	9.0	4.7	83.65	正面に打ち痕 下端に斜打痕	-	-	-	-	No.5	-	
73	礫石	安息香	(0.2)	(0.7)	(3.0)	(26.88)	火漆 加熱痕(左側に高麗色化)	下端火漆 上端・側面に斜打痕	-	-	-	No.5	-	
74	礫石	荷包チャート	5.9	4.1	3.5	11.247	火漆・火漆・D字型穿孔面	-	-	-	-	No.5	-	
75	礫石	荷包チャート	(0.8)	(0.6)	(0.8)	(3.52)	火漆 加熱痕(左側に高麗色化)	火漆・火漆・D字型穿孔面	-	-	-	No.5	-	
76	金合	河口岩山	11.6	8.5	4.5	67.010	火漆 加熱痕(左側に高麗色化)	火漆・火漆・D字型穿孔面	-	-	-	No.5	-	

第14表 土坑山土遺物觀察表

No.	種別	器種	文様・調査		備考	出土位置	文様・調査		備考	出土位置		
			備考	出土位置			備考	出土位置				
1	陶文土器	鉢	時代: 桐木2本縁1本溝	後周前半	D1	45	陶文土器	深鉢	口縁部断面する楕円状口縫 北緯区西内に桐木L.R.	名古寺	D14	
2	陶文土器	鉢	木束頭	後周前半	D1	46	陶文土器	深鉢	側位押彌縫	後周前半	D14	
3	陶文土器	深鉢	内面模ナメ	後周前半	D1	47	陶文土器	深鉢	側位押彌縫	後周前半	D14	
4	陶文土器	深鉢	内面模ナメ 黒色に変化	後周前半	D1	48	陶文土器	深鉢	楕円形内面縫	後周前半	D14	
5	陶文土器	深鉢	酒器	2本縁1本溝	後周前半	19	陶文土器	深鉢	斜行内面縫	名古寺	D14	
6	陶文土器	鉢	楕円形内面	昭之内1	D9		51	陶文土器	深鉢	楕円形内面	昭之内1	D14
7	陶文土器	深鉢	沈縫	沈縫区面内に桐木L.R.充填	昭之内1	D9						
8	陶文土器	深鉢	内面赤色に変化 桐木2本縁	1本溝り 楕円形内面あり 別の2つの 圓錐形2本縁が並ぶ	後周前半	D9						
9	陶文土器	深鉢	沈縫	沈縫区面内 楕円形内面	昭之内2	D9						
10	陶文土器	鉢	沈縫区面内 楕円形内面	昭之内2	D9							
11	陶文土器	鉢	楕円形内面	昭之内1	D9							
12	陶文土器	打井	酒器	自然崩落 9.9 2.2 105.76	D9							
13	陶文土器	磨石	磨石	磨石安山岩 正面すり面 15.9 15.1 27.2080	D9							
14	土製品	土板	土板加工作業	後周前半	D2							
15	陶文土器	二次加工品	土板加工作業	1.8 1.6 0.7 1.85	後周前半	D2						
16	陶文土器	隨形	右側 基本欠損	後周前半	63		53	陶文土器	深鉢	口縁部断面	昭之内1	D14
17	陶文土器	土製品	(8.0) (2.2) (2.1) (35.02)	後周前半	D2							
18	陶文土器	人型土偶	素燒 有底 (2.5) (1.2) (9.2) (48.6) 伏倒素燒	後周前半	D2							
19	陶文土器	深鉢?	くびれ部付近斜付けを起点とする 直糸模、斜糸模の集合比縫	昭之内1	D2		54	陶文土器	深鉢	直糸模、口縁部直糸模	昭之内1	D14
20	陶文土器	鉢	楕円形内面	昭之内1	D6	60	陶文土器	深鉢	直糸模	昭之内1	D14	
21	陶文土器	深鉢?	沈縫?	直糸模から沈縫も含む底盤	昭之内	D6	61	陶文土器	口縁部直糸模 楕円・直・横糸模	昭之内1	D14	
22	陶文土器	深鉢	直糸模に内面する	後周代	D6	62	陶文土器	口縁部直糸模 手削鉢上縫	後周前半	D14		
23	陶文土器	深鉢	2本縁1本溝り 沈縫開縫あり	底盤より1cmほど小さい繩目	昭之内	D7	63	陶文土器	内面模ナメ 手削鉢上縫	後周前半	D14	
24	陶文土器	鉢	底盤の化妆模	昭之内1	D7	64	陶文土器	深鉢 底盤(11.0) 高さ(11.5)	後周前半	D14		
25	陶文土器	打井	楕円形内面	昭之内1	D7	65	陶文土器	口縁部内側に斜め出る	後周前半	D14		
26	陶文土器	鉢	底盤・斜行挖削	昭之内1	D7	66	陶文土器	底盤(4.2) 高さ(3.3)	後周前半	D14		
27	陶文土器	深鉢	偏縫	後周前半	D8	67	陶文土器	底盤	底盤の化妆模区画。範圍L.R.	昭之内1	D14	
28	石器	凹石	底盤石 石正裏と端面に斜行凹・すり	D7 4.9 8.7 33.017	D8	68	土製品	土器片 四脚	底盤石の偏縫	後周前半	D14	
29	陶文土器	鉢	底盤区画 区画内に桐木L.R.充填	昭之内	D9	69	土製品	底盤片 四脚	底盤石の偏縫	後周前半	D14	
30	陶文土器	鉢	小伏作鉢か?	後周前半	D10	70	陶文土器	石器	底盤石チャート 3.3 14.0 7.37	後周前半	D14	
31	陶文土器	鉢	底盤区画	昭之内	D10	71	陶文土器	底盤片	底盤石の偏縫	後周前半	D14	
32	土製品	底盤	底盤鉢を加工	後周	D10	72	陶文土器	打井 安山岩刀削底	底盤石(4.9) (1.1) (23.64)	後周前半	D14	
33	土器鉢	鉢	内外面ミガキ 黑褐色底盤	古墳後期	D13	73	陶文土器	底盤	底盤石(4.9) 安山岩の底盤	中周期後半	D15	
34	土器鉢	鉢	内外面ミガキ 黑褐色底盤	古墳後期	D13	74	陶文土器	底盤	底盤石(4.9) 黑褐色底盤	三十輪輪	D15	
35	土器鉢	鉢	内外面ミガキ	古墳後期	D13	75	陶文土器	底盤	底盤石(4.9) 黑褐色底盤	三十輪輪	D15	
36	陶文土製品	底	底盤	底盤	D13	76	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	名古寺	D15	
37	陶文土製品	J-構	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	昭之内	D13	77	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内1	D15	
38	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D13	78	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内1	D15	
39	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	79	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	
40	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	80	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	
41	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	81	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	
42	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	82	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	
43	陶文土器	底	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	83	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	
44	陶文土器	深鉢	底盤	底盤鉢を加工した板状底盤。表面には 乳突を有する。	D14	84	陶文土器	底盤	底盤石の偏縫	昭之内2	D15	

第15表 土坑出土遺物觀察表

No.	器物名	形態・類型	備考	出土位置	No.	種類	器物名	文様・類型	備考
94	鏡文土器	鉢	くびれ底下はやく耳をもつぶ所造地質器	後期前半 D17	147	陶文土器	鉢	小切底部下に丁形斜片文から 横付文	垂之内1 D22
95	鏡文土器	深鉢	くびれ底外に反所造地質器	後期前半 D17	148	陶文土器	鉢	小切底部直邊に丁形斜片文、底下の 円削邊から乳頭状模様	垂之内1 D22
96	鏡文土器	深鉢	くびれ底外に反所造地質器	後期前半 D17	149	陶文土器	鉢	小切底部直邊から内側に縱付文、底 内に布削邊から乳頭状模様	垂之内1 D22
97	鏡文土器	鉢	網代底 2本1縫で2枚重ねた縫合部	後期 D17	150	陶文土器	深鉢	口縫内底に口縫部を以て横付文	垂之内1 D22
98	鏡文土器	鉢	97と同一個体	後期 D17	151	陶文土器	深鉢	口縫外側に記号する 山字形に丁形斜片文	垂之内1 D22
99	土製品	土器片	破片 剥離・研磨	後期 D17	152	鏡文土器	深鉢	小切底部内側に縫合部文軸に丁形斜片 縫合部工具による模様の外縁	垂之内1 D22
100	鏡文土器	深鉢	波状口縫 剥離・研磨面に遮蔽する	後期前半 D18	153	陶文土器	深鉢	2条の横付文縫合部を跨ぐ字状 縫合文から下する遮蔽彫刻の斜突	垂之内1 D22
101	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	154	陶文土器	鉢	2条の斜突文と下する遮蔽彫刻の斜突	垂之内1 D22
102	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	155	陶文土器	鉢	2条の斜突文	垂之内1 D22
103	鏡文土器	深鉢	横付文 壁面に刻文LR充填	後期前半 D18	156	陶文土器	鉢	張り底鉢 剥離・研磨面に刻文LR充填	垂之内1 D22
104	鏡文土器	鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期前半 D18	157	陶文土器	深鉢	木目調	後期
105	鏡文土器	深鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期前半 D18	158	陶文土器	深鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期
106	鏡文土器	鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期前半 D18	159	陶文土器	深鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期
107	鏡文土器	深鉢	剥離・研磨	後期前半 D18	160	陶文土器	深鉢	波状底波紋 西面に刻文LR充填	後期
108	鏡文土器	深鉢	山形部凹部から横引化粧	縫之内1 D18	161	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損 (2.2) (1.2) (0.5) (1.3)	D22
109	鏡文土器	深鉢	口縫内底	縫之内1 D18	162	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
110	鏡文土器	深鉢	口縫内底 口縫部を以て横付文	縫之内1 D18	163	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
111	鏡文土器	深鉢	くびれ部に横付文を含む	縫之内1 D18	164	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
112	鏡文土器	鉢	横付文を含む	縫之内1 D18	165	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
113	鏡文土器	深鉢	横付文	縫之内1 D18	166	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
114	鏡文土器	深鉢	底位の集合波紋 刻文LR	縫之内1 D18	167	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
115	鏡文土器	鉢	縫合部の跡を剪除した点に 対称状 強張状の集合波紋	縫之内1 D18	168	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
116	鏡文土器	鉢	横付文	縫之内1 D18	169	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
117	鏡文土器	深鉢	横付文を含む	縫之内1 D18	170	陶文土器	石瓶	尻端部先端部欠損	D22
118	鏡文土器	深鉢	横付文	縫之内1 D18	171	陶文土器	鉢	2条の風呂底	後期前半 D22
119	土器品	土器片	剥離・研磨・研究用	後期前半 D18	172	陶文土器	鉢	2条の風呂底	後期前半 D22
120	鏡文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D18	173	陶文土器	鉢	2条の風呂底	後期前半 D22
121	鏡文土器	鉢	波状底波紋 刻文LR	後期前半 D18	174	陶文土器	注口上端	波状底波紋による向心円文	後期前半 D22
122	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	175	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
123	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	176	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
124	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	177	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
125	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	178	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
126	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	179	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
127	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	180	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
128	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	181	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
129	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	182	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
130	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	183	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
131	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	184	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
132	鏡文土器	石瓶	横付文	後期前半 D18	185	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
133	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	186	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
134	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	187	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
135	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	188	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
136	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	189	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
137	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	190	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
138	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	191	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
139	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	192	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
140	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	193	陶文土器	深鉢	波状底波紋	後期前半 D22
141	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	194	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組1組繋り	後期 D28
142	鏡文土器	深鉢	横付文	後期前半 D18	195	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28
143	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	196	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28
144	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	197	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28
145	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	198	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28
146	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	199	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28
147	鏡文土器	鉢	横付文	後期前半 D18	200	陶文土器	鉢	時代末 2本1組 1組繋り	後期 D28

第16表 土坑・円形周溝墓・溝状造構出土遺物観察表

No.	種別	鉢	文様・調整	参考	出土位置	No.	鉢	形種	文様・調整	参考	出土位置
201	圓文土器	深鉢	8字状鉢付文から横段に變換 ウチ状鉢文譜ある横段仕立模様区隔	縦之内2	D29	248 石器	磨頭	縦石臼型下寸引頭	4.9 6.1 1.6 57.32	D34	
			内凹口縁内折断に復元			219 鹿文石器	鹿	鹿紋	鹿紋(5.1) (5.2) (1.8) (49.20)	D34	
						250 純文石器	打葉石斧	舞(11.0)山岩上部・刃部欠損 (1.10) (8.8) (2.5) (266.43)	D34		
202	圓文土器	深鉢	丁字型押棒へこみ	縦之内2	D29	251 純文石器	打葉石斧	鹿(11.0)山岩上部・刃部欠損 (1.10) (8.8) (2.5) (266.43)	D34		
			3条の横化内縫			252 純文石器	骨	縦(11.0)山岩上部使用部・裏面黑色化		D34	
203	圓文土器	深鉢	横(11.0)山岩上部に横文(1.8)充填	縦之内2	D29	253 純文石器	骨	(3.0) (1.4) (3.5) (20.0)	D34		
204	圓文土器	深鉢	所持前装上器	後期	D29	254 純文石器	横段	横段(11.0)横棒	後期前半	D35	
205	圓文土器	深鉢	附(1.8) 2本鉢(1本崩り)	後期	D29	255 純文石器	骨	横状突起	縦之内1	D35	
206	圓文土器	深鉢	横(1.8) 2本鉢(1本崩り 横条間隔あり	縦之内	D29	256 純文石器	骨	横状突起沈没	縦之内	D35	
207	圓文土器	深鉢	横(1.8) 2本鉢(1本崩り 横条間隔あり	縦之内	D29	257 純文石器	骨	2条の横段(1.8)横棒	縦之内	I35	
			素材付			258 純文石器	骨	横(11.0)下縁ト深V		D36	
208	圓文土器	深鉢	横(1.8) 2本鉢(1本崩り 横条間隔あり 素材付)	後期	D29	259 純文石器	骨	ヘラ横棒文・連弧文	圓文RLを笠文	I36	
209	圓文土器	鉢	南代式 2本鉢(1本崩り)	後期	D29	260 純文土器	骨	横(11.0)陣容等する比較	名号	D37	
			横棒(1.8)崩れ			261 純文土器	骨	級(11.0)横棒・斜行合集	縦之内1	D37	
210	圓文石器	深鉢	滑音(1.8) 1.8引	後期	D29	262 純文土器	骨	横状・斜行状	縦之内2	D37	
			2本鉢(1.8)崩れ			263 純文石器	骨	下第大丸山古墳にすり向く「幾帳に散打麻」 (1.9) (7.2) (3.6) (152.46)		D37	
211	圓文土器	深鉢	底盤付紀文 譲文(1.8)	中期後半	D30	264 純文石器	骨	摩(11.0)山正斜自鳥山 扇酒加丁板		D37	
212	圓文土器	深鉢	底盤付紀文 譲文(1.8) 横棒充填	梅名寺?	D30	265 純文石器	骨	12.6 (1.7) 3.3 763.40		D37	
213	圓文土器	深鉢	側肉(1.8)底盛する横棒の底輪郭 表面の状況	縦之内1	D30	266 純文土器	骨	下第大丸山古墳にすり向く「幾帳に散打麻」 <td>中間後半</td> <td>OT1</td>	中間後半	OT1	
			横棒充填			267 純文土器	骨	(1.9) (7.2) (3.6) (152.46)		OT1	
214	圓文土器	深鉢	横棒充填	縦之内1	D30	268 純文土器	骨	横棒充填の下をなぞる横棒 譲文RL以施文	後期前半	OT1	
215	圓文土器	鉢	帯棒付T字型に横棒充填	縦之内	D30	269 純文土器	骨	横棒充填	縦之内1	OT1	
216	圓文土器	深鉢	横状・斜行状複数文及充填	縦之内	D31	270 純文土器	骨	くびれ(11.0)内側沿付文から横棒2条の 横棒、貼付文に溝状充填。その間に 横長(1.8)角形状の横文。圓文RL	縦之内1	OT1	
217	圓文土器	深鉢	横棒充填	縦之内1	D31	271 純文土器	骨	横状(1.8)内側沿付文及充填	後期	OT1	
218	圓文土器	深鉢	横(1.8)横棒充填に施す横棒の末端が よく見える。内面(1.8)横棒充填	縦之内	D31	272 純文土器	骨	横棒充填	山房(1.8) 次折(1.8)刀柄の唐鏡面透 (8.0) (5.4) (1.4) (92.27)	OT1	
219	圓文土器	深鉢	底盛する引削痕	縦之内	D31	273 純文土器	骨	横棒充填	後期清水	OT2	
220	圓文土器	鉢	横棒充填	縦之内	D31	274 純文土器	骨	2本の横棒(1.8)斜行微起帶付文を 沈没させる。圓文RL以施文	縦之内1	OT2	
			口縁(1.8)引削痕			275 純文土器	骨	横棒充填による横棒充填	縦之内1	OT2	
221	圓文土器	深鉢	口縁(1.8)引削痕	縦之内2	D31	276 純文土器	骨	圓文(1.8)及後半1の横棒充填で 区隔、クリンクルの(1.8)横棒。 内面(1.8)舟形の溝状と横棒充填。	加利和B1	OT2	
			2本の横棒(1.8)横棒			277 純文土器	骨	横棒充填	後代後半	OT2	
222	圓文土器	深鉢	底盤付内縫に横棒充填	縦之内2	D31	278 石器	敲石	石(4.9) (4.3) (198.98)	圓文	OT2	
223	圓文土器	深鉢	底盤付内縫に横棒充填	縦之内2	D31	279 鹿文石器	鹿	東(25.0) 鹿(0.2)	奈良	M1	
224	圓文土器	深鉢	縦代式 2本鉢(1本崩り 横棒充填)	後期	D31	280 上唇器	环	口径(1.4) 环(1.9)	奈良	M1	
225	圓文土器	鉢	縦代式 2本鉢(1本崩り 横棒充填)	後期	D31	281 砂器	刀子	(9.4) 1.3 (0.3) (12.71)	古墳～平安	M1	
226	圓文土器	深鉢	縦棒充填	縦之内	D31	282 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
227	圓文土器	鉢	横棒充填	縦之内	D31	283 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
228	圓文土器	円盤	側面(1.8) S字伏鉢付文	梅名寺?	D31	284 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
229	圓文土器	深鉢	横棒充填	梅名寺?	D31	285 純文土器	骨	横棒充填下 岩(1.8)横棒	横棒充填	M1	
230	圓文土器	深鉢	武代式 縦棒充填	梅名寺?	D31	286 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
231	圓文土器	深鉢	横(1.8)横棒下下なる沈没	梅名寺?	D31	287 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
232	圓文土器	鉢	横棒充填	縦之内1	D32	288 純文土器	骨	横棒充填	横棒充填	M1	
233	圓文土器	鉢	横棒充填下下なる沈没	縦之内1	D32	289 純文土器	骨	火の字状沈没 区割外横文LR	梅名寺?	M1	
234	圓文土器	深鉢	口縁横棒に変換する 横棒充填	縦之内1	D32	290 純文土器	骨	横棒から下する片唇棒	横棒充填	M1	
235	圓文土器	深鉢	側面付手平行手2条の横棒	縦之内1	D32	291 純文土器	骨	2本の横棒充填 区割内に	梅名寺?	M1	
236	圓文土器	深鉢	横棒充填	縦之内1	D32	292 純文土器	骨	横棒充填	梅名寺?	M1	
237	圓文土器	深鉢	底盤6.5cm	後期	D32	293 純文土器	骨	口部横棒	口部横棒	M1	
			内面から外縁へ軽く縫合し横棒状の 底盤。西端に引削痕。底部中央に 円孔。隆起から横棒の連続変形			294 純文土器	骨	B字状鉢付文	縦之内1	M1	
238	圓文土器	鉢	内面から外縁へ軽く縫合し横棒状の 底盤。西端に引削痕。底部中央に 円孔。隆起から横棒の連続変形	縦之内1	D34	295 純文土器	骨	底盤付横棒をなする沈没	縦之内1	M1	
239	圓文土器	深鉢	内面から外縁へ軽く縫合し横棒状の 底盤。円孔。隆起から横棒の連続変形	縦之内1	D34	296 純文土器	骨	底盤付横棒をなする沈没	縦之内1	M1	
240	圓文土器	鉢	後位横棒下 横状充填	縦之内1	D34	297 純文土器	骨	横棒付横棒一部なぞる沈没	縦之内1	M1	
241	圓文土器	鉢	三角形状の沈没区割内に圓文LR	縦之内1	D34	298 純文土器	骨	横棒付横棒一部なぞる沈没	縦之内1	M1	
242	圓文土器	鉢	側面付のV型変換する 横棒充填	縦之内1	D34	299 純文土器	骨	横棒付横棒から斜行充填	縦之内1	M1	
243	圓文土器	鉢	2条の沈没付V型変換する 横棒充填	縦之内1	D34	300 純文土器	骨	側面付工具による横状化棒	縦之内1	M1	
244	圓文土器	深鉢	側面付手平行手2条の横棒	縦之内1	D34						
245	土器品	円盤	側面付手平行手2条の横棒	後期	D34						
246	圓文石器	石器	高台チャート 細粒砂7.2 1.6 0.4 1.4	後期	D34						
247	圓文石器	石器	褐色チャート 2.6 1.6 0.5 2.11	後期	D34						

第17表 溝状造橋・ピット出土遺物観察表

No.	種類	器種	文様・断面	考古	出土位置	No.	種類	器種	保存状況		
									文様・断面	考古	出土位置
301	縄文土器	鉢	横幅長い縄文 肩部に2条の横の沈鉢	馬之内2	M1	350	縄文土器	鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
302	縄文土器	深鉢	内外面張子テ	所在地不明	M1	351	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
303	縄文土器	深鉢	口縁幅小形	内面24.6の横幅沈鉢	M1	352	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
304	縄文土器	深鉢	2条の横幅	縄文式深鉢	M1	353	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
305	縄文土器	鉢	側面底	2本足1本沿り	M1	354	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
306	縄文土器	鉢	横幅無い	側面底	M1	355	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
307	縄文土器	深鉢	横幅	2本足1本沿り	M1	356	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
308	縄文土器	深鉢	本幅	側面底	M1	357	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
309	縄文土器	深鉢	2本足1本沿り	もう一つ別の 模倣底	M1	358	縄文土器	小鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
310	縄文土器	深鉢	側面底	2本足1本沿り	M1	359	縄文土器	石器	時代末 2.4 1.4 0.2 0.28	横須賀駆	後期
311	縄文土器	深鉢	側面底	2本足1本沿り	M1	360	石器	片制	時代末 2.4 1.4 0.2 0.28	横須賀駆	後期
312	縄文土器	鉢	やや開きながら立てる	側面底	M1	361	石器	片、鐵打	時代末 9.7 3.9 3.7 19.85	横須賀駆	後期
313	縄文土器	深鉢	直立する	側面底	M1	362	縄文土器	鉢	時代末 水底の盛り出し處に円孔	馬之内1	P1
314	土器	円板	直径4.5	3.16	M1	363	縄文土器	鉢	時代末 内面底に外反し立てる	馬之内1	P1
315	生土器	鉢	赤色底	ラフ描画文内に刺突充填	後期	364	縄文土器	深鉢	時代末 2本足1本沿り	横須賀駆	後期
316	石器	削片	良石器 2.0 1.8 0.65 1.76	内側と右側が折れ	M1	365	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
317	石器	石片	神石富山岩 3.8 7.1 5.8 62.175	上端に横幅底	M1	366	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
318	石器	敲打	神石富山岩 3.8 7.1 5.8 62.175	側面底	M1	367	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
319	石器	削打	神石富山岩 3.8 7.1 5.8 62.175	側面底	M1	368	石器	片	時代末 神石富山岩 正面とも内部分が磨滅	馬之内1	P1
320	石器	刮打	神石 富山岩 3.8 7.1 5.8 62.175	側面底	M1	369	石器	片	神石富山岩 正面とも内部分が磨滅	馬之内1	P1
321	石器	刮打	神石 富山岩 3.8 7.1 5.8 62.175	側面底	M1	370	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
322	弥生土器	鉢	口片打 石内凹面と色彩	後期	M1	371	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
323	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	372	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
324	弥生土器	鉢	口片打	内面底と色彩	M1	373	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
325	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	374	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
326	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	375	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
327	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	376	縄文土器	鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
328	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	377	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
329	弥生土器	鉢	口片打 (2.0) 磨擦 (4.0)	内面底と色彩	M1	378	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
330	弥生土器	台付鉢	口片打と脚付の横幅波状文	後期	M1	379	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
331	弥生土器	蓋	外向赤褐色	横幅打丁字文	後期	380	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
332	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	381	石器	片	時代末 神石富山岩 7.5 2.3 3.7 242.13	馬之内1	P1
333	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	382	石器	片	時代末 神石富山岩 7.5 2.3 3.7 409.409	馬之内1	P1
334	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	383	石器	片	時代末 神石富山岩 7.5 2.3 3.7 424.13	馬之内1	P1
335	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	384	石器	片	時代末 神石富山岩 7.5 2.3 3.7 409.409	馬之内1	P1
336	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	385	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
337	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	386	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
338	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	387	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
339	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	388	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
340	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	389	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
341	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	390	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
342	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	391	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
343	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	392	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
344	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	393	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
345	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	394	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
346	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	395	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
347	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	396	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
348	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	397	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1
349	縄文土器	深鉢	丸打	丸打の横幅首伏	後期	398	縄文土器	深鉢	時代末 横須賀駆	馬之内1	P1

第18表 ピット出土遺物観察表

No.	種別	形態	文様・圖案	傳奇	出土位置	No.	種別	面版	文様・調査		備考	出土地點
									横	縦		
394	石器	砥石	寶石安山岩上山下と側斜傾正裏に朱赤 砥石として使用か?	福島	P64	438	圓文土器	二つ口	白鷺状の伏彌		現之内1	P109
395	縄文土器	深鉢	2本の奈良式LRを用いた 半輪脚伏彌紋	福之内	P65	439	圓文土器	四脚	白鷺状ごく細身 所産複製」器	後期前半	P109	
396	縄文土器	深鉢	1脚部が折 2条の刻み足跡	福之内2	P65	440	圓文土器	脚	踏代式 幅小方小網	後期	P109	
397	縄文土器	深鉢	脚穴式施工伏彌紋	名名寺	P65	441	石器	劍片	毛鹿石 3.0 L3 0.9 2.71		P109	
398	石器	不炳	砂岩 厚さに内削れ現る 左側に剥離窓		P74	442	圓文土器	脚	側面 脚行筋合伏彌	福之内	P110	
399	縄文土器	鉢	唐式LR後期伏彌紋	福之内2	P77	443	圓文土器	脚	白鷺式内削 脚行筋合伏彌	現之内	P110	
400	縄文土器	深鉢	脚位逆立脚	後期前半	P84	445	圓文土器	脚	脚底 伏彌	現之内2	P115	
401	縄文土器	深鉢	後張立脚 2条の伏彌紋	福之内	P84	446	圓文土器	脚	脚底 伏彌	後期	P115	
402	縄文土器	深鉢	山形削立脚から側位伏彌	福之内1	P84	451	圓文土器	脚	脚底 12.4 鹿島 脚底 脚行筋合伏彌	後期	P97	
403	縄文土器	鉢	单下集合伏彌を施用形	福之内1	P84	452	圓文土器	脚	脚底 脚行筋合伏彌	後期半	P116	
404	縄文土器	鉢	集合伏彌が四脚	福之内1	P84	453	圓文土器	脚	わざか低伏彌の建築	現名寺?	P116	
405	縄文土器	鉢	脚底剥離	福之内1	P84	454	圓文土器	脚	山形内削外削に導る堆帶側面に 円孔もつ突起 内面内削剥離	現之内1	P116	
406	縄文土器	鉢	脚底の剥離伏彌	福之内1	P84	455	圓文土器	脚	「山」形 脚底の剥離下に伏彌がなぞる	福之内1	P116	
407	縄文土器	鉢	子母式の剥離・成形	後期	P84	456	圓文土器	脚	2条の脚底剥離に円脚剥離	現之内1	P116	
408	石器	打製石斧	宝石安山岩上被破 刃部に磨耗 右側に剥離伏彌	P85	457	圓文土器	脚	その位に唐式LR	現之内	P116		
409	縄文土器	深鉢	唐式LRと並ぶ 舟形の伏彌紋	名名寺	P87	458	圓文土器	脚	山形に捺うきの脚底から転行伏彌	現之内	P116	
410	縄文土器	深鉢	脚底に剥離・成形	後期前半	P85	459	圓文土器	脚	脚底の内削外削	後期	P116	
411	縄文土器	深鉢	脚底江戸脚	後期前半	P86	460	先史土器	脚	脚底 脚行筋合伏彌	後期前半	P116	
412	縄文土器	深鉢	前脚付から側位伏彌 前面に 山形外へ唐式LR出現	福之内1	P86	461	圓文土器	脚	脚底 脚底剥離	後期前半	P116	
413	縄文土器	深鉢	脚底剥離伏彌内に唐式LR	中後前半	P87	462	圓文土器	脚	2条の脚底 脚底	後期前半	P114	
414	縄文土器	深鉢	脚底江戸脚	後期前半	P87	463	圓文土器	脚	脚底 脚行筋合伏彌	現之内1	P125	
415	縄文土器	深鉢	脚底伏彌上位による履位原座	名名寺	P87	464	圓文土器	脚	「山」形に円脚の小突起	現之内1	P128	
416	縄文土器	深鉢	伏彌内向2条による履位原座	名名寺	P87	465	圓文土器	脚	脚底に剥離伏彌	後期前半	P129	
417	縄文土器	深鉢	先史前に付いた孔 弓張に付いて剥離・成形	福之内1	P97	467	圓文土器	脚	脚底 脚行筋合伏彌	現之内1	P125	
418	縄文土器	深鉢	足跡と条脚の区画内に垂直原座	福之内1	P97	468	圓文土器	脚	脚底壁下に備陶工具による 伏彌	現之内1	P129	
419	縄文土器	深鉢	脚底に剥離	後期前半	P99	469	石器	脚底 脚底剥離	花崗岩 上部へ山形欠損 全体に剥離	現之内1	P129	
420	縄文土器	深鉢	脚底	後期前半	P99	470	圓文土器	脚	(4.2) (3.0) (1.9) (0.78)		P129	
421	縄文土器	深鉢	深鉢	後期前半	P99	471	圓文土器	脚	花崗岩内に唐式LR	名名寺	P130	
422	縄文土器	深鉢	底の萬葉字跡(縄内2条に唐式LR)と 充満	福之内1	P99	472	石器	脚底 脚底	花崗岩内に脚底充満	現之内1	P130	
423	縄文土器	鉢	1脚部充満 底面充満	福之内1	P99	473	圓文土器	脚	花崗岩内脚底充満	後期前半	P132	
424	縄文土器	深鉢	2条の脚底原座内に唐式LR充満	後期前半	P99	474	圓文土器	脚	円形剥離から脚底充満	現之内1	P132	
425	縄文土器	深鉢	下に唐式LRと成形 底面に内削れの付着がみられる	安行3a?	P99	475	圓文土器	脚	くびれ部に柔らかい脚底充満	現之内1	P132	
426	縄文土器	深鉢	ナイトル厚2.0cm 厚3.0cm 内削れに内削れの付着がみられる	後期前半	P111	476	圓文土器	脚	大きなもの内文から備陶文 内文に舟形の	現之内1	P132	
427	縄文土器	鉢	2脚の内削れ付込みの脚底 内削れ付込みの脚底の内削れがみられる	福之内1	P104	477	圓文土器	脚	くびれ部に柔らかい脚底充満	後期前半	P132	
428	縄文土器	鉢	脚底付込みの脚底の内削れから脚底充満	福之内1	P104	481	圓文土器	脚	内文の軸に脚底充満配す小突起	現之内1	P134	
429	縄文土器	深鉢	脚底付込み 脚底付込み	福之内1	P105	482	圓文土器	脚	円形剥離から脚底充満	後期前半	P134	
430	土師鍋	鉢	底付 底付	古墳後期	P106	483	圓文土器	脚	内削れ部を底付集合伏彌	現之内1	P138	
431	縄文土器	鉢	底付と斜行合伏彌	福之内1	P107	484	圓文土器	脚	さざらに直下する伏彌	現之内1	P134	
432	旁生土器	鉢	底付工具による技術文	後期前半	P107	485	圓文土器	脚	底付の萬葉字跡	現之内1	P134	
433	縄文土器	深鉢	萬葉絶句文下に唐式LR	中後前半	P108	486	圓文土器	脚	くびれ部の萬葉字跡文から上方に 2条の連帶がみれる	現之内1	P135	
434	縄文土器	深鉢	脚底付込み 脚底付込み	後期前半	P109	487	圓文土器	脚	11脚部内脚 口唇に剥離した沈底	現之内1	P135	
435	縄文土器	鉢	剥離をもつ 内削れをもつ 内削れをもつ	唐式LR充満	P109	488	圓文土器	脚	軒行2段底を底付集合伏彌	現之内1	P138	
436	縄文土器	鉢	剥離する沈底から 内削れをもつ	唐式LR充満	P109	489	圓文土器	脚	底付2段行する集合伏彌	現之内1	P138	
437	縄文土器	鉢	口唇部に剥離する 内削れをもつ	唐式LR充満	P109	490	圓文土器	脚	口唇部内脚 口唇部下に剥離	現之内2	P138	

No.	種別	説明	文様・削葉	備考	出土位置	No.	種別	説明	文様・削葉	備考	出土位置	
487	陶文土器	深鉢	丁字文を切り入れた比較	新名古	P143	525	埴文土器	鉢	丸み強調が側位埋込へ至る下する	塙之内	P156	
488	陶文土器	深鉢	所調直腹型	後堀前半	P143	526	陶文土器	鉢	側位埋込帯	後堀前半	P158	
489	石器	石刀			P143							
490	陶文土器	深鉢	伏状乳頭付圓筒形	新名古	P144	527	陶文土器	鉢	打溝小波状U縁か? 口縁部にくびれ	塙之内	P158	
491	陶文土器	深鉢	S字状彫刻付鉢	肥厚下端から横模	新名古	P144	528	陶文土器	鉢	伏状乳頭付	塙之内	P158
492	陶文土器	深鉢	伏状の弧状外へ彫文又文様	二角状の平行寸幅区画内	新名古	P144	529	陶文土器	鉢	横模・斜行集合沈線	塙之内	P160
493	陶文土器	深鉢	绳文L字充填		新名古	P144	530	陶文土器	鉢	横模・斜行集合沈線	塙之内	P161
494	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	後堀前半	P144	531	陶文土器	深鉢	縦模文又三角形文を描き文様	塙之内	P163	
495	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	後堀前半	P144	532	陶文土器	鉢	トヨモチ文又彫刻しているらしい	塙之内	P163	
496	陶文土器	鉢	背巻形内縫付支い・佐原	口部付	後堀前半	P144	533	石器	被破(金井式・黒化)	上縁部に横行	塙之内	P153
497	陶文土器	深鉢	3段の円錐と突起	口開部押圧	塙之内	P144	534	石器	断面右側に凹窓	下部断	P164	
498	陶文土器	鉢	U縫合の横模	横模付腰帶	塙之内	P144	535	石器	断面右側に二次加工か?	右側	P164	
499	陶文土器	鉢	横模付腰帶下辺をなぞる	佐原と2条の	塙之内	P144	536	石器	断面右 2.8 2.1 0.6 3.29	右側	P164	
500	陶文土器	深鉢	斜行寸幅区画内に横文L字充填	後堀前半	P144	537	陶文土器	鉢	横模付腰帶下辺に横文L字	中舟側~	P165	
501	陶文土器	注口	内窓・内縫する平行口縫下に	後堀前半	P144	538	石器	被破(木井式)	上縁部に横行	後堀前半	P165	
502	陶文土器	鉢	内窓	口縫付	P144	539	陶文土器	鉢	ボルケンフェルム 上口縫部に無撚旋	左側	P165	
503	石器	打製石斧	内窓付木井縫	直縫	P144	540	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P167	
504	陶文土器	鉢	横模	後堀前半	P144	541	陶文土器	鉢	断面右 1.0 0.4 (0.07)	右側	P167	
505	陶文土器	深鉢	縦模2本縫り 他にもう一つの	後堀前半	P144	542	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P168	
506	陶文土器	深鉢	縦模の平行寸幅内に	横模付腰帶	塙之内	P147	543	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169
507	陶文土器	深鉢	横模の剪み跡	横模付腰帶	塙之内	P148	544	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169
508	石器	磨・敲	2本縫1本縫り 他にもう一つの	後堀前半	P148	545	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
509	石器	磨・敲	2本縫1本縫り	横模付腰帶	P152	546	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
510	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	後堀前半	P153	547	石器	断面右側に2次加工か?	右側	P169		
511	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	548	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
512	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	549	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
513	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	550	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
514	陶文土器	深鉢	木井縫あり底盤付を加工	後堀前半	P153	551	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P169	
515	石器	敲石	木井縫あり(今体に黒化)	再名古	P153	552	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
516	石器	敲石	木井縫あり(今体に黒化)	再名古	P153	553	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
517	陶文土器	深鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	554	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
518	陶文土器	深鉢	X字状集合沈線の中心に2縫の凹形	横模付腰帶	P153	555	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
519	陶文土器	鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	556	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
520	陶文土器	鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	557	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
521	陶文土器	鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	558	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
522	陶文土器	鉢	横模付腰帶	横模付腰帶	P153	559	陶文土器	鉢	断面右側に2次加工か?	右側	P170	
523	陶文土器	鉢	武部本底	後堀前半	P155	-						
524	石器	打製石斧	厚石安山岩 上部欠損 刃部に齊滅	(7.4) (7.7) (1.4) (109.50)	P155	-						

第20表 A地区邊境外出土遺物觀察表



西近津遺跡近景（南西より）



西近津遺跡跡から長野県考古文センター調査地点西近津遺跡群を臨む（北西より）



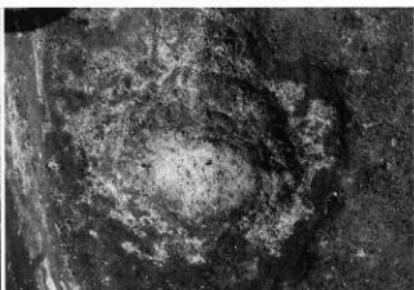
H1号住居址 南より



H1号住居址掘り方 南より



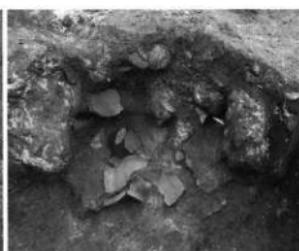
H1号住居址遺物出土状況



H1号住居址炉



H2号住居址遺物出土状況



H2号住居址カマド



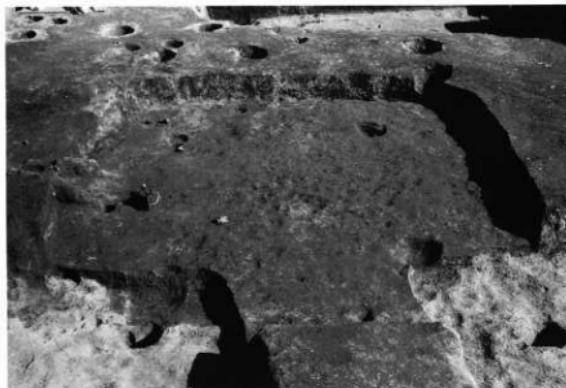
H2号住居址掘り方 西より



H2号住居址カマド



H2号住居址カマド掘り方



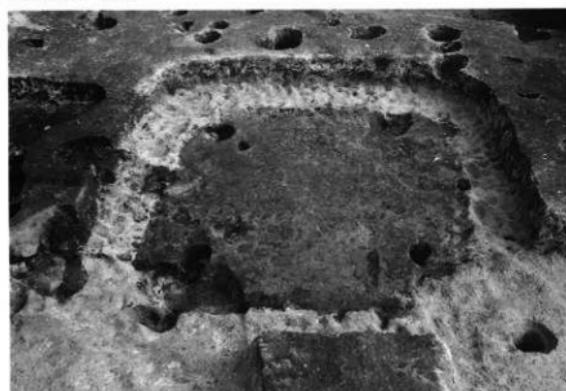
H3号住居址 西より



H3号住居址カマド



H3号住居址カマド右縁状況



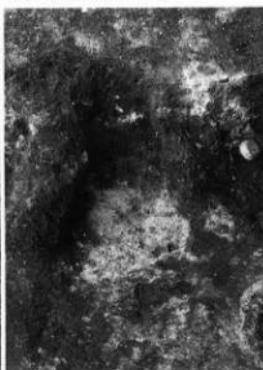
H3号住居址掘り方 西より



H3号住居址遺物出土状況



H4号住居址 東より



H4号住居址カマド

図版四



H4号住居址掘り方 南より



H4号住居址カマド掘り方



H5号住居址 東より



H6号住居址 西より



H5号住居址掘り方 東より



H5号住居址カマド



H5号住居址カマド掘り方

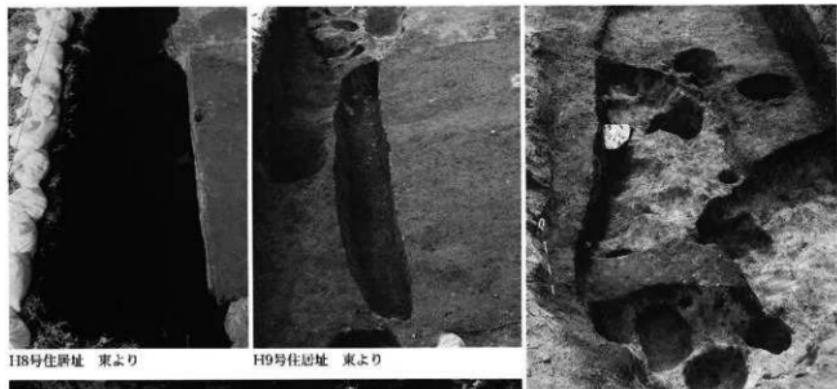


H7号住居址遺物出土状況



H17号住居址 東より

H117号住居址

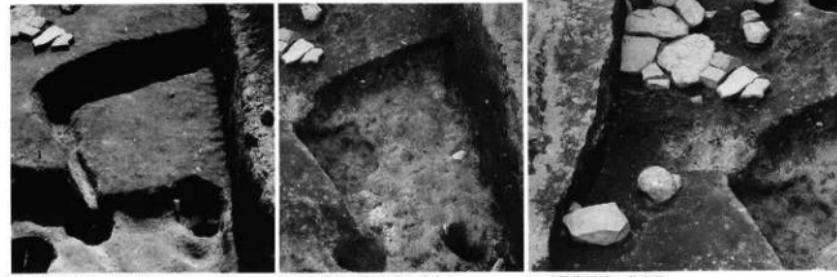


H18号住居址 東より

H9号住居址 東より

H10号住居址 東より

H12号住居址掘り方 北より



H11号住居址 北より

H111号住居址掘り方 北より

H12号住居址 北より



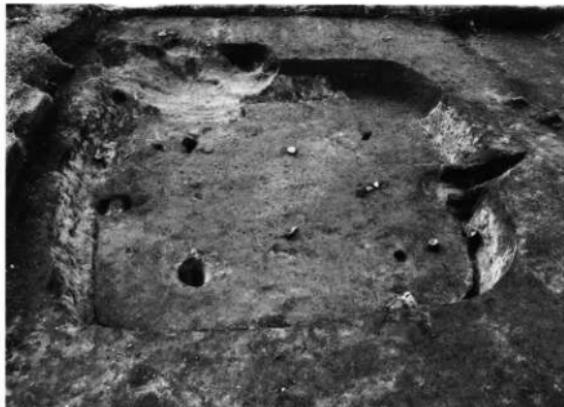
H13号住居址 東より



H13号住居址掘り方 東より



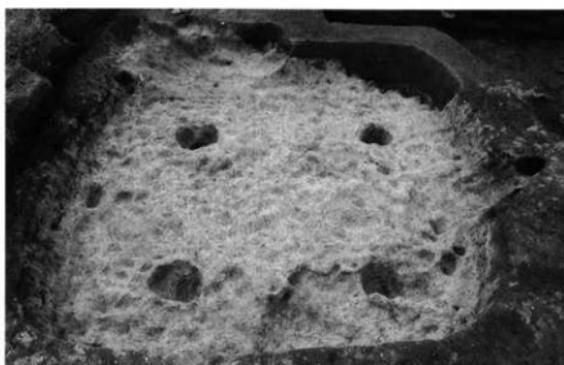
H13号住居址カマド



H14号住居址 東より



H14号住居址カマド



H14号住居址掘り方 東より



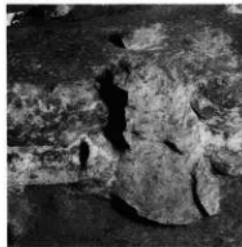
H14号住居址遺物出土状況



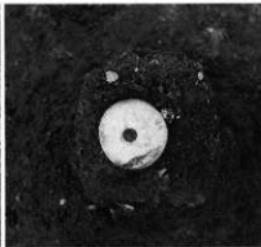
H15号住居址 南より



H15号住居址石組状況



H15号住居址カマド掘り方



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H15号住居址遺物出土状況



H16号住居址 北より



H16号住居址掘り方 北より



H17号住居址 南より



H17号住居址カマド掘り方



H17号住居址掘り方 南より



H17号住居址カマド



H17号住居址遺物出土状況



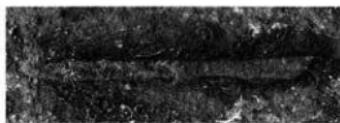
H17号住居址遺物出土状況



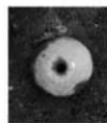
H18号住居址 南より



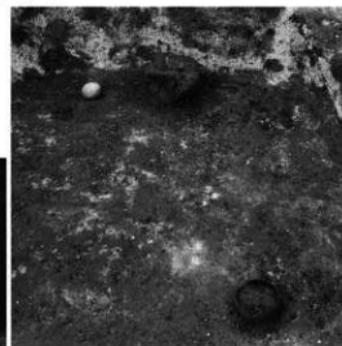
H18号住居址掘り方 南より



H18号住居址遺物出土状況



H18号住居址
遺物出土状況



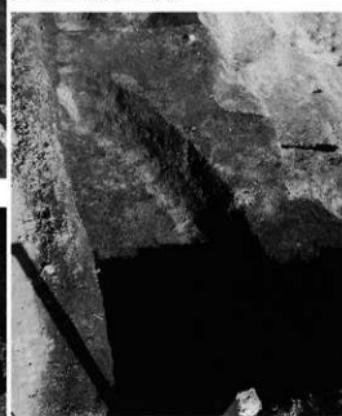
H18号住居址遺物出土状況



H19号住居址 南より



H19号住居址遺物出土状況



H20号住居址 南より



H21号住居址遺物出土状況



H21号住居址 南より



H22号住居址 南より



H22号住居址 掘り方 南より

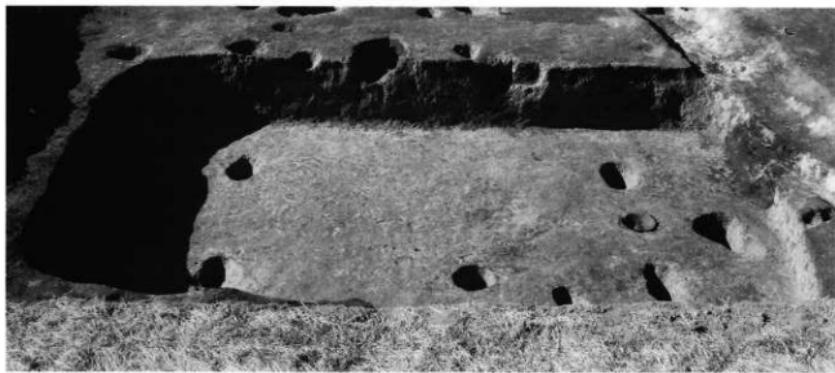


H23号住居址 西より



H24号住居址 掘り方 南より

図版十一



H25号住居址 東より



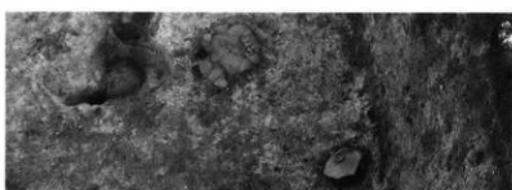
H25号住居址 北より



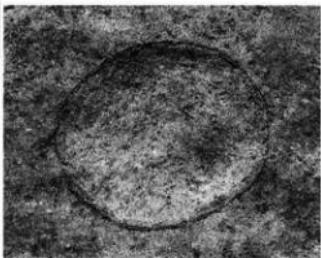
H25号住居址 焼



H25号住居址 焼掘り方



H25号住居址 遺物出土状況

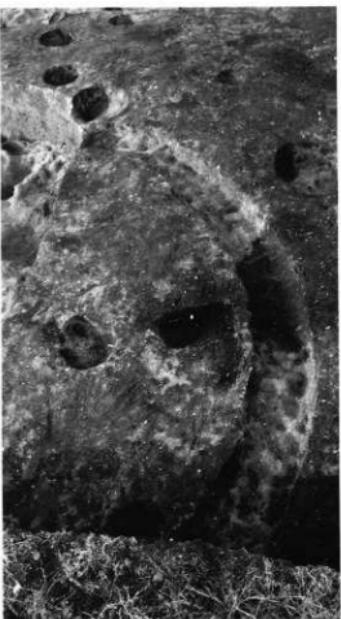


H25号住居址 焼2掘り方

H25号住居址 入り口部



円形周溝1 北より



円形周溝2 南より



円形周溝1 西より



調査風景

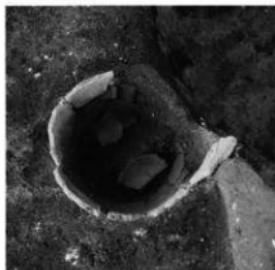


円形周溝1 東より

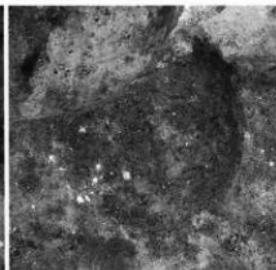


B区調査風景

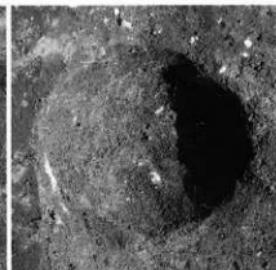
图版十三



D1号土坑遗物出土状况



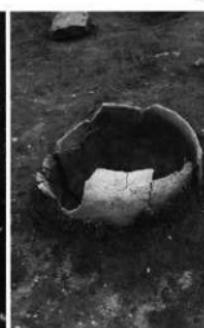
D1号土坑



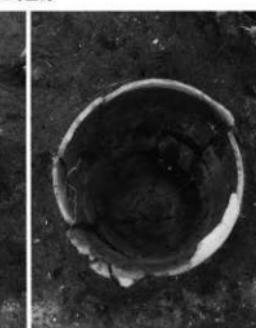
D2号土坑



D2号土坑遗物出土状况



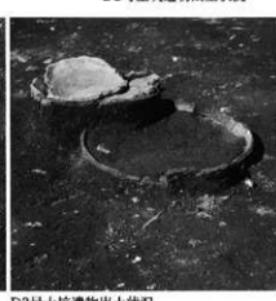
D2号土坑遗物出土状况



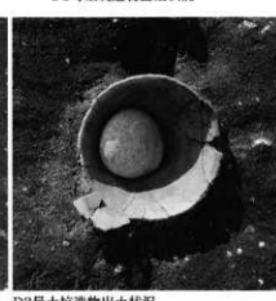
D2号土坑遗物出土状况



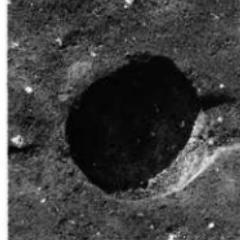
D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑遗物出土状况



D3号土坑

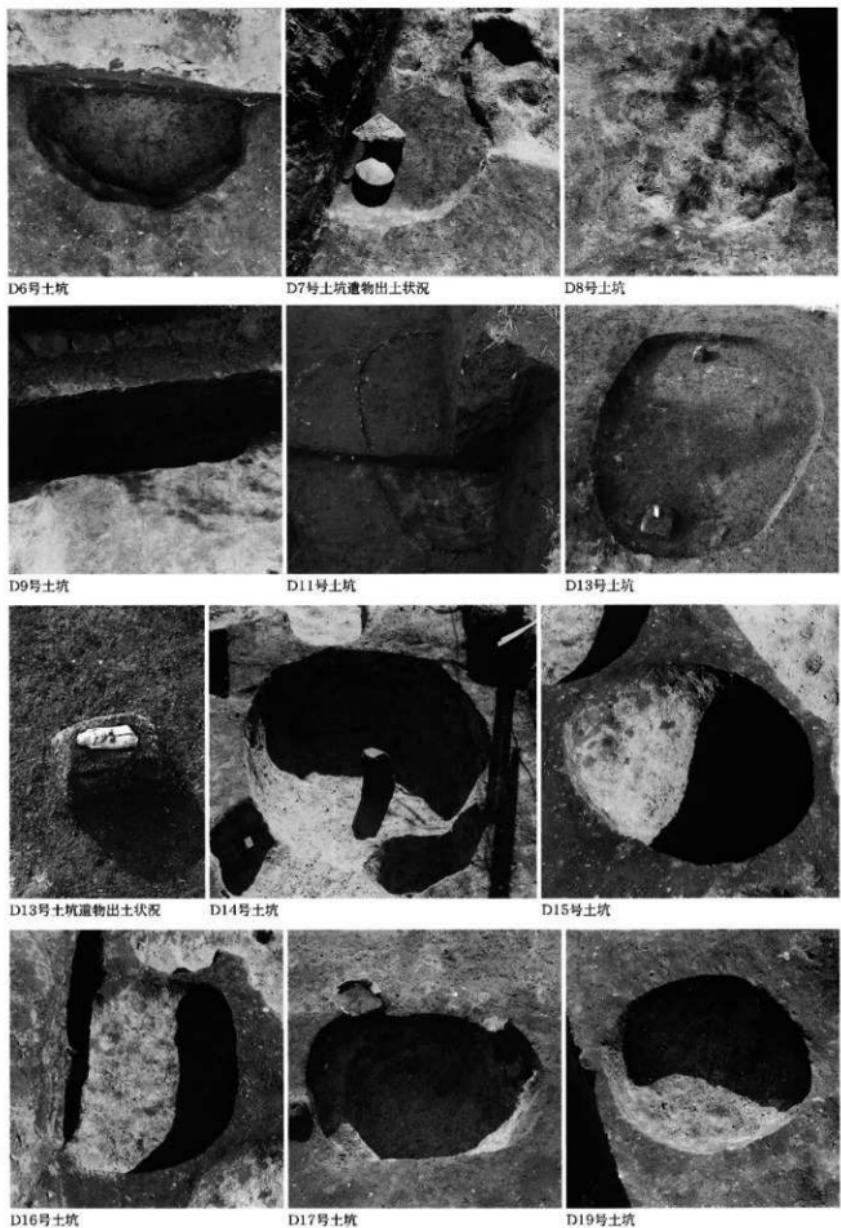


D4号土坑



D5号土坑

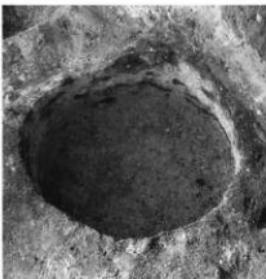
图版十四



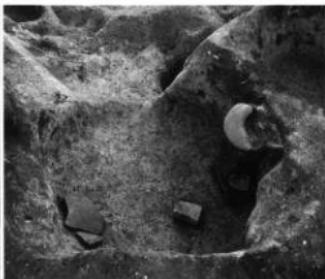
圖版十五



D20号土坑



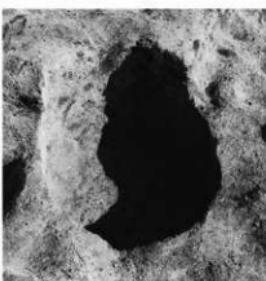
D21号土坑



D22号土坑遺物出土狀況



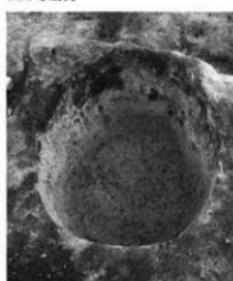
D23号土坑



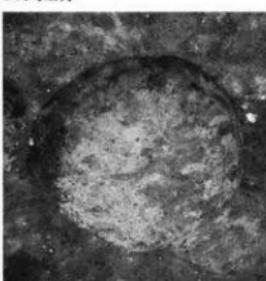
D25号土坑



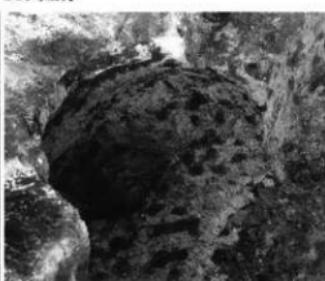
D26号土坑



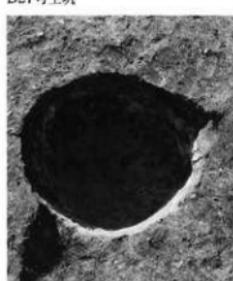
D27号土坑



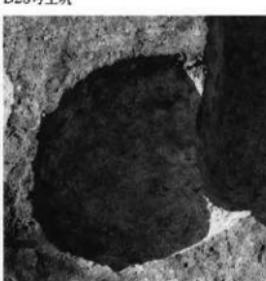
D28号土坑



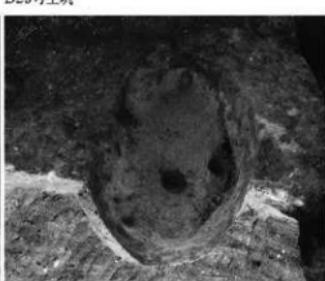
D29号土坑



D30号土坑



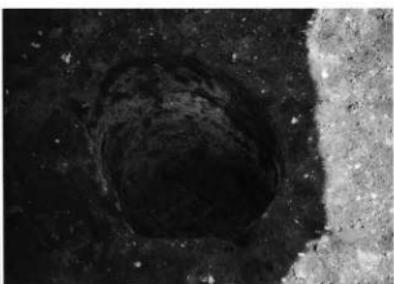
D31号土坑



D32号土坑



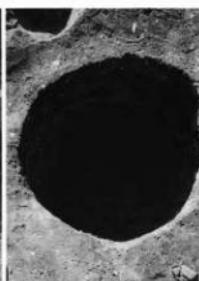
D33号土坑



D34号土坑



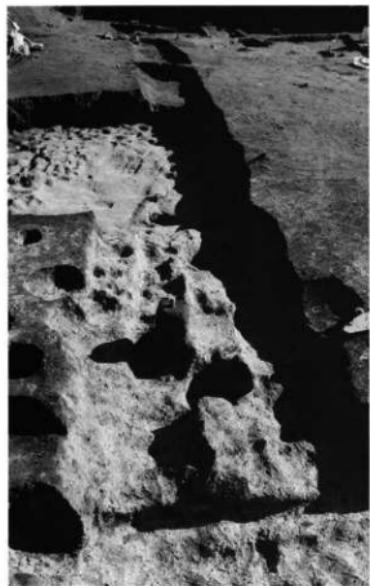
D35号土坑



D37号土坑



D36号土坑

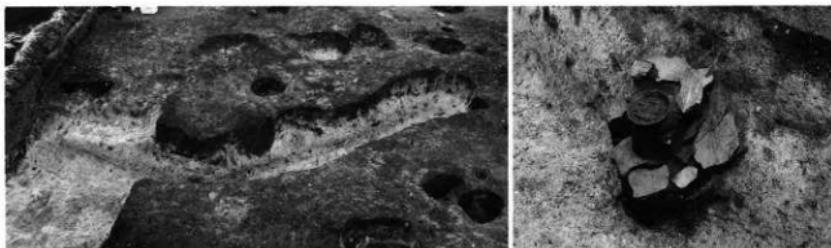


M1号溝状遺構 西より



M3号溝状遺構 南より

図版十七

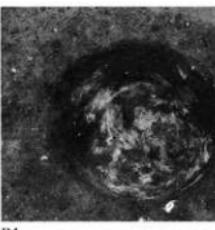


M3号溝状遺構 西より

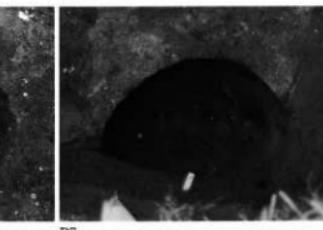
M3号溝状遺構遺物出土状況



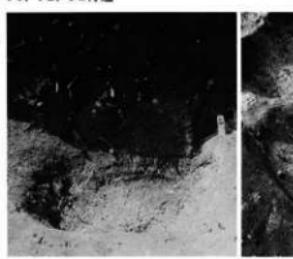
P1, P2, P3付近



P4
P12, P13



P7



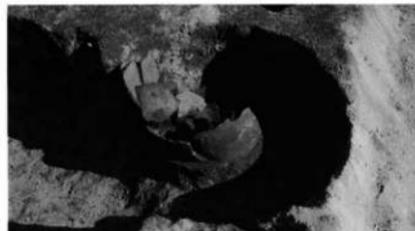
P14



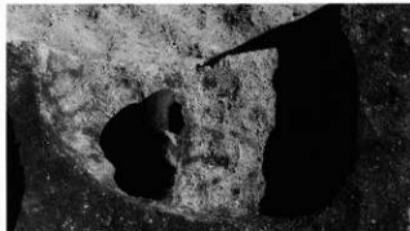
P15



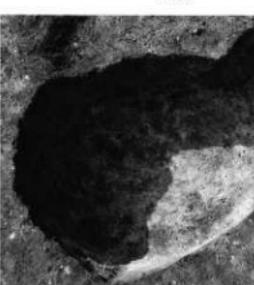
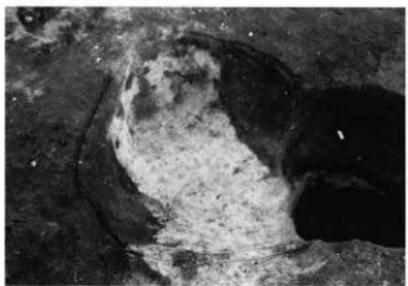
P22



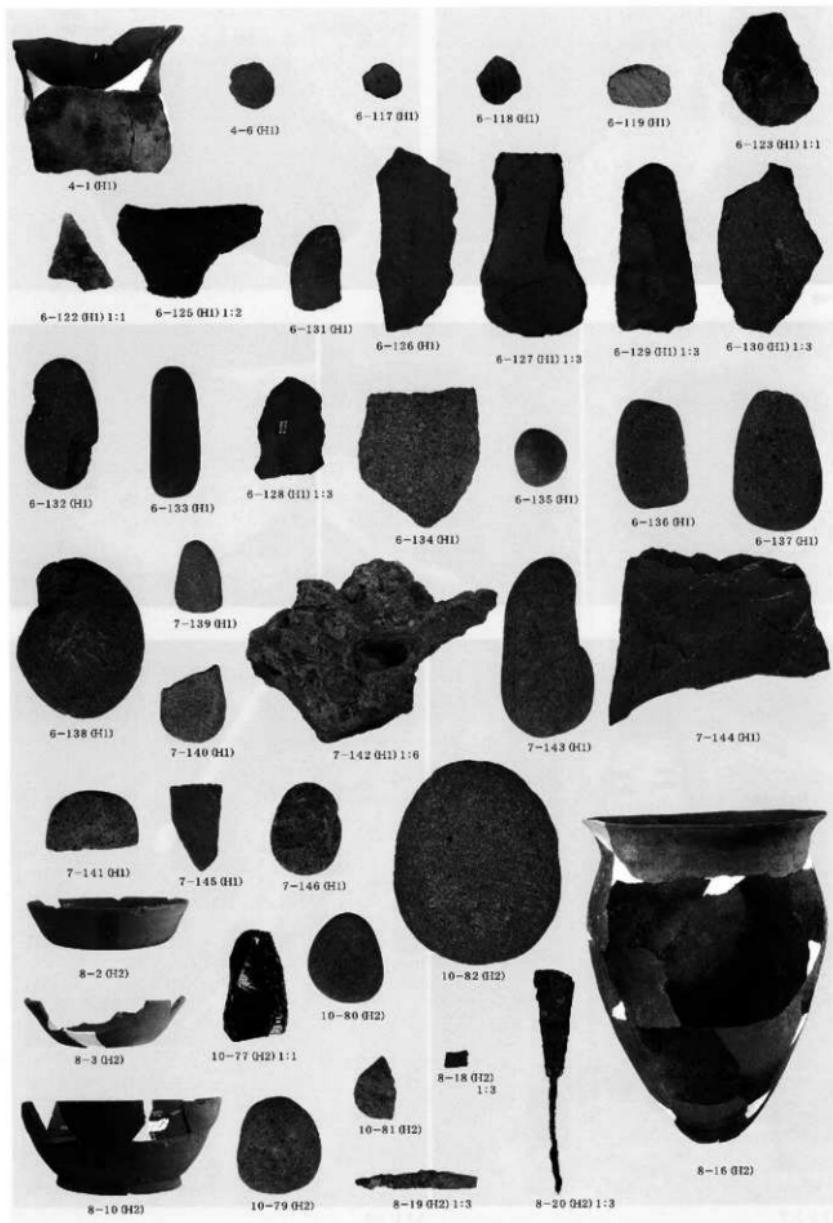
P97遺物出土状況

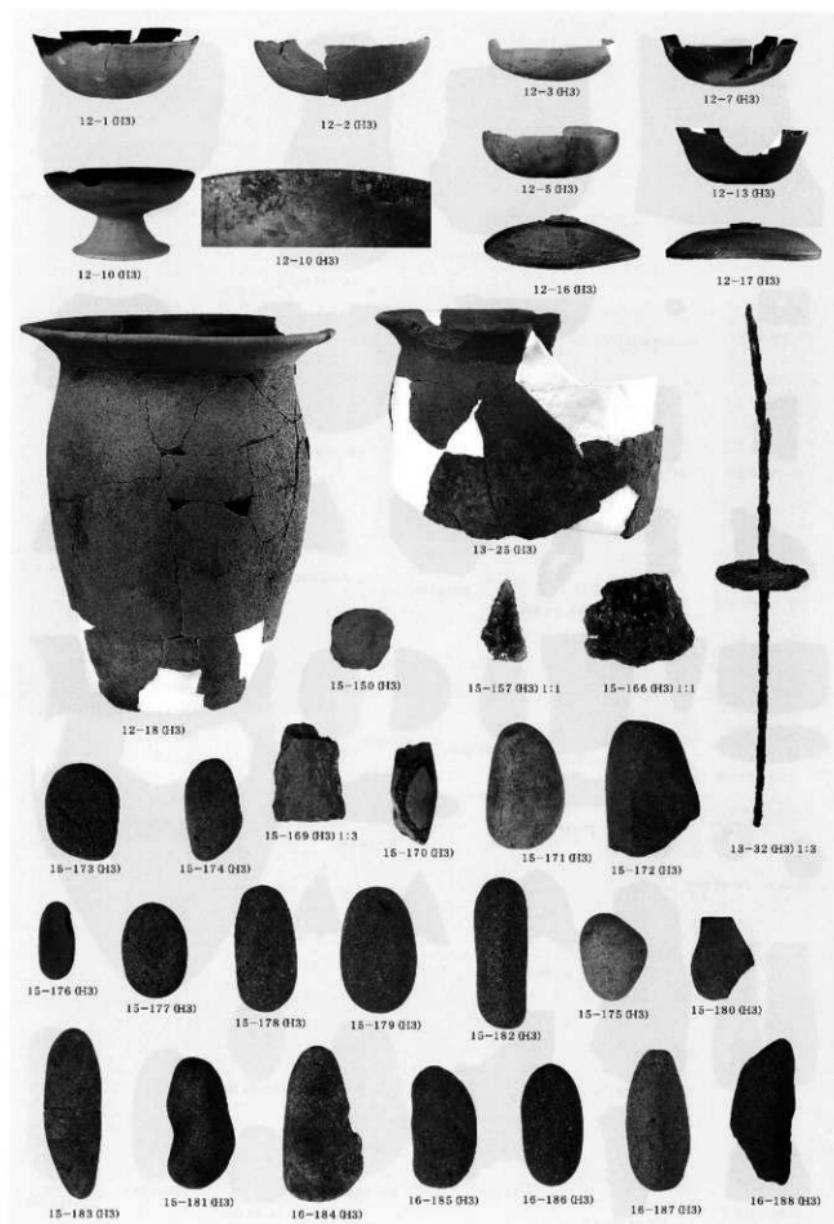


P106遺物出土状況

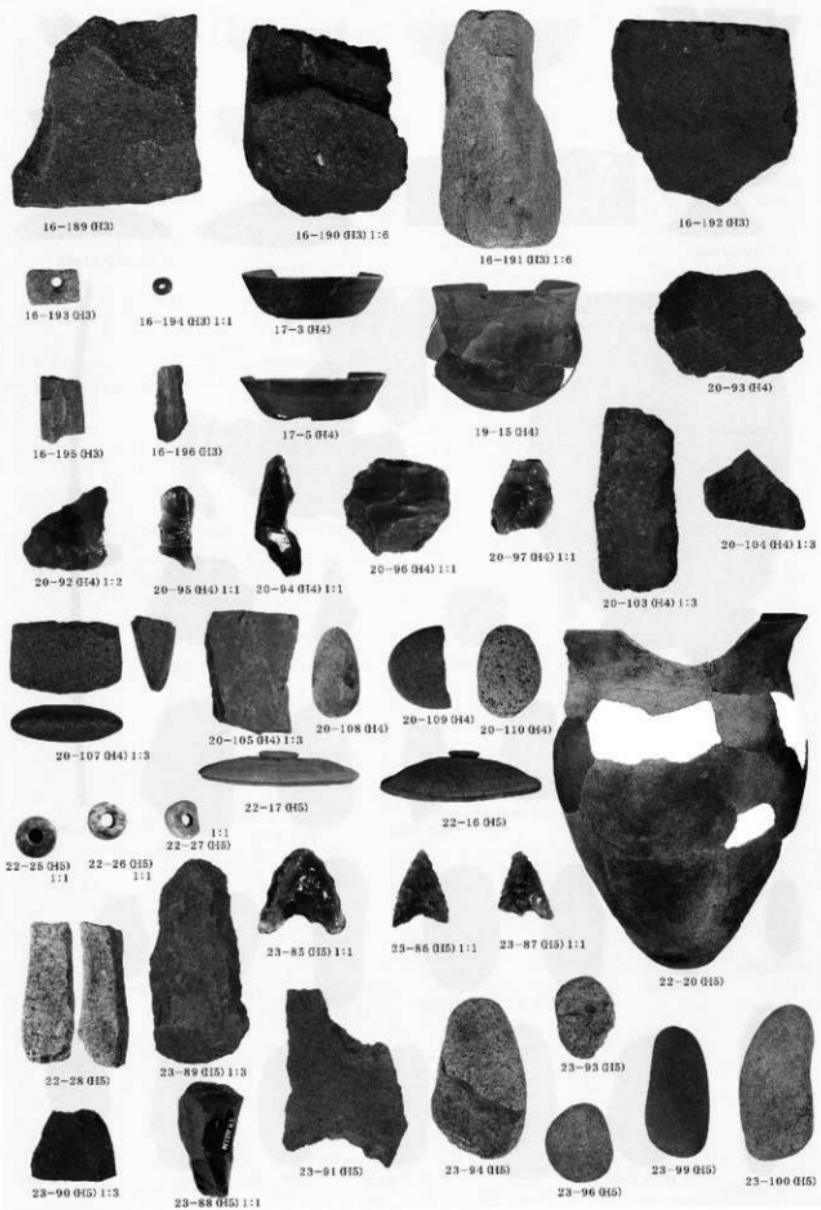


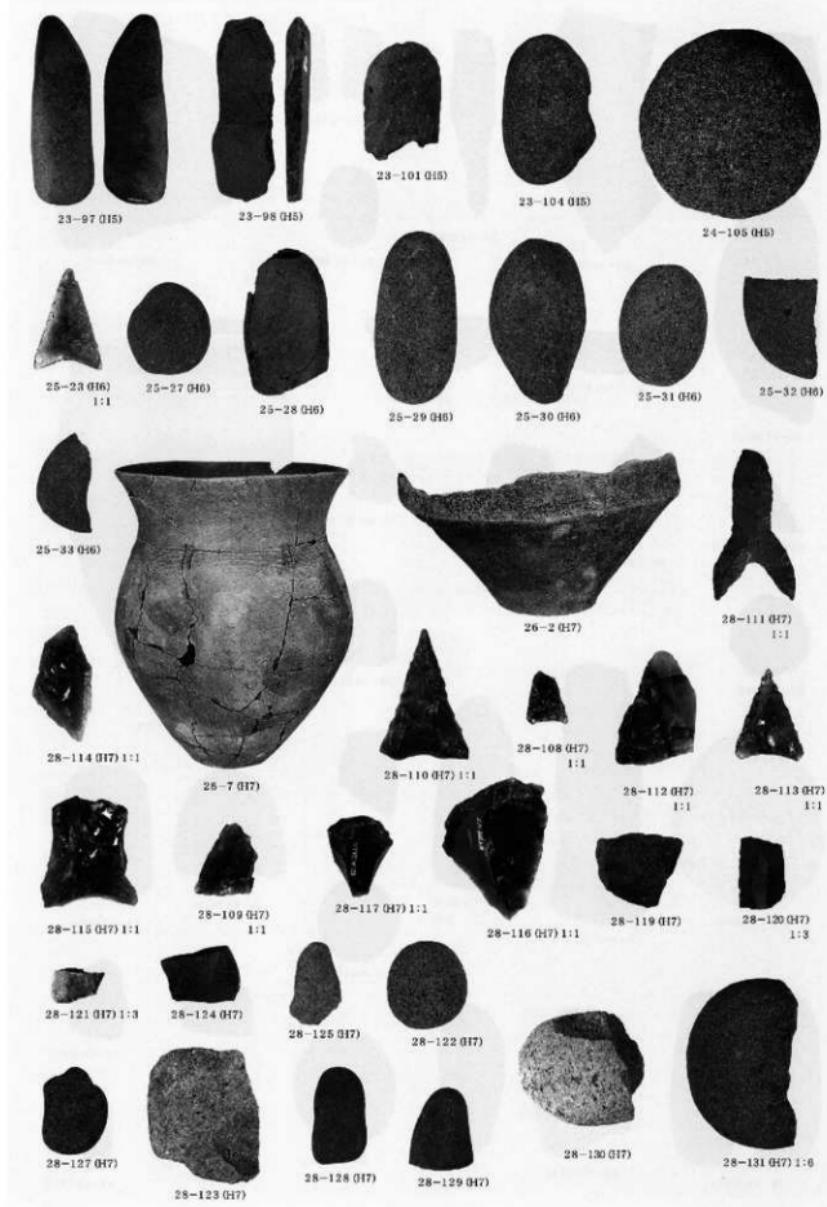
図版十九



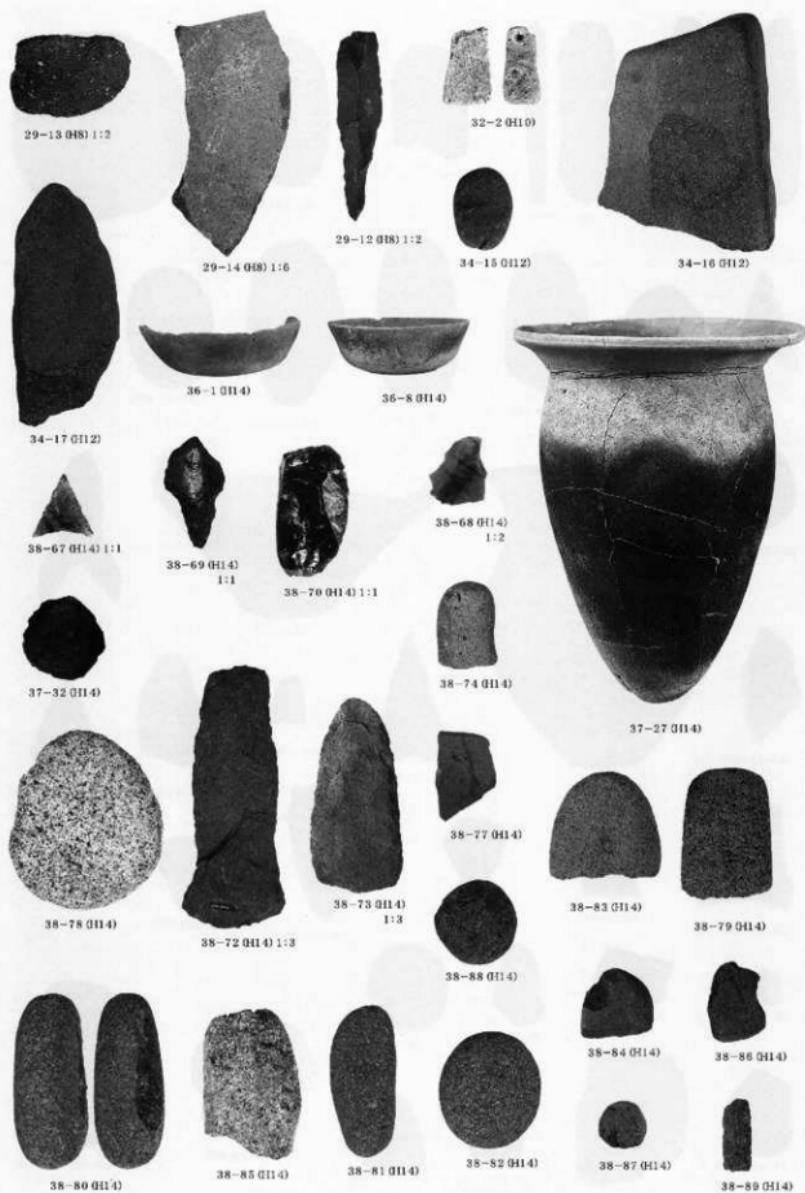


図版二十一



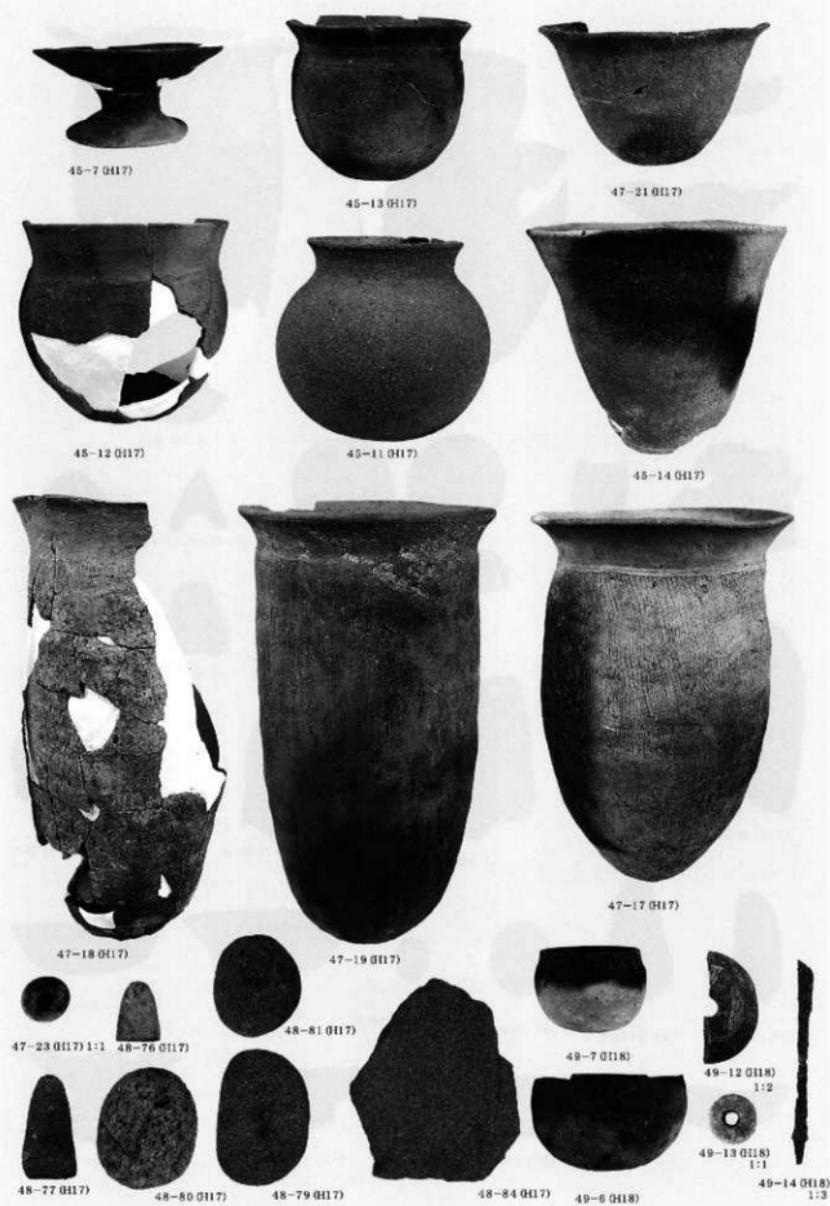


図版二十一



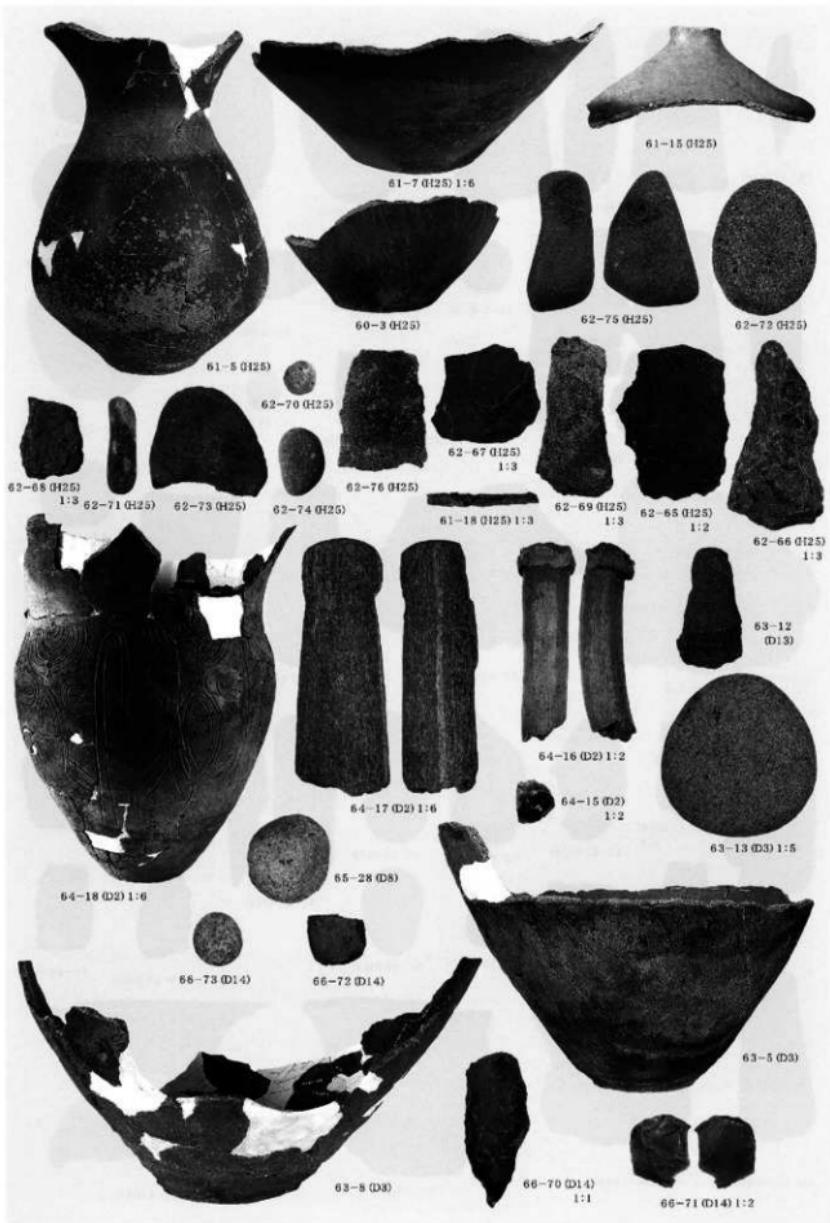


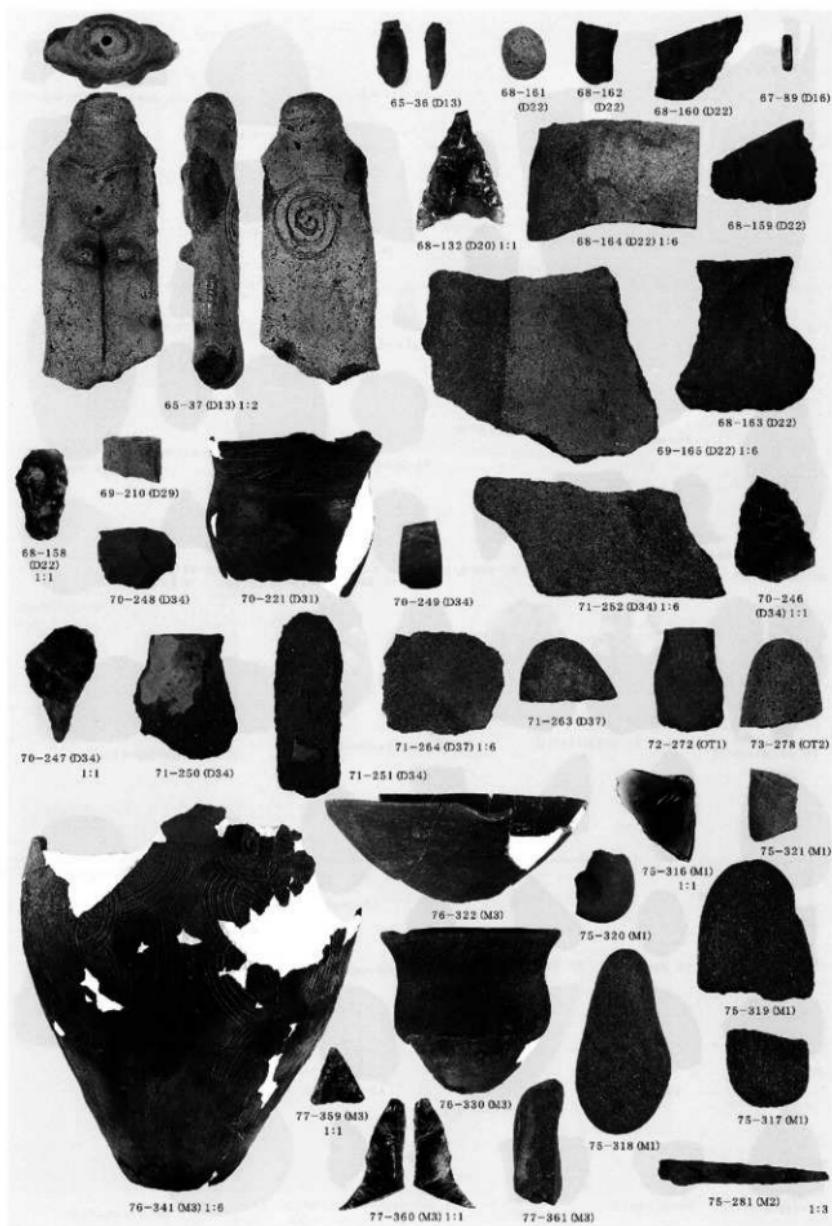
図版二一五



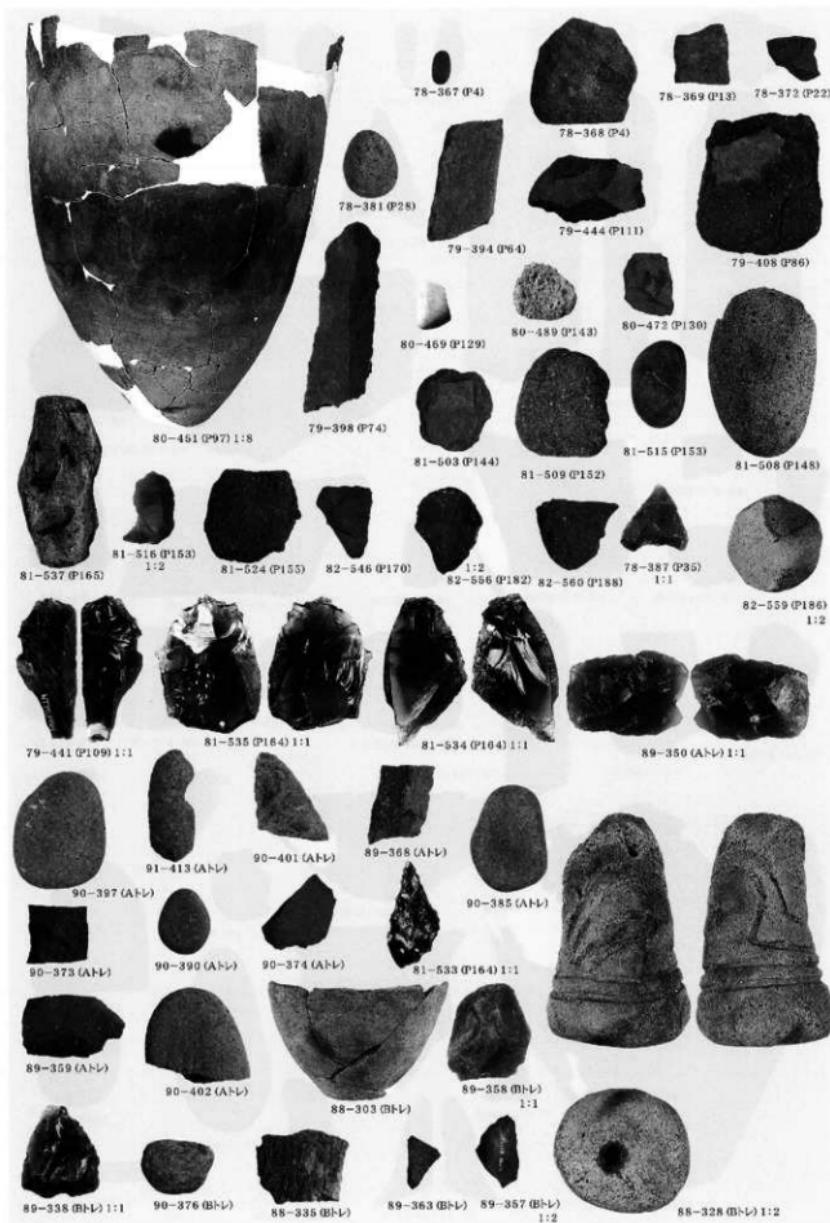


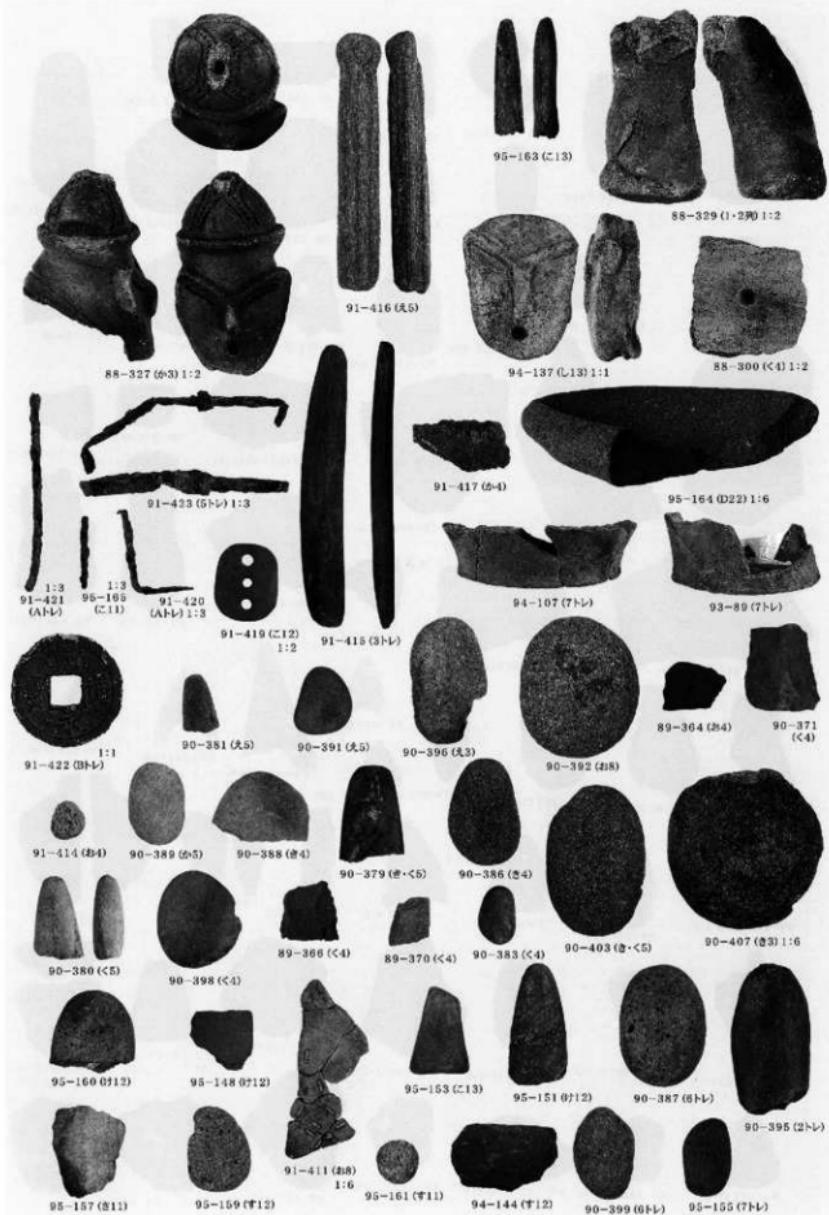
図版二十七

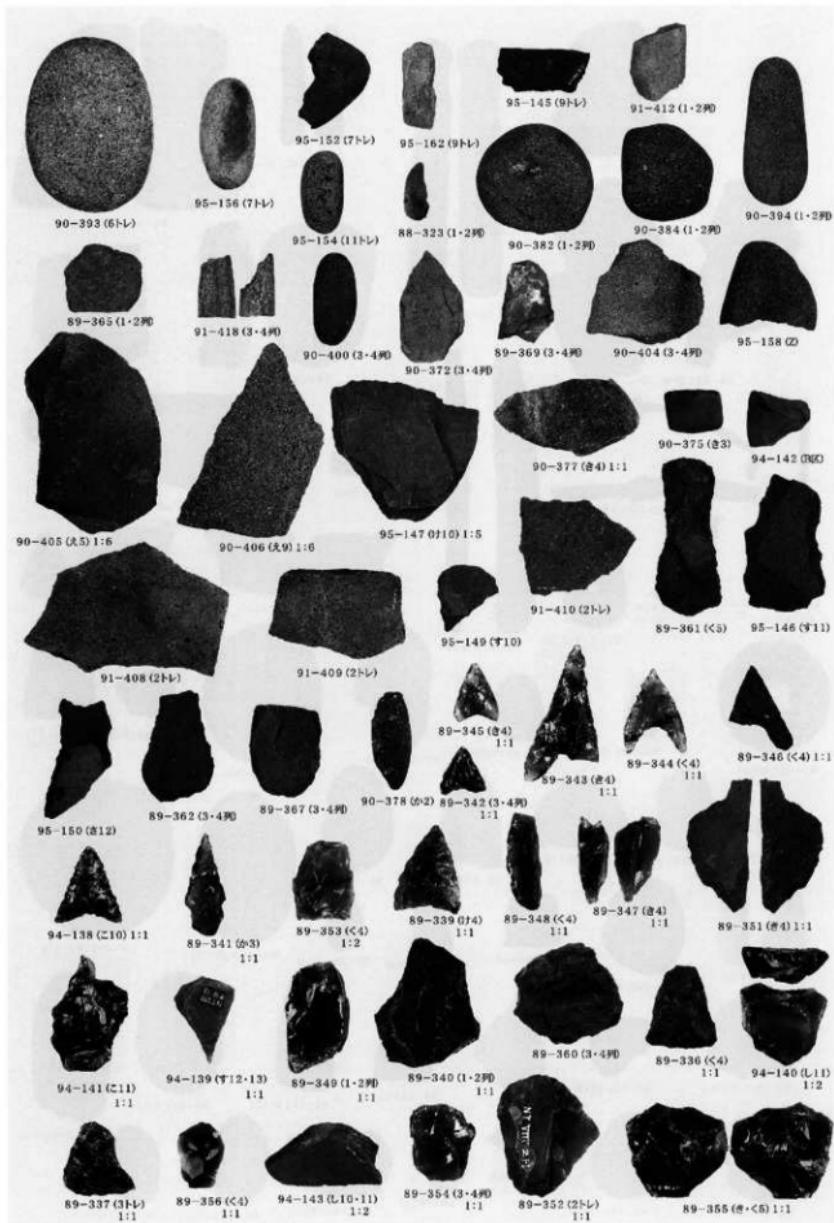




図版二十九







第三章 西近津遺跡群 西近津遺跡IX

第1節 調査体制

調査担当者 上原 学
調査員 浅沼勝男 江原富子 小幡弘子 風間敏 木内勇 小井戸秀元
小林百合子 清水澄生 滝沢三男 土屋武士 中嶋フクジ
比田井久美子 日向昭次 武者幸彦 渡辺長子 渡辺学

第2節 調査日誌

平成23年度

- 7月20日 文化財保護法93条に基づく埋蔵文化財発掘調査の届出。
11月 8日 試掘調査。（住居址・ピット発見）
11月10日～文化財保護協議。
遺跡の破壊される建物部分の発掘調査を実施することとなった。
11月22日 平成23年度埋蔵文化財委託契約。
11月24日 発掘調査開始。重機による表土剥ぎ。（原因者による）機材搬入。
11月25日～機材搬入・遺構検出・掘り下げ・図面作成・写真撮影
11月28日 基準杭設定。（原因者による）
12月 8日 調査終了。機材撤収。
12月 7日～平成24年 3月16日 報告書作成。



西近津遺跡群 西近津遺跡IX全景（南西から）

(遺物=遺物洗浄・注記作業・接合復元作業・実測図作成・トレース・写真撮影・図版作成、遺構=図面修正・写真整理・トレース・図版作成・原稿作成)

1月20日 平成23年度埋蔵文化財発掘調査委託契約の変更契約。

3月16日 平成23年度発掘調査作業完了・請求。

平成24年度

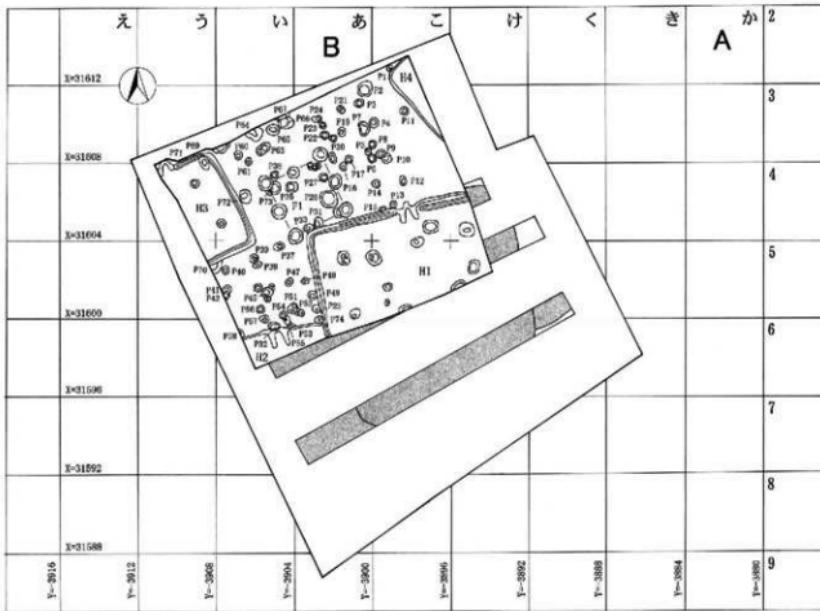
6月29日 平成24年度埋蔵文化財発掘調査委託契約。

1月~ 報告書原稿入稿。校正。図面・遺物整理作業。

3月 報告書刊行。

第3節 発見された遺構と遺物

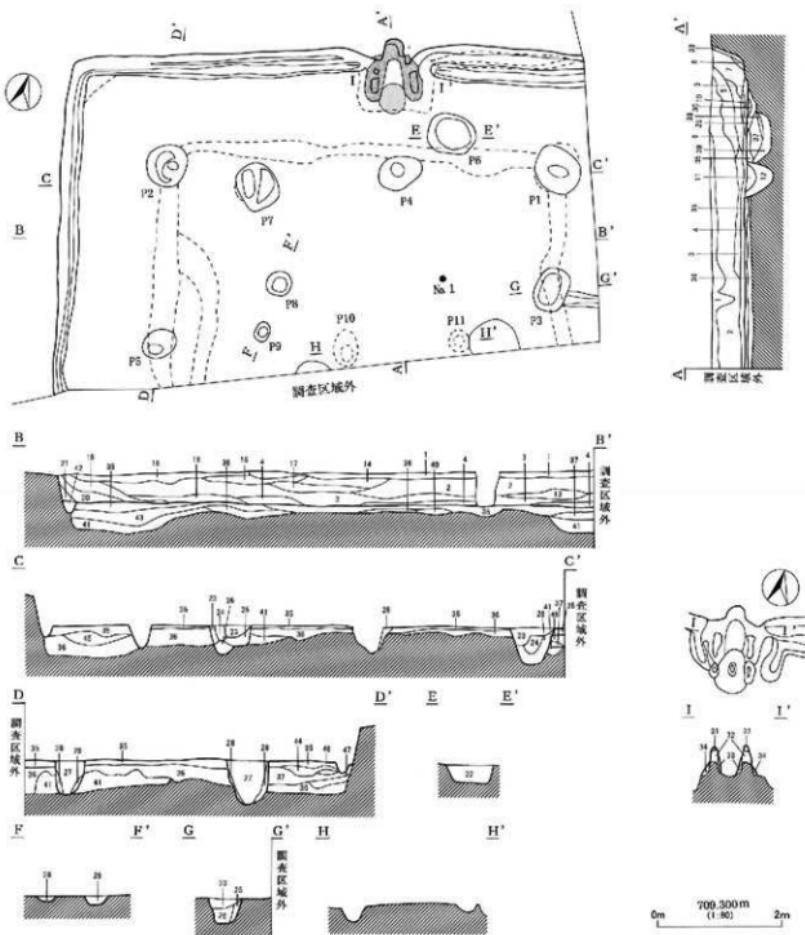
遺構	竪穴住居址	4軒 (弥生時代1・古墳時代3)
	掘立柱建物址	1棟 (奈良・平安時代)
ビット		
遺物	縄文土器	
	弥生土器	
	土師器 (坏・甕・鉢)	
	須恵器 (坏・甕・壺)	
	石製品 (すり石・編物石・敲石)	



第96図 調査遺構・試掘トレンチ配置図 (1 : 250)

第4節 穴住居址 (H)

H 1号住居址



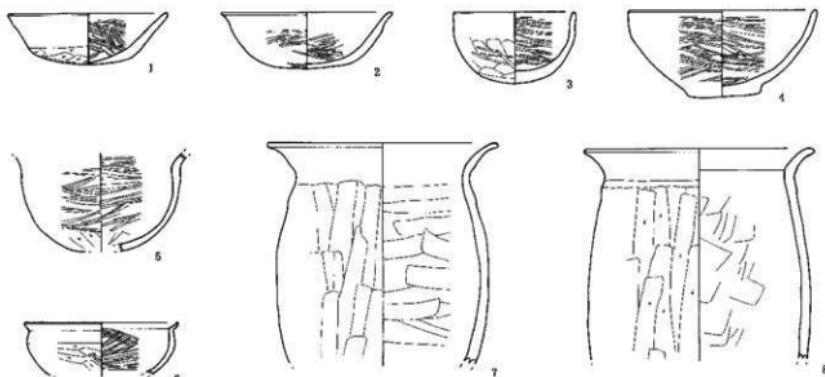
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム、礫石、炭化物含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、礫石、炭化物含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 燃土少數含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、粘土粒、炭土、ローム、礫石含む。
- 5 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 全体的に燃土化。ローム・暗褐色土の混合土。
- 6 泥灰色土 (2.5YR5/1) 灰層。
- 7 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 燃土化した粘土。ローム・暗褐色土の混合土。
- 8 泥灰色土 (2.5YR6/1) 灰層。

第97図 H 1号住居址実測図

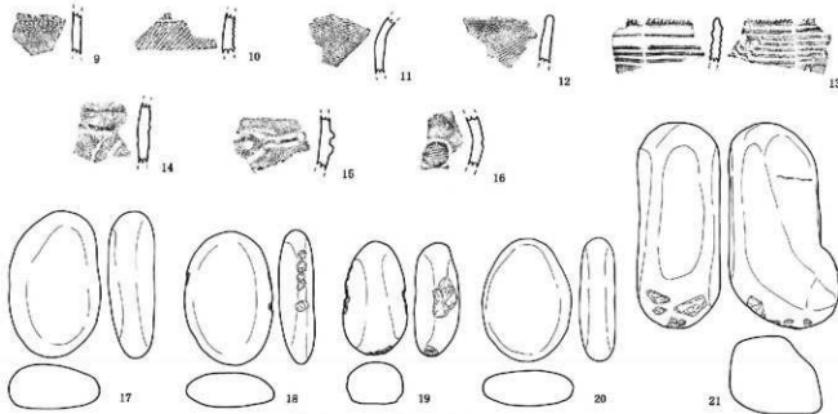
- 9 油灰色土 (2.SYR5/1) 灰褐色。炭化物、焼土含む。
 10 赤褐色土 (2.SYR4/6) 烧土層。
 11 黒褐色土 (7.SYR4/3) ローム多く、焼土、炭化物含む。
 12 黑褐色土 (7.SYR2/3) ローム多く、焼土、炭化物含む。
 13 黑褐色土 (10YR3/2) 黒色土^{マサカ}、輕石、炭化物、ローム^{マサカ}含む。
 14 黑褐色土 (10YR3/4) 黑褐色土^{マサカ}、輕石、炭化物含む。
 15 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、輕石、炭化物含む。
 16 暗褐色土 (10YR2/3) ローム、炭化物、輕石含む。
 17 黑褐色土 (10YR2/3) 黑色土と暗褐色土の混合土。炭化物、燒土含む。
 18 黑褐色土 (10YR2/3) 黑色土と暗褐色土の混合土。炭化物、燒土含む。
 19 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム、炭化物、輕石含む。
 20 墓褐色土 (10YR3/3) 黑色土とロームの混合土。マツタ状。
 21 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、輕石、炭化物含む。
 22 墓褐色土 (10YR3/3) ローム、輕石やや多い。
 23 墓褐色土 (10YR4/4) ローム多い。輕石含む。
 24 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、輕石含む。しまりなし。
 25 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) ローム主体。
 26 墓褐色土 (10YR3/3) ローム、燒土、炭化物少含む。
 27 墓褐色土 (10YR3/4) ローム、輕石やや多い。
 28 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム多い、輕石含む。
 29 墓褐色土 (7.5YR4/3) 燃土、炭化物少含む。
 30 明赤褐色土 (2.SYR5/6) 燃土含む。
 31 にぶい赤褐色土 (2.SYR5/4) 燃土化した粘土。
 32 暗赤褐色土 (SYR2/4) 燃土化した粘土。
 33 墓赤褐色土 (2.SYR3/4) 硬質、燃土化した粘土。
 34 墓赤褐色土 (5YR3/4) 粘土。
 35 墓褐色土 (7.5YR4/3) 硬質、貼り床。ローム多い。
 36 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体。暗褐色土含む。
 37 墓褐色土 (7.5YR2/3) ローム、炭化物含む。
 38 墓褐色土 (10YR5/1) 白色粘土。燒土含む。
 39 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム主体。炭化物含む。
 40 墓褐色土 (10YR3/4) 黑褐色土ブロック、炭化物、燒土含む。
 41 にぶい黄褐色土 (10YR6/4) ローム主体。暗褐色土粒、炭化物含む。
 42 墓褐色土 (10YR3/4) しまりなし。周溝。
 43 黑褐色土 (10YR2/3) 黑色土、ローム、褐色土の混合土。
 44 墓褐色土 (10YR4/6) ローム主体。褐色土少含む。
 45 墓褐色土 (10YR4/4) ローム主体。褐色土含む。
 46 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体。褐色土含む。
 47 墓褐色土 (10YR4/6) ローム主体。

遺構は調査区南東のB-1-5グリッド周辺に位置する。遺構の南及び東側の一部は調査区域外となる。調査規模は、南北5.2m、東西8.6m、確認面から床面までの深さは65cm内外を測る。試掘調査の結果を考えると、一辺10mを越える大型の住居址である。平面形態は調査状況から方形と思われる。床面は壁際の一部を除き土間状の貼り床が認められ、硬質である。壁際には幅20cm内外、深さ15cm内外の溝が巡っている。カマド両脇の壁溝北側には北壁に沿って、幅5~20cmのテラスが存在した。ピットは床面上で9個、掘方で2個が認められた。P1~P2が北側の主柱穴で、大型の住居址であることから、主柱穴間に補助的なP3・4・5が立てられたと考えられる。ピットの深さは、いずれも50cm以上を測る。P6は位置的にカマド脇の貯蔵穴の役割があった可能性が窺える。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築されている。カマドの土台は地山のロームで削り出し、これを粘土で覆う構造である。天井部は崩落しているが、袖部分は比較的良好な状態で確認できた。袖に挟まれた火床部分には、直径50cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。

遺物は土師器の壺・鉢・甕、須恵器の壺、縞物石・敲石が出土した。このほかに混入品として、破片だが繩文土器・弥生土器が出土している。繩文土器については、本報告書と合冊である西・本柳遺跡Ⅶから形状の窺える繩文後期の土器が出土している。本住居址は6世紀、古墳時代としたい。



第98図 II 1号住居址遺物断面図 (1)



第99図 H1-1号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	測定・文様		残存率・部位	備考
						外側底部及び内面底部へア削り・体部横ナギ	内面底部から外側へア削り・内面横ナギ		
1	土師器	环	12.6	丸底気味	4.3			70	外面7.5YR5/6褐色
2	土師器	环	13.1	丸底気味	4.2			40	外面7.5YR5/4にぶい褐色
3	土師器	环 [10]		丸底気味	5.9	体部内面下部・斜面あり、内面横ナギ	外側底部から外側へア削り・内面横ナギ	40	外面7.5YR6/3にぶい褐色
4	土師器	棒	16.5	6	7.1	体部内面下部・斜面あり、内面横ナギ	外側底部から外側へア削り・内面横ナギ	80	外面7.5YR5/3にぶい褐色
5	土師器	棒	-	-	(9)	体部内面下部・斜面あり、内面横ナギ	外側底部から外側へア削り・内面横ナギ	40	外面7.5YR5/2灰褐色
6	土師器	环 [12.6]			(4.3)	外側へア削り底ミガキ・口縁横ナギ 内面ミガキ	外側へア削り底ミガキ・口縁横ナギ 内面ミガキ	30	外面7.5YR5/6褐色
7	土師器	盤	[19]	-	(18.2)	外側縫ヘア削り 口縁横ナギ 内面横ヘラナギ	口縫ヘア削片	外側SYR6/6橙色	
8	土師器	盤	[18.2]	-	(17.3)	外側縫ヘア削り 口縁横ナギ 内面横ヘナナギ	口縫ヘア削片	外側SYR6/6明赤褐色	
9	陶生土器	壺	-	-	-	外面部色彩、山形文内側火文	縫部破片	外側10R3/6褐色	深入遺物
10	陶生土器	壺	-	-	-	外角平行沈縫内側縫裂線文	縫部破片	外側10YR7/4H赤褐色	深入遺物
11	陶生土器	壺	-	-	-	外縫縛跡	縫部破片	外側7.5YR7/6褐色	深入遺物
12	陶生土器	壺	-	-	-	口縁横ナギ後外縫縛跡剥皮状文	口縫破片	外側7.5YR7/4H赤褐色	深入遺物
13	陶生土器	深钵	-	-	-	口唇部斜面 外面横沈文 文内縫横沈文・沈縫文	口縫破片	外側10YR4/4H赤褐色	深入遺物
14	陶生土器	深钵	-	-	-	外縫縛・斜沈文 突や表凹縫	縫部破片	外側10YR4/2H褐色	深入遺物
15	陶生土器	深钵	-	-	-	外縫縛・斜沈文 沈縫横沈文	縫部破片	外側10YR4/2H褐色	深入遺物
16	陶生土器	深钵	-	-	-	外縫縛・斜沈文 沈縫横沈文	縫部破片	外側10YR4/2H褐色	深入遺物
17	石器	圓錐物	12	7.4	3.7	被熱なし 色斑めらか、すりに使用か?	525.62	I区出土	
18	石器	圓錐物	11	7.1	2.8	被熱なし 右側に施打痕	294.88	I区出土	
19	石器	圓錐物	9.3	5.1	3.5	やや赤み・黒色化。被熱あり? 斜面に抉り状の剥離	228.05	II区出土	
20	石器	圓錐物	10	7.3	3	被熱なし 表面めらか、すりに使用か?	262.56	II区出土	
21	石器	扁石	16.8	9	5.8	全体に赤褐色 被熱あり? 下部に敲打痕	1416.42	全体に赤褐色	

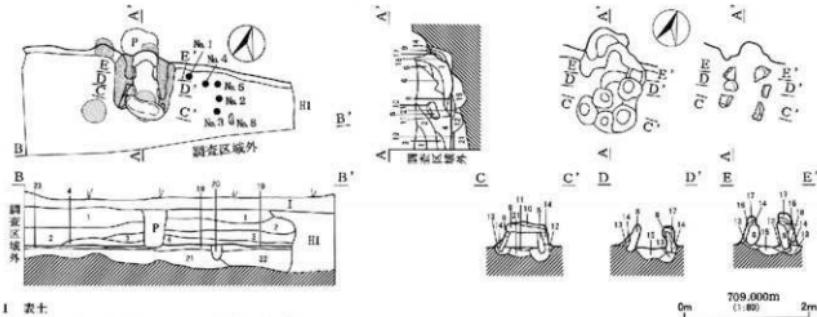
第24表 H1-1号住居址遺物観察表

H2号住居址

造構は調査区南西のB-1-6グリッドに位置し、東側をH1に切られ、カマドなど一部を単独ピットに切られる。南及び西側は調査区域外となる。調査規模は最大で南北1.7m、東西4.4m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は試掘調査の状況から方形と思われる。調査範囲での床面は壁際の一部を除き、全体に貼り床され硬質である。壁溝と考えられる明確な掘り込みは認められなかった。ピットは確認できなかった。カマドは北壁に構築され、芯材に石を利用し、粘土で覆って構築していた。天井部は崩落しているが、両袖及び焚口部の天井石が残存していた。カマドの内壁と煙道部への立ち上がり壁面は熱により硬質化していた。焚口部の天井石直下に径40cm、深さ5cmの焼土が堆積していた。また、カマド西側には床面上に円形の焼け込みと北壁部に抉り込むように粘土が張り付

いていることから、以前は西側にカマドが存在し、東側に造り替えた可能性が考えられる。カマド東脇からは、形状の残る土器が出土した。掘方は10~20cmを測り、3cm内外の硬質な貼床直下に極暗赤褐色土と褐色土が埋め込まれていた。

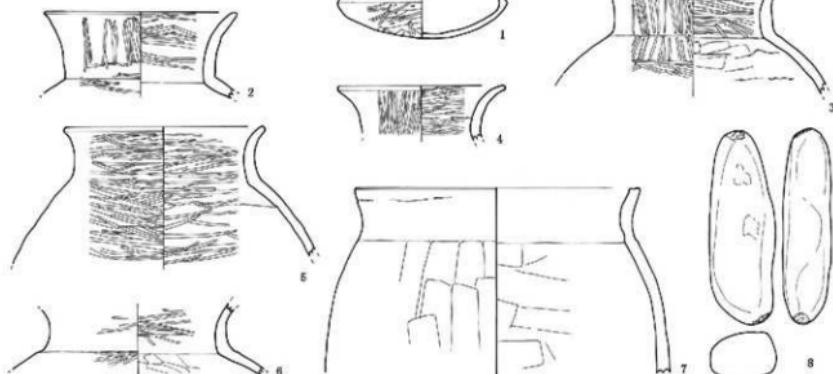
遺物は土師器の壺・甕、須恵器の壺・高台付壺・甕、敲石及び炭化米が出土した。カマド横から出土した土器は、甕の胴上半部から口縁部までを輪切りにした状態で土器の器台として使用していた可能性が窺える。壺は体部途中に明瞭な稜を作った壺である。時期は壺の特徴から6世紀・古墳時代後期としたい。



1 表土

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 軽石、ローム、黒色土ブロック含む。
- 2 喬褐色土 (10YR2/3) 褐色土ブロックやや多い。ローム、軽石、炭化物含む。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 黒褐色土ブロック、炭化物含む。
- 4 喬褐色土 (10YR2/3) ローム、炭化物、粘土ブロック、粘土含む。
- 5 にごい赤褐色土 (5YR3/4) 焙土化した粘土ブロック。
- 6 喬褐色土 (2.5YR3/4) 焙土化した粘土ブロック、炭化物、灰多い。しまりなし。
- 7 喬褐色土 (5YR2/4) 粘土、焼土、灰、炭化物多い。
- 8 喬褐色土 (7.5YR5/1) 白色粘土層。
- 9 喬赤褐色土 (5YR3/6) 焙土、炭化物含む。
- 10 喬赤褐色土 (2.5YR3/3) 焙土化した粘土。
- 11 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焙土層。
- 12 黑褐色土 (10YR2/3) 焙土、炭化物含む。
- 13 にごい黄褐色土 (10YR4/3) 灰、焙土、炭化物。

- 14 底褐色土 (7.5YR4/2) 焙土層。
- 15 黑褐色土 (10YR2/3) 黑色土とロームの混合土。焙土、炭化物含む。
- 16 にごい赤褐色土 (2.5YR5/6) 焙土化した粘土層。
- 17 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 焙土化した粘土層。
- 18 にごい赤褐色土 (5YR4/3) 焙土、炭化物含む。
- 19 喬褐色土 (7.5YR4/3) 床面。灰質。
- 20 喬褐色土 (10YR3/3) ローム、軽石、炭化物含む。
- 21 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 黑色土とロームの混合土。
- 22 梅色土 (7.5YR4/4) ローム主性。暗褐色土含む。
- 23 灰褐色土 (7.5YR4/2) 床面。硬質。

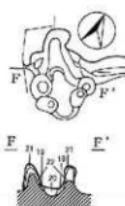
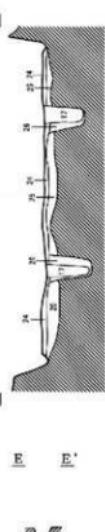
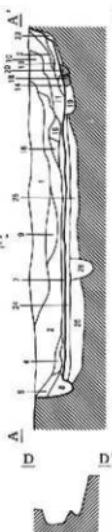
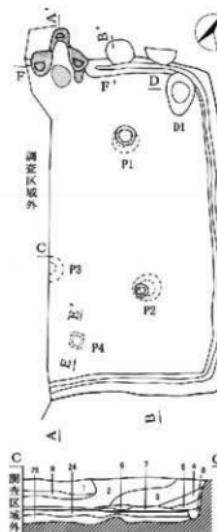


第100図 H2号住居址構造・遺物実測図

番号	器 構	器 形	口径cm	底径cm	器高cm	調 整・文 横		残存・部位	備 考
						内面横幅から外側半径を引いた部分の子	口縁横ナギ		
1	土師器	壺	12.7	13.9	4.8	口縁外側横ミガキ、内面横ミガキ	口縁横ナギ	90	外面7.5YR5/4にぶい褐色
2	土師器	壺	15.6	—	(7)	口縁外側横ナギ、内面横ミガキ、厚壁	口縁横ナギ	口縫100	外面7.5YR4/3褐色
3	土師器	壺	15.4	—	(9.8)	口縁外側横ナギ、内面横ミガキ、厚壁	口縁横ナギ	口縫90	外面7.5YR5/3褐色
4	土師器	壺	13.7	—	(4.5)	口縁外側横ミガキ、内面横ミガキ	口縁横ナギ	口縫90	外面7.5YR7/0橙色
5	土師器	壺	16.3	—	(11.4)	口縁外側横ミガキ、内面横ミガキ	口縁横ナギ	口縫100	外面7.5YR5/4褐色
6	土師器	壺	—	—	(5.8)	表面剥離、内面横ミガキ	表面剥離片	表面7.5YR5/4にぶい褐色	
7	土師器	壺	[23.2]	—	(15.1)	口縁外側横ナギ、外縁ヘラ削り、内面ヘラナギ	口縫ヘラ削り	口縫～脚部破片	外面7.5YR5/4にぶい褐色
番号	器種	器形	最大径(cm)	最大高(cm)	最大深(cm)	調 整・文 横	重量(g)	備 考	
5	右脚	砾石	15.9	5.4	3.8	上下端部に鋸刃痕	549.17		

第25表 H2号住居址遺物観察表

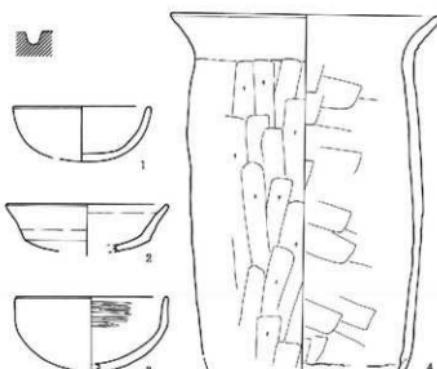
H3号住居址



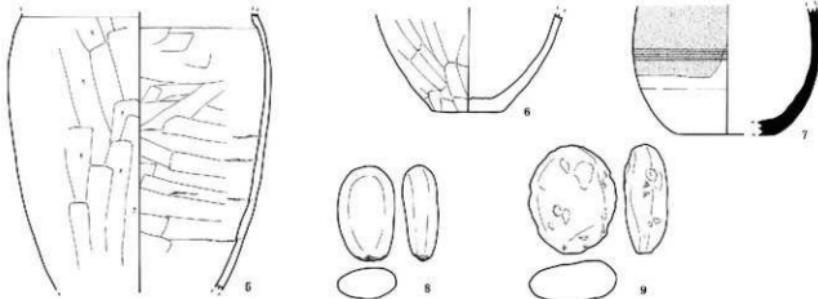
0m 70.9100m (1:100) 2m

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) ローム、砾石、炭化物含む。
- 2 暗赤褐色土 (10YR3/4) ローム、砾石、炭化物、黒色土アゲハロームアゲハローム含む。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ローム、砾石、炭化物、土色やや多い。
- 4 暗赤褐色土 (5YR3/4) 炭化物、土色多く含む。
- 5 砂褐色土 (5YR3/3) 炭化物、土色やや多く含む。
- 6 にぶい赤褐色土 (7.5YR6/3) ローム含む。
- 7 暗褐色土 (7.5YR4/2) ローム、土色、炭化物含む。
- 8 黑褐色土 (7.5YR4/3) ローム、砾石、炭化物含む。
- 9 黑褐色土 (10YR2/3) 灰土、炭化物、ローム、砾石含む。
- 10 にぶい橙色土 (2.5YR6/3) 粘土主体、白色粘土アゲハローム粘土アゲハローム含む。
- 11 にぶい赤褐色土 (2.5YR4/4) 粘土主体、橙色粘土アゲハローム含む。

- 12 晴赤褐色土 (2.5YR3/2) 淀泥。
- 13 にぶい赤褐色土 (5YR4/3) 灰土、灰、炭化物多く含む。
- 14 明褐色土 (7.5YR7/1) 白色粘土層。
- 15 深褐色土 (5YR5/2) 白色粘土アゲハローム、褐色粘土アゲハローム含む。
- 16 深褐色土 (7.5YR4/2) ロームアゲハローム、炭化物、粘土粒少々含む。
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) ローム、砾石、炭化物含む。
- 18 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 粘土層。
- 19 暗褐色土 (7.5YR4/3) ローム多い。炭化物、土色、炭化物。
- 20 深灰色土 (5YR4/1) 灰土、炭化物含む。
- 21 赤白色土 (10YR5/6) 赤色粘土層。
- 22 灰白色土 (7.5YR5/2) 灰白色粘土。
- 23 暗褐色土 (7.5YR4/2) 粘土アゲハローム、ローム、炭化物含む。
- 24 灰褐色土 (7.5YR4/2) ロームアゲハローム、炭化物、砾石含む。
- 25 にぶい褐色土 (7.5YR5/4) ローム主体。褐色土、炭化物含む。
- 26 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) ローム主体。褐色土、砾石含む。



第101図 H3号住居址造構・遺物実測図



第102図 H3号住居址遺物実測図

遺構は調査区北西のB-1-4グリッドに位置し、西側の約半分は調査区域外となる。調査規模は南北5.3m、東西2.9m、確認面から床面までの深さは60cmを測る。平面形態は方形と思われる。床面は壁際を除き貼り床が施され、硬質である。壁際には幅10cm内外、深さ15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で2個、掘方で2個確認できた。P1・2は主柱穴である。主柱穴は、床面上で柱底部のみ軟質で、周辺の掘方部上面は貼り床され硬質であった。カマドは北壁に構築され、土台を地山のロームを削り出し、これを粘土で覆うように構築されている。天井部は崩落しているが、袖部は比較的良好な状態であった。火床部分には径40cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。掘方は15~25cmを測り、3cm内外の硬質面直下に、にぶい褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の壺・甕、須恵器の壺、すり石、敲石が出土した。時期は体部に明瞭な稜を伴う土師器壺、甕の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。

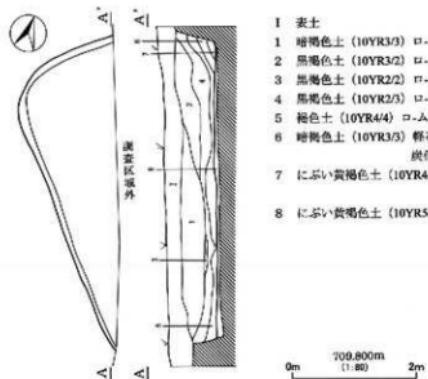
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様		残存率・部位	備考
						外縁	内縁		
1	土師器	壺	[11.4]	丸底	4.6	口縁横ナギ 外縁ヘラ削り付ミガキ	内面ミガキ	25	外面5YR5/6明赤褐色
2	土師器	杯	[13.4]	丸底	[0.9]	口縁横ナギ 外縁ヘラ削り付ミガキ	内面ミガキ	体部～口縁破片	外面7.5YR4/3褐色
3	土師器	壺	[12.6]	丸底	[6.3]	口縁外縁横ナギ 底部から体部へラ削り	内面ミガキ	体部～口縁破片	外面7.5YR5/4C赤褐色
4	土師器	壺	22	—	[29.0]	口縁横ナギ 外縁ヘラ削り	枝附・表面粘土付着 内面ミガキ	70	外面5YR6/2灰褐色
5	土師器	甕	—	—	[22.7]	外縁ヘラ削り	内面ヘラナギ 縫合線	縫合線片	外面5YR5/4C灰褐色
6	土師器	甕	—	—	[5.7]	外縁ヘラ削り	内面ヘラナギ 表面被熱・斑点付着	底部～側部破片	外面2.5YR4/2灰褐色
7	須恵器	壺	—	—	[7.7]	—	内外面クロナガ 底部及び側部へラ削り 自然釉付着	底部～側部破片	外面5Y8/1灰褐色
番号	器種	器形	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	調査・文様	重(㌘)	参考	
8	石器	敲石	7.8	4.6	2.8	先端部敲打痕	130.3		
9	石器	すり石	9	7.2	3.4	全体にドリ痕	76.3		

第26表 H3号住居址遺物観察表

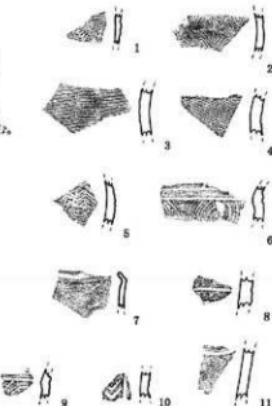
H4号住居址

遺構は調査区北東のA-1-3グリッドに位置する。遺構東側の大半は調査区域外である。調査規模は、北壁1.8m、西壁4.6m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面はやや硬さを持つ。壁溝、ピットは確認できなかった。貼床の硬質面直下は地山となり、明確な掘り込みは認められなかった。

遺物は縄文土器（後期）、弥生土器（赤色塗彩された壺、櫛描波状文の甕）、土師器甕、須恵器甕が出土した。いずれも小破片である。弥生時代と異なる時期の遺物が出土しているが、掘方の認められない床の状況等から弥生時代の可能性が高い。新しい土器は、山林になる以前に行われた耕作等によって混入したと考えられる。



第103図 H4号住居址構造・遺物実測図

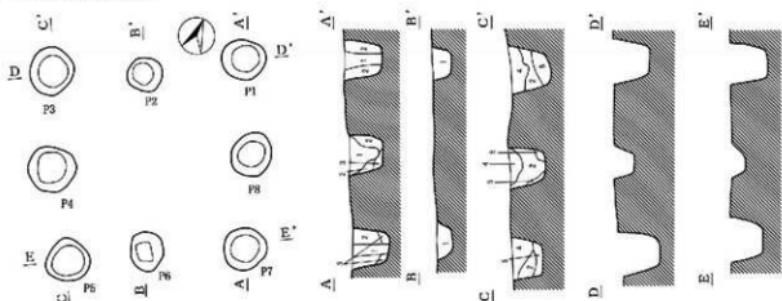


番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測定文様	残存率・部位	備考
1	陶生土器	甕	-	-	-	外面部横波状文	全体破片	外側10YR7/4にぶい黄褐色
2	陶生土器	甕	-	-	-	外面部横波状文	全体破片	外側10YR7/4にぶい黄褐色
3	陶生土器	壺	-	-	-	外面部横波状文	側部破片	外側7.5YR7/4褐色
4	陶生土器	甕	-	-	-	外面部横波状文	側部破片	外側10YR7/4にぶい黄褐色
5	陶生土器	甕	-	-	-	外面部横波状文	側部破片	外側5YR5/4にぶい青褐色
6	鐵文土器	深鉢	-	-	-	外面部平行波紋、弧状沈	破片	外側10YR6/4にぶい青褐色
7	鐵文土器	深鉢	-	-	-	内外面ナメ	破片	外側10YR6/4にぶい青褐色
8	鐵文土器	深鉢	-	-	-	外面部沈文	破片	外側7.5YR6/4にぶい青褐色
9	鐵文土器	深鉢	-	-	-	外面部・斜面沈文	破片	外側10YR6/4にぶい青褐色
10	鐵文土器	深鉢	-	-	-	外面部・斜面沈文	破片	外側10YR5/3にぶい青褐色
11	鐵文土器	深鉢	-	-	-	外面部沈文	破片	外側10YR6/4にぶい青褐色

第27表 H4号住居址遺物観察表

第5節 据立柱建物址 (F)

F 1号据立柱建物址



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) ロム少量含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) ロムと暗褐色土の混合土。
- 3 暗褐色土 (10YR4/4) ロム主体。暗褐色土含む。
4 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物、焼土少量含む。
5 黑褐色土 (10YR2/3) ロムアマガ、炭化物含む。

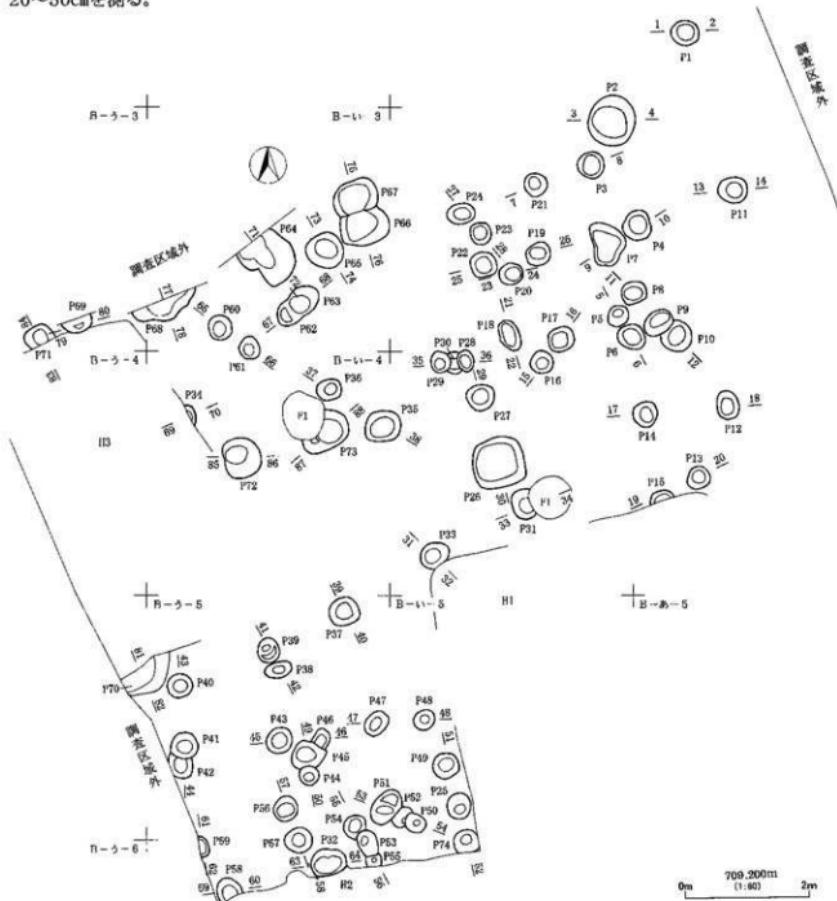
0m 70.000m
(1:40) 2m

第104図 F 1号据立柱建物址実測図

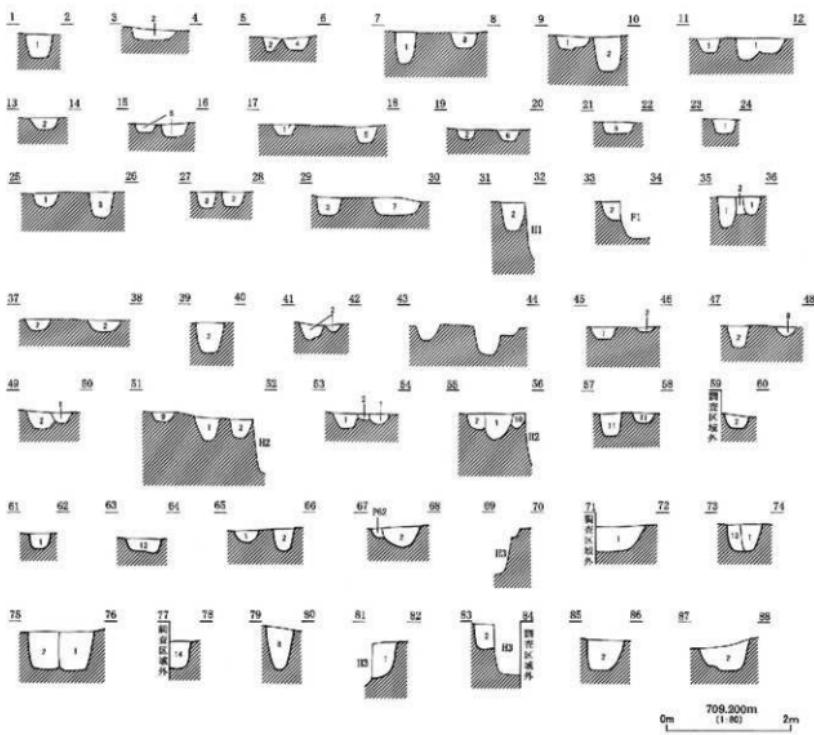
遺構は調査区中央のB-あ-4グリッドに位置する。2間×2間の側柱である。P2とP6は他のピットに比べ浅いことから補助的なピットである可能性も考えられる。全体規模は南北3.8m、東西3.8mを測る。ピットの形状は円形で、規模は径70cm内外、深さはP2・6が30cm、それ以外は60cm内外を測る。遺物はピット内から弥生土器、土師器壺・甕の破片等が出土した。時期は、古墳時代の住居址を切り、奈良・平安時代の土器が含まれることから、奈良・平安時代としたい。

第6節 ピット(P)

規則性の配列が認められないピットを単独ピットとして取り扱った。平面形態は基本的には円形又は梢円形である。覆土は黒褐色土、暗褐色土が認められる。規模は大半が径40cm内外を測り、深さは20~50cmを測る。



第105図 ピット実測図



- 1 深褐色土 (10YR2/3)
- 2 暗褐色土 (10YR3/1)
- 3 黑褐色土 (10YR2/2)
- 4 黑褐色土 (10YR3/2)
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) ロームや多い。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) ローム多い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/5) ロームブロック多い。

- 8 喀色土 (10YR3/4)
- 9 深い黄褐色土 (10YR4/3)
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 粒石多い。
- 11 黑褐色土 (10YR2/3) 粒石多い。
- 12 暗褐色土 (7.5YR3/3) ローム、粒石、塊土、炭化物含む。
- 13 黄色土 (10YR4/6)
- 14 暗褐色土 (10YR3/5) 斑状。

第1106図 ピット実測図



西近津造跡群西近津造跡IX全景（北から）



西近津造跡群西近津造跡IX全景（南から）



調査風景1（南から）



調査風景2（南東から）



H1号住居址全景（西から）



H1号住居址カマド全景（南から）



H1号住居址カマド場所（南から）



H1号住居址掘方（南西から）



H1号住居址カマド造り出し（南から）



H2号住居址全景（東から）



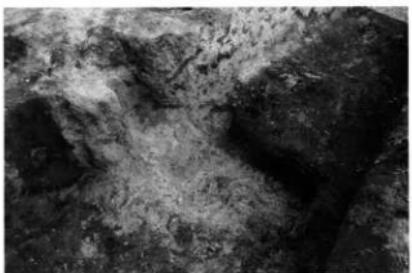
H 2号住居址カマド（南から）



H 2号住居址カマド焚き口天井石除去後（南から）



H 2号住居址遺物出土状況



H 2号住居址カマド堀方（南西から）



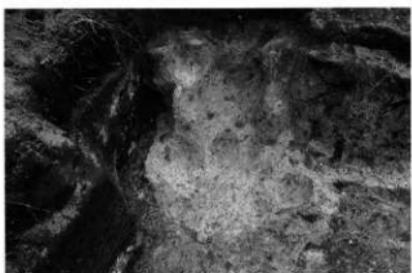
H 2号住居址堀方（北西から）



H 3号住居址全景（南から）



H 3号住居址カマド（南から）



H 3号住居址カマド堀方（南から）



H 3号住居址掘方（南から）



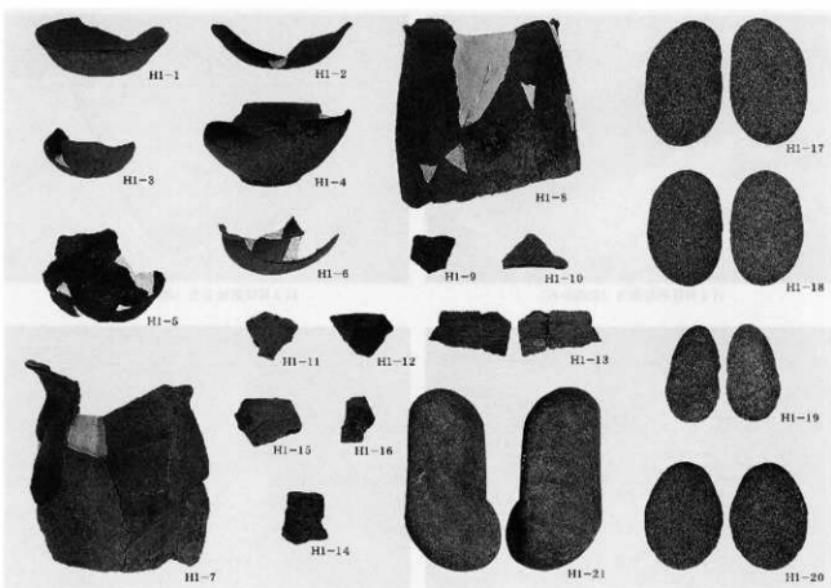
H 4号住居址全景（南から）



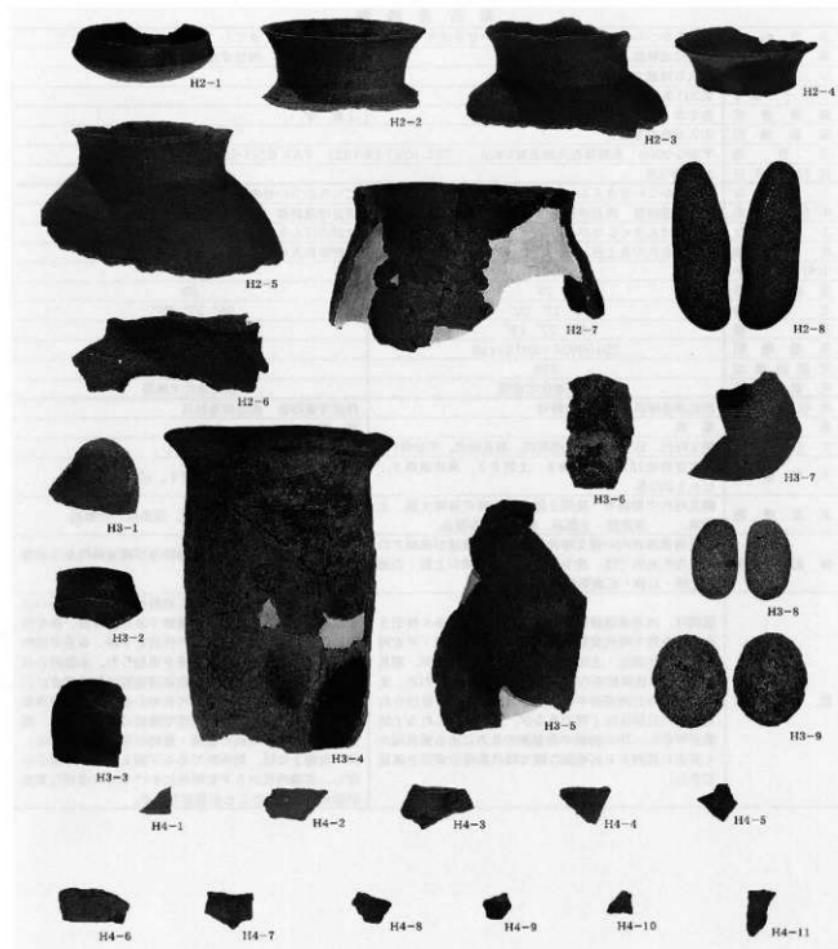
H 4号住居址掘方（北から）



F 1号掘立柱建物址全景（東から）



H 1号住居址出土遺物



H 2 · 3 · 4 号住居址出土遺物

報告書抄録

ふりがな 番名	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち 西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅶ	にしちかついせきぐん にしちかついせききゅう 西近津遺跡群 西近津遺跡IX
シリーズ番号	佐久市埋蔵文化財調査報告書	
編著者名	第207集 佐々木 宗昭 林 幸彦	上原 学
編集機関	佐久市教育委員会	
所在地	〒385-0006 長野県佐久市志賀5953	TEL 0267-68-7321 FAX 0267-68-7323
発行年月日	2013年3月	
ふりがな 所収遺跡名	にしちかついせきぐん にしちかついせきはち 西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅶ	にしちかついせきぐん にしちかついせききゅう 西近津遺跡群 西近津遺跡IX
ふりがな 所在地	ながのけんさくしながとろ 長野県佐久市長上1796-2, 1796-4	ながのけんさくしながとろ 長野県佐久市長土山1764-1, 1764-15
市町村コード	20217	20217
遺跡番号	29	29
北緯	36° 17' 02"	36° 17' 06"
東経	138° 27' 19"	138° 27' 24"
発掘期間	2010.9.27~2010.11.26	2011.11.24~2011.12.08
発掘面積m ²	598	170
発掘原因	長屋建住宅建築	長屋建住宅建築
所収遺跡名	西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅶ	西近津遺跡群 西近津遺跡IX
種別	集落	集落
主な時代	縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代	弥生時代、古墳時代、平安時代
主な遺構	堅穴住居址25、円形溝溝3、土坑37、溝状遺構3、ピット202基	堅穴住居址4、掘立柱建物址1、ピット
主な遺物	縄文時代中期後半・後期土器、弥生時代後期土器、土師器、須恵器、上製品、鐵製品、石製品	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石製品
特記事項	西近津遺跡群内の縄文時代後期集落の東端が確認された。佐久市内では、希少な縄文時代後期の土器・石器・土偶・石碑・石劍等が出土した。	弥生時代から古墳時代の集落跡及び縄文時代から古墳時代の遺物が発見された。
摘要	遺構は、西近津遺跡群や周辺の遺跡群で数多く検出されている弥生時代後期・古墳時代・奈良時代・平安時代の堅穴住居址・土坑・溝状遺構等であったが、初回の縄文時代後期前半の敷石住居址が1軒確認された。また、縄文時代後期前半の遺構と遺物が多量に検出された。堅穴住居址は1軒であるが、墓坑とみられる土坑群が存在し、JR小海線中佐駅の北方にある鶯林城から東方に展開する広範囲な縄文時代集落の東端を確認できた。	佐久地域特有の浅間山麓から放射状に伸びる細長い田切地形の台地上に展開する遺跡である。今回、弥生時代の住居址1軒、古墳時代の住居址3軒、奈良平安時代の掘立柱建物址1棟の調査を実施した。本遺跡の周辺では、東側の中継横断自動車道建設に伴う調査において、弥生時代から平安時代を中心とする遺構が多数検出され、南側では長屋建住宅建設に伴う調査で、縄文時代から平安時代の遺構・遺物が発見されている。同一台地上には、局所的であるが縄文時代の集落が存在し、古墳時代から平安時代にかけては大規模な集落が形成されていたことが想定される。

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第207集

西近津遺跡群 西近津遺跡Ⅶ

西近津遺跡群 西近津遺跡IX

2013年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社

